

2016.06.01

学生と教員が共に前進する

授業評価レポート

2015年度 第7巻



学校法人 佑愛学園 **愛知医療学院短期大学**

## 第7巻 授業評価レポート発刊に寄せて

平成27年度の授業評価レポート集が完成しました。いつも発刊に向けて時間とエネルギーを費やしてくれている関係部署の教職員の皆さんに対して、感謝と敬意の意を表します。

さて、近年の高等教育機関に求められる事柄としては、アクティブラーニング、ICT教育、IRの活用、GPA制、ルーブリック評価法、ポートフォリオ、ラーニングコモンズ等々、横文字ばかりが並び、しかも一つ一つ簡単に実行できるものではありません。教職員はこれらのことを学び、頭に入れて授業にあたっていますが、それが学生に上手く伝わっているかどうかは疑問です。これらの全てが最終的には学習成果に結びつくものなので、教職員にとって大変でも苦しかろうともすべてを理解した上で、学生に対処することが求められています。

そのことを踏まえて、このレポートをきちんと読んで、次からの授業に活かしていくことが必要と考えます。

FD&SD 委員会委員長  
舟橋啓臣



# 目次

## ■ 資料

1. 学生による授業評価アンケート設問項目
2. 学生による授業評価アンケートの回答方法
3. 学生による授業評価アンケートの実施要項
4. 学生による授業評価アンケートの実施要領

## ■ 授業評価レポート

1. 心の理解	5
2. 現代社会の理解	6
3. 情報処理	8
4. 外国語 1 (英会話)	9
5. 外国語 2 (韓国語会話)	10
6. 外国語 3 (中国語会話)	11
7. 英文講読	12
8. 現代語コミュニケーション	13
9. 人間関係論	15
10. レクリエーション	16
11. 健康運動とスポーツ	17
12. 生物と環境	18
13. 生命の科学	19
14. エネルギーのしくみ	20
15. 解剖学実習	21
16. 人体触察法実習 (PT)	22
17. 人体触察法実習 (OT)	23
18. 生理学	24
19. 生理学実習	25
20. 運動学総論	26

21. 運動学 I (頭頸部・上肢) .....	27
22. 運動学 II (体幹・下肢) .....	28
23. 運動学実習 (PT) .....	29
24. 運動学実習 (OT) .....	30
25. 人間発達学 .....	31
26. 一般臨床医学 .....	32
27. 公衆衛生学 .....	33
28. 臨床心理学 .....	34
29. 内科学 .....	36
30. 整形外科学 .....	37
31. 神経学 .....	38
32. 小児科学 (PT・OT) .....	39
33. 安全管理・救急対処論 .....	40
34. リハビリテーション概論 .....	41
35. リハビリテーション倫理 .....	42
36. 社会福祉学 .....	43
37. 障害支援とアシスタンスドッグ .....	44
38. 障害者スポーツ演習 .....	45
39. 理学療法概論 .....	46
40. 臨床運動学 (PT) .....	47
41. 運動療法総論 .....	48
42. 検査測定法 .....	49
43. 検査測定法実習 .....	50
44. 理学療法評価法 .....	51
45. 理学療法評価法実習 .....	52
46. 中枢神経系障害理学療法治療学 .....	53
47. 中枢神経系障害理学療法治療学実習 .....	54
48. 整形外科系障害理学療法治療学 .....	55
49. 整形外科系障害理学療法治療学実習 .....	56

50. 内部疾患系障害理学療法治療学	57
51. 内部疾患系障害理学療法治療学実習	58
52. 小児疾患系障害理学療法治療学	59
53. 小児疾患系障害理学療法治療学実習	60
54. 老年期障害理学療法学	61
55. 日常生活活動学	62
56. 日常生活活動学実習	63
57. 義肢装具学	64
58. 義肢装具学実習	65
59. 物理療法学	66
60. 物理療法学実習	67
61. 理学療法特論Ⅰ（神経生理学のアプローチ）	68
62. 理学療法特論Ⅱ（関節運動学のアプローチ）	69
63. 理学療法特論Ⅲ（筋生理学のアプローチ）	70
64. 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法）	71
65. 理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法）	72
66. 生活環境論	73
67. 地域理学療法学	74
68. 作業療法概論	75
69. 作業療法研究法	76
70. 臨床運動学（OT）	77
71. 基礎作業学	79
72. 基礎作業学実習	80
73. 作業療法評価法	81
74. 作業療法評価法実習	82
75. 身体障害作業評価学	83
76. 精神障害作業評価学	85
77. 発達障害作業評価学	86
78. 作業治療学理論	87

79. 作業療法治療学実習	88
80. 身体障害作業治療学Ⅰ	89
81. 身体障害作業治療学Ⅱ	90
82. 身体障害作業治療学実習	92
83. 精神障害作業治療学	94
84. 精神障害作業治療学実習	95
85. 発達障害作業治療学	96
86. 発達障害作業治療学実習	97
87. 老年期作業療法学	98
88. 日常生活作業学Ⅰ	99
89. 日常生活作業学Ⅱ	100
90. 日常生活作業学実習	101
91. 高次脳障害作業治療学	102
92. 義肢装具作業療法学	103
93. 義肢装具作業療法学実習	104
94. 作業科学	106
95. 人間作業モデル論	107
96. リハビリテーション関連機器	108
97. 地域作業療法学	110
98. 地域作業療法学実習	111
99. 就労支援学	112

# 学生による授業評価アンケート設問項目

(2015年度各科目1回配布)

## 設問項目

### \*授業の内容について

1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか
2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか
3. 授業の内容は、シラバス（講義概要）に沿ったものでしたか
4. 授業の内容は、後輩にも推薦したいと思いませんか
5. シラバスは、理解しやすい内容でしたか

### \*授業の方法について

6. 授業の進み具合は適切でしたか
7. 授業中の教員の声は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか
8. 授業中のマイクの使用は適切でしたか（マイク使用した場合）
9. 板書（黒板）やモニター提示（パソコン）の量、文字の大きさ、書き方などは適切でしたか
10. プリントやビデオなどの補助資料は授業の理解を助けてましたか（補助資料があった場合）
11. 指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切でしたか

### \*授業担当者について

12. 講義の準備を十分にしていたと思いませんか
13. 意欲的に、熱意も持って取り組んでいましたか
14. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか
15. 私語など授業を妨げる行為に対して適切な対応をしましたか
16. 学生が質問したり、意見を述べられるような配慮がなされていましたか

### \*あなたの授業態度について

17. この授業に対して熱心に取り組みましたか
18. 理解できない点などを質問しましたか
19. 予習、復習などの時間をとりましたか
20. この授業に休まずに出席できましたか
21. この授業に遅刻したり、早退せずに出席できましたか
22. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか

### \*総合評価

23. この授業の総合評価を5段階（1.最も悪い～5.最も良い）でしてください。

アンケート資料2

学生による授業評価アンケートの回答方法  
(2015年度各科目1回配布)

科目名： \_\_\_\_\_ 担当教員名： \_\_\_\_\_ 記入日： \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

\*それぞれの質問に次の5段階で回答し、マークシートに記入してください。

- |            |                |
|------------|----------------|
| ①そうは思わない   | ②あまりそう思わない     |
| ③どちらともいえない | ④どちらかと言えば、そう思う |
| ⑤そう思う      |                |

\*17～22の質問には次の5段階で回答し、マークシートに記入してください。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| ①できなかった・しなかった | ②あまりしなかった       |
| ③どちらともいえない    | ④どちらかと言えばできた・した |
| ⑤できた・した       |                 |

\*自由記述

良かった点・改善すべき点など、この授業で受けた感想を自由に書いてください

【追加】科目担当からの追加質問に対する記述欄

# 学生による授業評価アンケートの実施要項

(2015 年度 評価調査実施要項)

## 2015 年度 学生による授業評価実施要項

### 1. 実施目的

学生による授業評価アンケートは、FD委員会規程にもとづいて行われ、アンケート結果を参考に授業の改善をはかり、本学教育の質の一層の向上に資することを目的とする。

### 2. 実施方法

2015 年度開講科目を対象として、各授業単位でアンケートを実施する。

アンケートは、各教員が担当する授業科目で実施する。

アンケートは、各授業の最後の 20 分程度を利用して、学生代表が配布し、その場で回収後に封筒に入れ密封して教育研究推進課に届ける。

### 3. アンケート内容

I. 授業の内容について 5 問

II. 授業の方法について 6 問

III. 授業担当者について 5 問

IV. 学生自身の授業態度について 6 問

V. 総合評価 1 問

VI. 自由記述（授業の良かった点、改善すべき点）

### 4. 調査結果の集計

調査結果の集計は、FD&SD 委員会が行う。

### 5. 調査結果の配布

実施した専任教員および嘱託講師には、個人集計結果ならびに全学集計結果に成績平均点分布表を添えて配布する。

### 6. 実施結果の公表

個人集計結果を除き、全学集計結果を本学ホームページにて公開する。

2015 年度  
FD&SD 委員会

## 学生による授業評価アンケートの実施要領 (2015年度各科目1回)

学生の皆さんへ

### 「学生による授業評価アンケート」への協力をお願い

FD&SD 委員会

本学では「授業の質」を高めることを目的として、毎学期末「学生による授業評価アンケート」を実施しております。このアンケートが皆さんの成績評価に影響を与えることは決してありませんので、安心して率直な回答をお願いします。本学の授業を、より良いものにしていくために自分の意見を反映させるのだ、という気概を持って真剣に取り組んでいただきたく思います。実施を控え皆さんにご連絡すると共にご協力をお願い致します。

実施科目：

全科目・全クラス（但し、3年次演習、アドバイザーミーティング、卒業研究、学外実習、等 特別な科目を除く）

実施時期：

各科目の最終授業日（但し、最終日発表等が予定されている科目については、最終日の1週前の授業）原則として授業の最後に実施します。

実施方法：

「授業評価」実施にあたって、代表の学生にアンケート用紙の配布と回収をお願いすることにします。代表に選ばれた学生の皆さんには、お手数をかけますが、アンケート用紙を回収後、学生支援室教育研究推進課に届けてくださるようお願いいたします。

所要時間：

約 20 分程度

# 科目名 心の理解

- 担当教員 山田 ゆかり
- アンケート実施日 11月30日
- 出席者数 74

## 集計データ結果について

聴きやすい声と話し方、例示などによるわかりやすい説明、整理された板書、使いやすいプリントの編集など、授業方法についての基本的な工夫が学生に受け入れられた結果となっている。数値データに基づく円グラフを見ると、すべての項目においてバランスのとれた形となっている。昨年度の結果でやや評価の低かった項目15(行為注意)、項目16(質問配慮)の評価も改善している。一方で、学生の授業態度についての項目18(質問)、項目19(予習・復習)については、まだ改善の余地があると思われる。授業を通しての実感としては、2専攻合同の大規模クラスであるためか、学生個々のモチベーションに差があり、特に後方の席に着席する学生の私語が気になる。私語などへの注意のために授業の進行がしばしば止まることもある。下記の自由記述でも学生自身が私語を問題ととらえていることが分かるが、学生の興味と集中を持続させるためにはさらなる授業方法の工夫が必要である。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

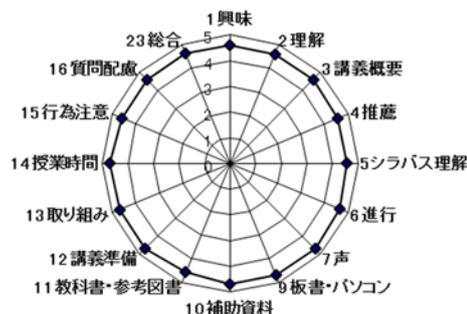
「例による説明がわかりやすい」「興味ある内容」「板書や話し方がわかりやすい」「おもしろかった」等の肯定的な記述が多くあり、授業内容や方法については高く評価されているようである。一方で、「私語を止めない学生は退出させるべき」「もっと注意してほしい」等の記述があり、授業に集中したい学生が私語を迷惑と感じている。ただし、その都度授業を止めて注意するやり方には限界があり、授業進行の妨げになるため、「話す暇がない」ように学生自身が作業したりする工夫をしていくことが大切と考える。実際、授業内容について、心理測定尺度の体験や実験的な要素を取り入れた場面では私語は止むので、大規模クラスのなかでもこうした要素を積極的に取り入れる工夫をさらに持続したい。

## 今後の改善に向けて

基本的には、現在の授業内容、授業方法が学生に受け入れられている結果であり、今後もこれを踏襲していく。しかし、モチベーションが高く理解力もある学生の満足度をさらに上げることと、私語が多く授業に集中できない学生を統制することのバランスを図りつつ、学修意欲を引き出す工夫が必要となる。

教養基礎科目に対する学修意欲を引き出すために、将来の専門性や職務との関連、および「教養」としての位置づけについて積極的に説明している。今後とも、より理解を助けるような教材を作成し、内容の解説を工夫するなどとともに、折にふれて、課題への取組み方の助言を行い、積極的な予習・復習を促していきたい。

平成27年度  
心の理解  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



科目名

# 現代社会の理解

□ 担当教員 中村 麻理

□ アンケート実施日 6月8日

□ 出席者数 53

## 集計データ結果について

「23. この授業の総合評価を5段階でしてください」については「5. 最もよい」が67.9%、「1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか」「2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか」「3. 授業の内容はシラバスにそったものでしたか」「4. 授業の内容は後輩にも推薦したいと思いましたか」「6. 授業の進み具合は適切でしたか」「7. 授業中の教員の声は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか」「8. 授業中のマイクの使用は適切でしたか」「9. 板書やモニター提示の量、文字の大きさ、書き方などは適切でしたか」「10. プリントやビデオなどの補助資料は授業の理解を助けてましたか」「12. 講義の準備を十分にしていたと思いますか」「13. 意欲的に、熱意を持って取り組んでいましたか」「14. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか」「16. 学生が質問したり、意見を述べられるような配慮がなされていましたか」「17. この授業に対して熱心に取り組みましたか」という質問に対しては、「5. そう思う」という回答が6割を超えており、今後もこの傾向を継続できるよう努めたい。その一方で、「15. 私語など授業を妨げる行為に対して適切な対応をしましたか」という項目に関しては、「5. そう思う」の回答が6割に満たなかった。これについては改善の必要があると考える。また、「あなたの授業態度について」も設問17以外は低い評価にとどまっていることから、さらなる工夫が必要であろう。

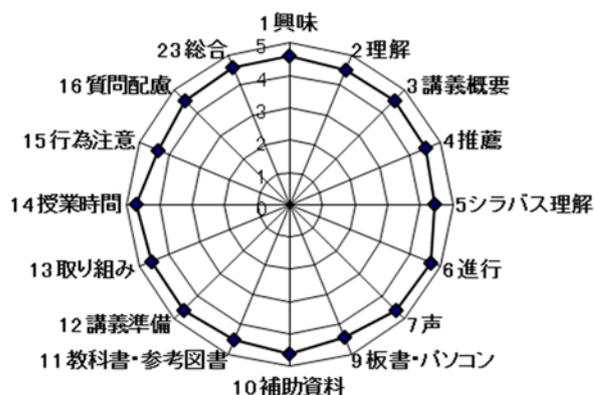
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

感想としての自由記述で最も多く見られたのは、「楽しい内容の授業だった」「面白い内容の授業だった」「ためになった」というものであった。「社会の現状を理解できた」「将来に役立つ」といった意見も見られた。よかった点として、映像教材の使用を評価する記述が複数見られた。身近な具体例を挙げて説明を進めたことも、評価につながっているようである。自分たちの身近なテーマを扱ったことで、学習意欲が高まったようである。他方、改善すべき点としては板書に関する記述が複数見出された。「もっときれいに書いてほしい」「ゆっくり書いてほしい」という意見があった。

## 今後の改善に向けて

既に述べたように、自由記述の結果から、板書に関する改善が必要である。今後は文字を丁寧に書くとともに、スピードにも留意する

平成27年度  
現代社会の理解  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



ように努めたい。また、アンケートの結果では「15. 私語など授業を妨げる行為に対して適切な対応をしましたか」において「5. そう思う」の回答が6割に満たなかった。このことから、静穏な環境づくりについて改善の余地があると思われる。参加型授業のスタイルと静穏な環境の保持を両立できるような工夫を検討していきたい。映像教材の使用、身近な具体例など、学生による評価の高かった事項については、さらなる質の向上に努力していきたい。

# 科目名 情報処理

- 担当教員 横田 正恵
- アンケート実施日 6月10日
- 出席者数 62

## 集計データ結果について

PCの呈示システムを用いた授業方法や、タイピング練習サイトでのタッチタイプ練習は好評であった。シラバスの理解や講義概要は改善の余地があるかもしれない。

本授業は、『今後の大学生活、社会人として基本的なPC操作の習得』を主目的にしている。高校商業科出身で、すでにWordやExcelを高度に使いこなせる学生も受講している一方、PC操作の授業をほとんど受けて来ていない学生も混じっている。どのレベルを基準に授業を組むか、非常に悩むところである。授業内容レベルはすでに分かっている学生には、応用問題を作成してもらうようにしていたが、個別に対応する時間を十分にとれないことが気がかりであった。

期末試験前には、熱心に勉強と練習をしてくれた。これまでになく試験の実施がスムーズであった。学生達は、各時間とも真剣に取り組み、すべての受講者がWord、Excel等の基本操作を習得してくれた。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

試験時間を除くと7回の授業であり、MS-WordとMS-Excelのどちらに授業時間を割くか悩むところである。今年度より、MS-Excelに4回の授業時間を割いており、自由記述欄で授業時間配分に関して意見を聞いた。

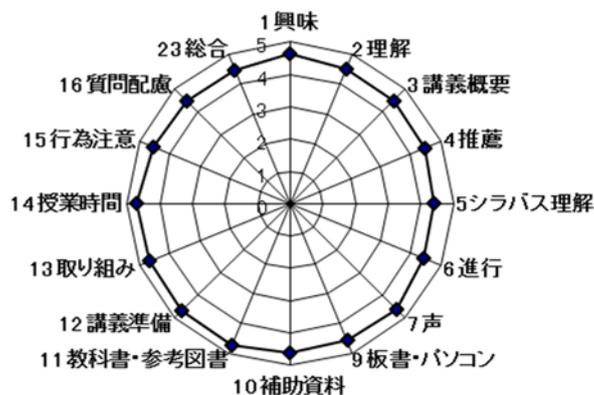
Excelに時間を割いた今年度の配分が妥当である、との記述がほとんどであったが、Excelが難しい、との意見も幾つかあった。次回からは、Excelに慣れていない学生には、事前に『重要な部分』や『聞き逃さないよう』など、注意を促すなどの方策を検討したい。

## 今後の改善に向けて

本授業では、途中まで編集したファイルをUSBメモリに保存し、次回にその続きを実施することがある。USBメモリを忘れてくる学生が増えたように感じている。

昨年度に比べ、休み時間や授業後に学生達と個別に話をすることが少なかった。話やすい雰囲気心を心がけ、学生達と多く雑談を交えて話をし、良い雰囲気を保てるよう努力したい。授業時にも教室を巡回し、各自の進み具合を見ながらサポートするなど、一人一人のために努力を重ねたい。

平成27年度  
情報処理  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 外国語 1 (英会話)

□ 担当教員 JAMES HIGA

□ アンケート実施日 1月29日

□ 出席者数 49

## 集計データ結果について

There are two areas in the data that I want to address:

- 1) Syllabus: the syllabus is written in English so many students could not read it.
- 2) Voice: It seems that some of the students could not hear my voice in the classroom. I will try to use a microphone in class.

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

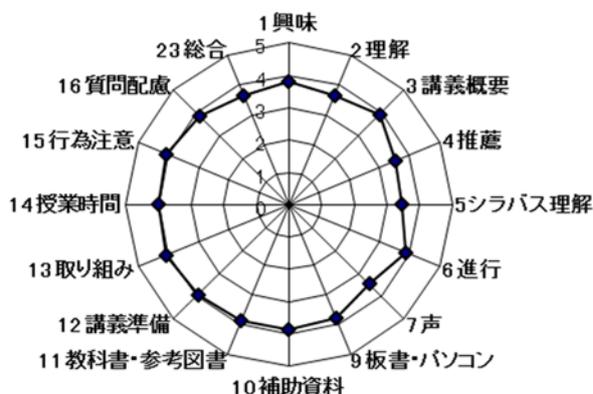
One of the main concerns that the students had written was that the lessons such be done in Japanese because they could not understand the English instructions.

## 今後の改善に向けて

I will need to change the class lessons to change the pace of the class and motivate the students more. Like in previous years, lessons were given in English and I will continue to so. However, I will need to come up with ways to simplify the lessons so that the students can understand and know what is expected of them in class.

It is good to know points that I can improve on and I appreciate the time and honesty of the students.

平成27年度  
外国語1(英会話)  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



## 科目名 外国語 2 (韓国語会話)

- 担当教員 金 春子
- アンケート実施日 8月3日
- 出席者数 51

### 集計データ結果について

学生たちに高い評価をしてもらって、とても嬉しいです。授業の進め方は常に研究、改善です。テレビの語学教室を見ながら参考にしていますが、テレビのように完全な授業にはまだまだ遠いです。生徒たちが楽しく韓国語を学んで、関心をもってくれたら満足です。

### 学生の自由記載の内容を検討した結果

今年は韓国の歌謡曲を1曲(ソウル、ソウル、ソウル)を歌いました。生徒たちはメロデーを覚えるのが、とても早くて感心しました。歌っているときは、あまり関心がないのかと思いましたが、何人かの生徒が、歌が楽しかったと書いていたので、「ああ、楽しかったんだ」とわかりました。来年も韓国の歌を1曲歌いたいと思います。

授業で教科書のCDをたくさん聞きました。正しく、はっきりとした発音は生徒たちには良かったです。

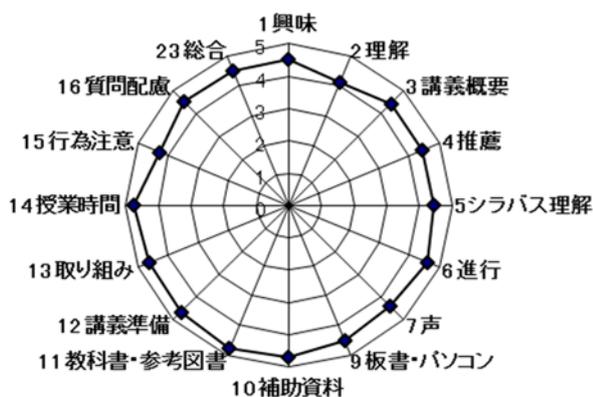
2ヶ月間韓国語を学んで、数名の生徒が韓国のドラマを見たくなったとコメントしていて、韓国に関心を持ってくれたことを嬉しく思います。

### 今後の改善に向けて

「楽しい韓国語」の授業にするために、ハングル、会話、歌謡曲に加え、時間の合間に私が韓国留学で体験したことや、日本と異なる習慣や文化などを伝えていきたいと考えています。

ハングルはひらがなと違い、母音と子音を組み合わせて読まなければならないので、生徒たちは苦勞しています。読みにもう少し時間をかけていく必要を感じています。また生徒たちが話す時間も多くしていきます。

平成27年度  
外国語2(韓国語会話)  
1~5授業内容、6~11授業方法、  
12~16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 外国語3 (中国語会話)

- 担当教員 侯 英梅
- アンケート実施日 6月10日
- 出席者数 23

## ✦ 集計データ結果について

どの項目も高い評点を頂いて、講師として励みになりました。

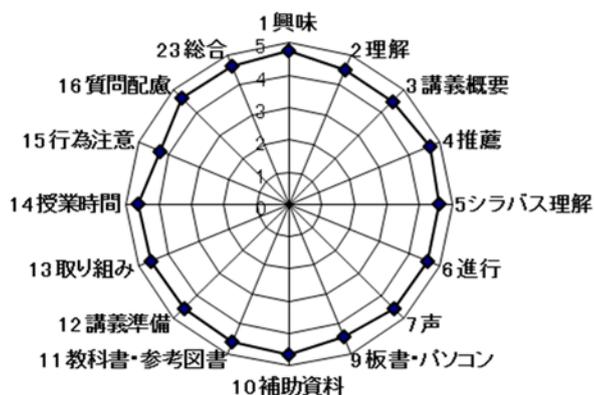
## ✦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

生徒は概ね興味を持って授業に臨み、また授業の内容を概ね理解出来たようで、良かったです。

## ✦ 今後の改善に向けて

生徒がさらに中国語に慣れ親しんでもらえるよう、中国現地事情の話を織り交ぜるなど生徒の関心のある説明を織り込んだ授業を行っていこうと考えています。

平成27年度  
**外国語3(中国語会話)**  
 1～5授業内容、6～11授業方法、  
 12～16教員、23総合  
 (軸単位:5段階評点)



# 科目名 英文講読

- 担当教員 丹羽 重信
- アンケート実施日 12月14日
- 出席者数 39

## 集計データ結果について

総合評点は4.4で、昨年度を若干上回ったが、授業担当者としてその実感は乏しい。昨年度と比較すると履修した学生の人数が少なく、使用した教室が適度な広さ（狭さ）となり、声が届きやすかったためではないかと思われる。評価項目15の「行為注意」が他の項目とほぼ同じ評点になったのも、声の届きやすさのためだろう。内容面では本年も症例報告の英文を取り上げ、専門科目に関係する英語に触れる機会をもったが、昨年と同じように学生の集中度が高まった気がした。また、従来から読み続けている英字新聞（毎日ウィークリー）の記事の中には興味を引くものが多く、学生に好評のようである。専門科目の勉強を優先してもらわなければならないので、日常的に多くの時間を英語学習に割いてもらうわけにはいかないが、将来、英語を使う必要が出てきた時に抵抗感なく取り組めるよう、興味を失わないでもらいたいと願っている。

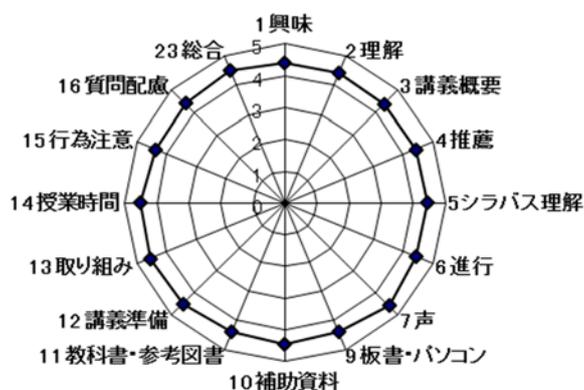
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

「もっと文法を」という意見が昨年あったことを考え、医学の英文報告を書き写す作業は少なめにとどめたが、これについて特に学生から積極的な良い評価は一つも出なかった。毎年学生は替わってしまうので、学生の立場からも講師の立場からも比較できないのは当然だが、「しんどかった」という反応がなかったことに無言の評価が現れており、それから判断して概ね好評だったのではないかと思われる。しかし、これは半面、学生を昨年より甘やかした可能性がある、ともみなせるわけで、学生に阿らず、文法テストの分量および難易度、さらには書き写し作業の英文の分量および難易度を、来年度は若干上げるようにしていきたいと考える。

## 今後の改善に向けて

昨年出てきた「もっと文法をやってほしい」という要望に応じて文法説明を増やし小テストを復活させた。クイズに挑戦するような感覚で、文法力のブラッシュアップをしてもらおうと考えてのことだが、残念ながら中途半端な結果に終わった感がある。実際、最終試験での語句整序と正誤判断の問題の結果は惨憺たるものだった。目で見ていだけで文法を身につけることは不可能であり、CDやDVDで耳から大量の英文を頭の中に入れていく作業が必要である。英字新聞（毎日ウィークリー）の記事のネイティブによる読み上げはウェブで無料で聴くことができるので、その活用をこれまで以上に呼びかけたいと考えている。一方で、授業中に取り上げる英文やテストの問題がもっと医学・医療に関連したものになるよう、工夫を続けたいと考える。

平成27年度  
英文講読  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 現代語コミュニケーション

- 担当教員 丹羽 重信
- アンケート実施日 8月3日
- 出席者数 60

## 集計データ結果について

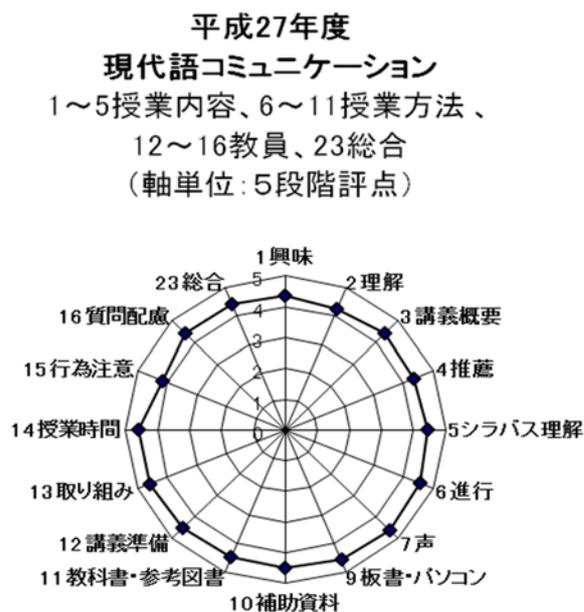
総合評価が4を少し上回り、昨年度より良かったのは嬉しい限りである。昨年度にも書いたことだが、学生の将来の志望とはまったく関係のない科目であり、出席を続けること自体が苦痛であろうに、出席率もよく、学生さんたちのまじめに取り組んでいる姿にただただ頭が下がる。授業内容の「理解」も昨年度の3.5から良くなっているのは、当方の説明のしかたが上手くなったのではなく、学生の理解しようとする姿勢が昨年より強かったためだろう。90分の時間をほぼ3分割して目先を変えるようにしているのは、ここ数年来のことで、この構成の仕方が適切であることを確信できた感じがする。「行為注意」が依然として低めの評価だったのは、やはり大教室の後ろの席でかたまって話をしている者たちに対して「シーツ」と幼稚園・小学校レベルの対応しかできていないからだろう。体力は年々下がる一方である。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

白紙で帰ってきているアンケートが圧倒的な中で、「楽しかった」という感想が何枚かに書かれているのはとても嬉しいことである。人生は楽しくなければならぬからだ。しかし、「名前を聞いたことのある科学史上の人物（グレゴール＝メンデル、マリー＝キュリー、アルバート＝アインシュタイン）の生涯にもいろいろな苦労があったことが分かった」という学生の感想は、残念ながら、人生の厳しい現実でもあるし、同時にこの講義の狙いがある程度達成されていることも示している。「(彼らに関する)本を読みたいと思った」という感想もあり、科学教育の1つの方法として、こうした「伝記」を講義に加えることが評価されてもいいのではないかと思った。毎年のことだが、担当講師は、受けない冗談を言ってひとりで笑うクセがあり、蟹轡をかうことも多い。だが、この点に関してはおおむね「明るい」「楽しい」という好意的な受け止め方をしてくれているようで、学生さんたちの寛大さに感謝しなければならない。

## 今後の改善に向けて

この講義の重要なテーマの一つに「敬語」がある。本年も、高齢者に対して失礼にならないための最低限の敬語表現を身につけるよう注意をうながしたが、昨年同様、表面的なものにとどまってしまった。このテーマの勉強は講師自身の宿題だと考えている。また、中学・高校の授業では読まなかった時事英文にふれるため、英字新聞（毎日ウィークリー）を従来から活用しているが、これは今後も継続したいと考えている。昨年度も記し



たが、投票権が18歳以上となったことで、政治経済の問題にもより多く触れる必要がでてきたと思われる。評価の低かった「行為注意」について、自分の体力と相談し、「シート」以上に効果的な方法を模索しながら改善をはかっていきたいと考える。

# 科目名 人間関係論

□ 担当教員 金子 幾之輔

□ アンケート実施日 9月11日

□ 出席者数 53

## ✖ 集計データ結果について

「授業内容」、「授業方法」、「授業担当者」および「総合評価」に関する全ての設問項目において、4～5の間の評価であったことから、相応の効果が得られたものと考えられる。

## ✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「心理テストやワークショップを実施してくれるなど、授業が楽しかった」、「プリントを中心に、日常生活上の具体的な例を取り上げて説明してくれたので、分かりやすく、よく理解できた」、「コミュニケーションの大切さや技法をはじめ、人間関係について多くを学習できてよかったし、今後の生活に役立ってたい」などの肯定的な見解の記載が殆どであった。

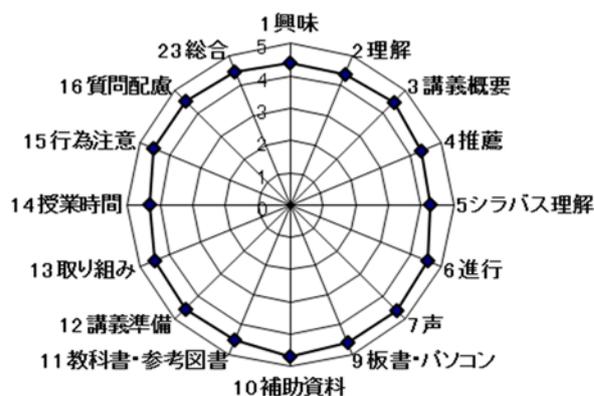
その中でも「授業が楽しかった」、「分かりやすかった」との見解は、小生の授業方針と符合するものであり、貴重な意見として大切にしたい。また「人間関係について学習したことを、今後の生活に役立ってたい」との見解については、日常生活の場や職場で是非、活用してほしいと願う次第である。

その一方で、「話が長い箇所があって、眠くなった」との記載もあった。この点については、話が長くなり単調になってしまった箇所があったことによるものと推察される。

## ✖ 今後の改善に向けて

今後の授業において、前述のような肯定的な見解を示す受講生が一層増加するように精進するとともに、話が長く単調にならないように、話す内容に強弱をつける工夫をするなどして改善を図る方針である。

平成27年度  
人間関係論  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 レクリエーション

- 担当教員 植屋 節子
- アンケート実施日 7月23日
- 出席者数 36

## 集計データ結果について

すべての項目で4以上の評価を得た。この「レクリエーション」授業は身近なものであり、本人の取り組みや興味なども深く、1年生であまり話をするこもない学生同士演習授業を通じ互の信頼や手助けなども見受けられた。

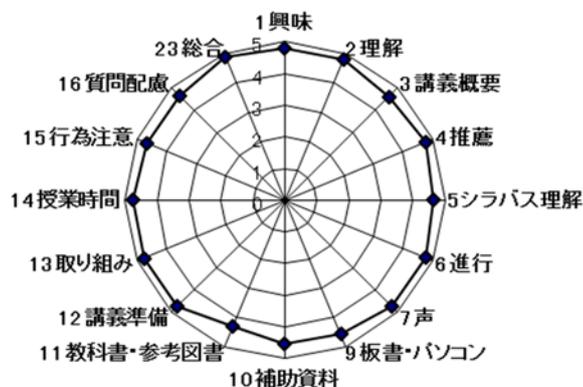
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

- ・知らないゲームを沢山理解できた。
- ・将来仕事場で使えそうなものが数多くあった。
- ・実技試験が今後価値あるものであった。
- ・毎回大変楽しい授業であった。
- ・質問しやすかった。などの記載があった。また、実技試験では、それぞれの指導案に従い実施を行ったため制限時間内に収まらず完成成果を示せず、不満足感が生じた学生も見られた。

## 今後の改善に向けて

どのような場面でも人とコミュニケーションを大切にし、スムーズな人間関係を築聞けることが望ましい。レクリエーションを通じて「あそび」や「余暇活動」の必要性を身につけて、集団のなかで自分自身の長所や個性を發揮し、また、いたらない点を自覚し、仲間意識をもち、人へのやさしさや、豊かな感受性を学べると良い。

平成27年度  
レクリエーション  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 健康運動とスポーツ

- 担当教員 植屋 節子
- アンケート実施日 5月28日
- 出席者数 54

## 集計データ結果について

概ね4以上の評価であった。講義面では、MET Sの計算、消費 kcal、分速などの計算があり困惑する学生もいた。何回か練習をすれば理解できると感じる。演習においては、ニュースポーツやエアロビクスダンスの身体活動も男女とわず積極的に参加をしていた。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

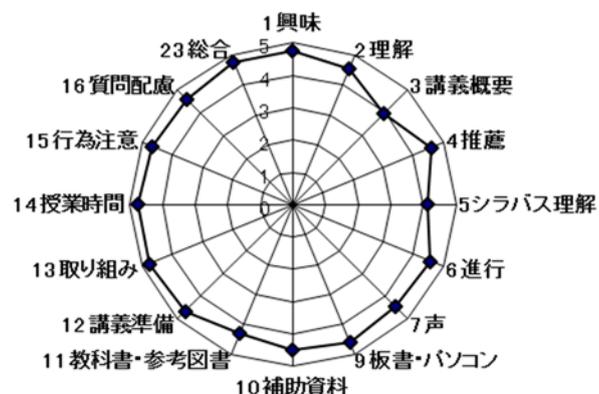
- ・積極的に運動できた。
- ・説明が分かりやすかった。スポーツを通じて交友関係が広がった。
- ・体力測定で自分の体力を知って良かった。
- ・MET Sの計算を知って良かった。
- ・講義と体を動かしたことで理解が深まった。
- ・体育館の道のりが思ったより遠かった。

など多くの意見が出ていた。特に演習時の体育館が遠いのは改善が無理のため、学生の皆さんは、健康のため自転車、ウォーキングをして目的地に向かって欲しい。

## 今後の改善に向けて

健康へ関心は深まるばかりで、健康寿命の延伸、生活習慣病の予防の徹底や、壮年での介護なしでの自立生活など、日常生活の中で身体活動の減少が深く関わってくる。今、若年のうちにその必要性を学び安全に、効果的に継続して欲しい。

平成27年度  
健康運動とスポーツ  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 生物と環境

- 担当教員 石黒 茂
- アンケート実施日 11月24日
- 出席者数 30

## 集計データ結果について

本年度から新聞記事をトピックスとして使い、シミュレーション教材を使った実習、グループディスカッションを取り入れたアクティブ・ラーニング型の授業を実践している。その結果、どの項目においても5段階評点の平均は4以上であった。また、「この授業に熱心に取り組みましたか」で4以上が90.0%、「予習・復習などの時間を取りましたか」では4以上が70.0%と、それぞれ昨年度より値が10ポイントほど上昇している。これらのことから、アクティブ・ラーニング型の講義は学生にとって、有効なものであったと考えられる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容には、「新聞記事があつて例がわかりやすい」「実習があることで授業を理解しやすい」「グループディスカッションで他人の意見を聞くことができ、参考になった」「授業プリントがあつて分かりやすい」などの講義に対して肯定的な感想が述べられ、否定的な感想は見られなかった。また、「環境についてよく考えるようになった」「見方や考え方が変わった」の感想もあり、アクティブ・ラーニング型の講義に学生が積極的、能動的に取り組んでいたことが分かった。

## 今後の改善に向けて

授業アンケートからも分かるように、アクティブ・ラーニング型の授業を実践した結果、学生は積極的に講義に参加し、能動的に学習に取り組み、講義内容の理解も深めることができた。このように、アクティブ・ラーニング型の授業は学生にとって有効なものであったと言える。しかし、今回の実践の結果からは、一連の授業の組み立て方（流れ）、新聞記事の選定、実習の簡易化、意見や考えを述べやすくする環境や場面づくりなどで、修正や、改良すべき課題もみえてきた。

これらをもとに、今後も、アクティブ・ラーニング型の授業方法の改善に努め、授業の質的転換を図って行きたいと思っている。



# 科目名 生命の科学

- 担当教員 石黒 茂
- アンケート実施日 7月31日
- 出席者数 77

## 集計データ結果について

昨年度の授業評価を参考に、今年度の授業内容や程度、授業方法を再検討し、シラバスを作り直した。そして、デジタル教材をできるだけ活用した授業を心がけた。その結果、全ての項目で昨年度よりもよい評価を得ることができた。特に、昨年度は「理解しやすいものだったか」が「そう思わない」「あまりそう思わない」合わせて20%あったが、今年度はわずか2.6%となった。また、授業ごとに、自己の学修成果を振り返りシートに書かせ提出させた。その結果、設問項目19の「予習や復習をやる時間をとりましたか」で「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」の数を昨年度44.7%から、今年度75.4%に上昇させることができた。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

一番多かったのが、動画を見ることによって、「現象がイメージしやすかった」「内容が理解しやすかった」という感想であった。昨年度の反省を踏まえて、できるだけ動画等を取り入れた効果がよく現れた。次に、授業のプリント資料が役に立ったという感想が多かった。プリント資料については改良を進め、さらによいものをつくっていきたい。

今年度から、授業ごとに振り返りシートの提出を求めたが、「頭を整理しやすかった」「授業の内容の見直しができる」のでよかったという意見があり、また、提出されたシートの内容からも、学生の学修に役立っていることが実感できた。

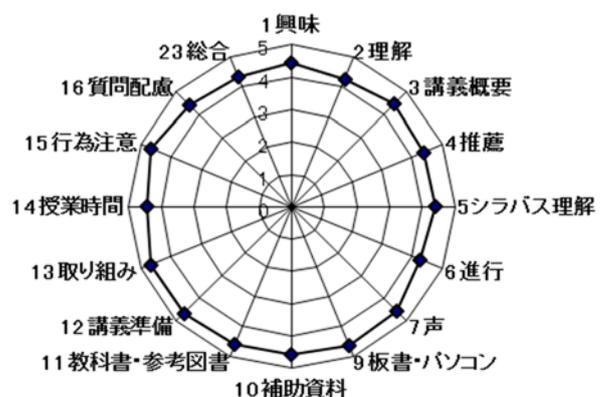
また、「興味をもって授業を聞いた」という声も多く、「生命についての見方、考え方が変わった」と記述した学生もあり、総合的にはこの授業の大きなねらいは達成することができたと考える。

## 今後の改善に向けて

集計結果データで見ると「理解しやすいものでしたか」で「そう思わない」「あまりそう思わない」が合わせて2.6%おり、自由記述の中にも「難しかった」と記述している学生がいる一方、「授業の進行が遅いときが多く、高校で生物をとったかからないかで授業を分けたらよい」という声もあった。

現在大学に進学してくる者の高校時代の理科の履修状況は多様であり、学力差も大きいので、学生全員を満足させることは難しいが、この点にもっと配慮し、さらに、授業に工夫を重ね来年度のシラバスの改良に取り組みたい。

平成27年度  
生命の科学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 エネルギーのしくみ

- 担当教員 後藤 理夫
- アンケート実施日 7月24日
- 出席者数 78

## 集計データ結果について

高等学校の理類型で物理を7~8単位履修・習得した生徒を除くならば、「高1で少し学習して苦手でした。今回で少しは好きになるかと思ったがさらに苦手になりました。しかし、将来を考えると最低限はがんばろうと思いました。」と記した学生がいます、これが大多数の学生の気持ちを代表していると思います。

事前に想定した状況で、それに合った授業・学習内容に心がけましたが学生の「何とかがんばって将来につなげよう！」と強く考えてくれた結果が出ていると思います。

普通ならばもう1ポイント低い結果になってもおかしくない科目です。その点から思うに精神的に健康な学生集団だと思っています。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

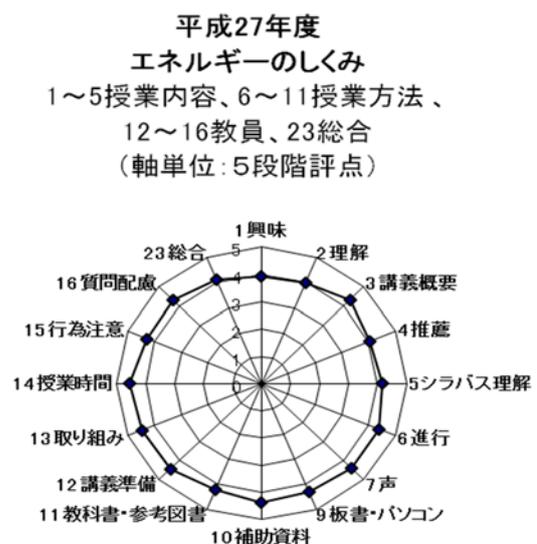
1. テキストが書き込み式で今、どこを勉強しているか分かりやすい。
2. 講義終了後に課題問題プリントと解答プリントが配られたので復習や家庭学習で解りやすかった。
3. 図が多く、基礎からの丁寧な説明が良く、解りやすかった。先生自身も楽しそうに授業をしていた。
4. マイクは使用しなかったが声は十分とどいていたようである。

以上のように、肯定的・好意的に感じてくれた学生がほとんど（未記入者は、あえて書くことも無いと解釈）であることから、今年度テキストの反省点を忘れない内に修正して来年度版を作成しておきたい。

なお、「物足りなかった！」と記した学生が1名いましたが講座の趣旨から考えて、これはこれでいいでしょう。

## 今後の改善に向けて

1. 席を番号順に固定したため、後ろの方の席で字が小さい・見にくいと記した学生もいたが自由席にはしたくないので実際に座席を決めた段階で善処したい。
2. 試験の形態、例えば、テキスト持込を可とするなど検討したい。



# 科目名 解剖学実習

□ **担当教員** 藤森 修、鳥居 昭久、加藤 真弓、木村 菜穂子、荒谷 幸次、松村 仁実、  
河野 健一、清島 大資、港 美雪、美和 千尋、加藤 真夕美、堀部 恭代、  
横山 剛、山下 英美、五十嵐 剛、草川 裕也

□ **アンケート実施日** 2月24日

□ **出席者数** 71

## ✖ 集計データ結果について

集計結果から平均的にバランスが取れている様子が伺え、概ね良好な結果であったといえる。解剖学実習は、学生にとって初体験のことばかりで戸惑いも多かったと推測されるが、学習効果は低くはないと思われる。

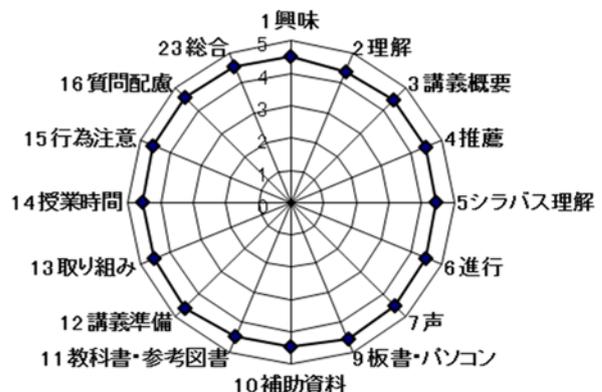
## ✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

事前学習が不十分な学生などが実習でとまどった様子や、ご遺体を見学して衝撃的な気持ちになった学生も少なからず居たと考えられるが、学習の目的を理解し医療人としての心構えが構築される一つの要素として大切に考えられたのではないかと思います。解剖学実習の知識面の成果よりも、情意面の成果についての評価できる。

## ✖ 今後の改善に向けて

受け入れ大学の都合などがあり、日程が不安定であることについて改善する必要がある。

平成27年度  
解剖学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 人体触察法実習 (PT)

- 担当教員 木村 菜穂子、松村 仁実、清島 大資
- アンケート実施日 1月28日
- 出席者数 43

## 集計データ結果について

全体として4点台後半の評点でありバランスが取れている。

ヒトの体を実際に触れながら実習が進み、解剖学や運動学などの基礎知識を結び付けていくという点で困難さが予想されたが、評点では特に問題なくできたと考えられる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

授業に対し真剣に取り組む工夫がされ、緊張感を持って取り組めたとの意見があった。実際にヒトの体に触れることの面白さとその反面難しさを感じたとの意見も見られた。

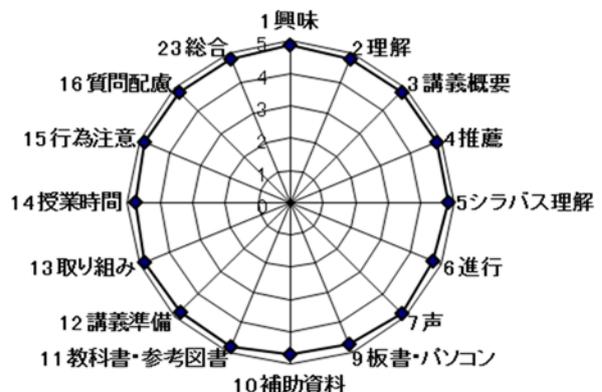
課題を課し、それが成績に結び付くような方法を取ったことが取り組み態度につながったと考えられる。初めてヒトの体に触れた実習としては、面白さと難しさを感じることができたことは重要なことであり、そのような声をもっと多く聞かれるとよかった。

## 今後の改善に向けて

授業開始の際には、授業評価をなるべく丁寧に伝え、日々の取り組みの重要性を伝えるようにしている。また、授業時間内や小テスト結果にもコメントを入れるなど日々の取り組みを促すよう実施してきた。この点は継続し学修意欲につなげていく。

実技部分に関する予習不足を感じるため、今後はより実技の予習を促していきたい。

平成27年度  
人体触察法実習(PT)  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 人体触察法実習 (OT)

- 担当教員 堀部 恭代、五十嵐 剛、草川 裕也
- アンケート実施日 1月7日
- 出席者数 32

## ✎ 集計データ結果について

集計データの結果は「理解」を除くと、4点台後半であり、おおむね良好な結果であった。1つの筋に割り当てる時間を増やすために、授業で取り扱う筋を減らしたが、全学生に十分となる時間を確保することはできず、十分な理解に達するには難しかったと思われる。

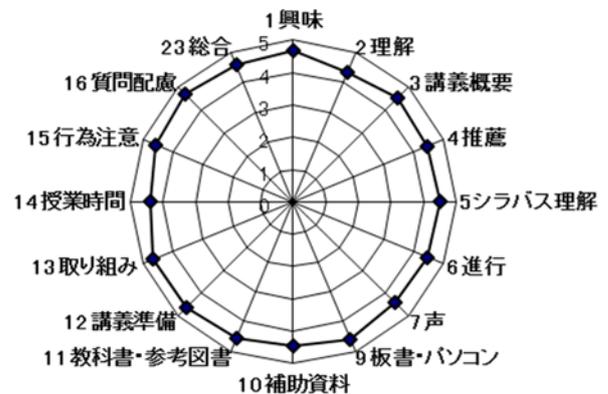
## ✎ 学生の自由記載の内容を検討した結果

学生からの意見としては、「難しかった」「小テストで神経や作用が覚えられなかった」という記載がみられた。

## ✎ 今後の改善に向けて

取り上げるテーマを絞り授業を進めているものの、学生にとっては筋の起始・停止・作用を覚えることに加え、体表面から骨や筋をイメージして触察するという実習であるため、難しい授業であると思われる。学生のイメージが促されるような、小テスト問題の作成や説明方法を検討していきたい。

平成27年度  
人体触察法実習(OT)  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 生理学

□ 担当教員 長谷川 昇

□ アンケート実施日 1月9日

□ 出席者数 75

## 集計データ結果について

1-5の質問項目では、2を除いて四捨五入すればすべて5が70%であり、2の「内容が理解しやすいものでしたか」では、64.0%であった。理解をすることをこころがけた結果であろうと考えられる。6-11の「授業の方法」についてと12-16の「授業担当者について」は、すべての項目で、四捨五入すれば5が70%であった。17-22の、「あなたの授業態度について」は、出席に関する項目の点は77.3%と高かったが、「理解できない点を質問したか」、「予習・復習をしたか」、「シラバスの学習目標や履修上の注意を意識したか」の項目は、5が、各々、57.3、50.7、57.3%であった。「熱心に取り組んだ」が、5が66.7%であったことから、概ね、良いと思われるが、理解を容易にするために、さらなる工夫が必要と思われる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果（4人）

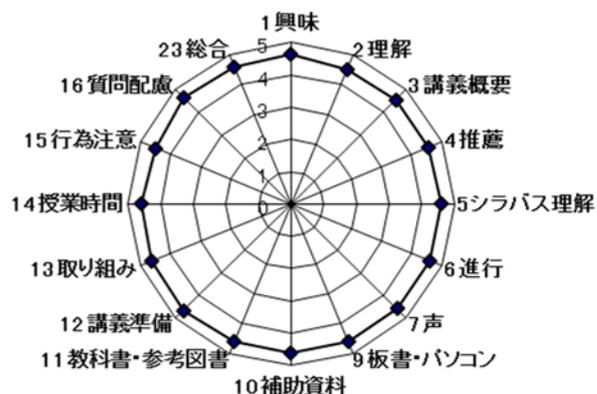
自由記載の欄は、大多数は白紙であった。「説明がわかり易かった、楽しかった」が、記述されていた中ではほとんどの感想であった。少数、板書が少ない点の指摘が2件あったが、板書中心の高校までの学習法から、授業中に自分でまとめながらノートを作っていくという受講方法への転換は概ね出来たと考えられる。以上のことを総合すると、授業に対して工夫している点は、評価されていると思われる。

## 今後の改善に向けて

生理学は、人体の機能を理解することを目的としており、分子レベルでの話題から個体レベルの話題までの広範囲に渡るため、学生達には難解な科目の一つであろう。この点の結びつきについて、さらに理解を深めるような講義を心がける必要がある。

講義で学習した内容を理解できれば、国家試験の問題は容易に解答することが出来ることを示して、講義への興味を深める必要がある。

平成27年度  
生理学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 生理学実習

- 担当教員 長谷川 昇
- アンケート実施日 1月9日
- 出席者数 73

## 集計データ結果について

1-5の質問項目はすべて60%以上の学生が5であった。特に、1、4は5が、各々、69.9、68.5%であり、興味深く理解しやすい内容であったことがうかがえる。6-11の「授業の方法」についてと12-16の「授業担当者について」は、すべての項目で、四捨五入すれば5が70%であった。17-22の、「あなたの授業態度について」は、出席に関する項目の点は77.3%と高かったが、「理解できない点を質問したか」、「予習・復習をしたか」、「シラバスの学習目標や履修上の注意を意識したか」の項目は、5が、各々、57.5、50.7、58.9%であった。「熱心に取り組んだ」が、5が68.5%であったことから、概ね、良いと思われるが、理解を容易にするために、さらなる工夫が望まれる。実習時間中で質問を受ける場合、十分に対応できないので、実習後のまとめを充実させることが必要と思われる。

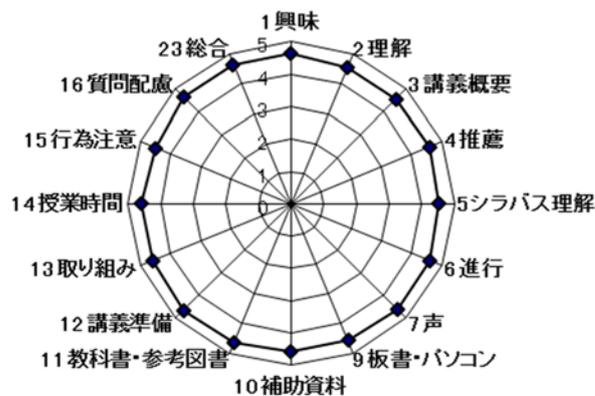
## 学生の自由記載の内容を検討した結果（6人）

自由記載の欄は、大多数は白紙であった。「プリントがありわかり易かった、勉強になった」が、記述されていた中ではほとんどの感想であった。「もっと予習して望むべきだった」、「質問をもっとしたかった」の2件があったあらかじめ、実習講義で実験・実習の手順を説明したことが、学生の理解を促したと考えられる。また、自分たちの行った実験の結果について解釈し、考察できることを目標の一つにしたが、教員の意図することが伝わっていると思われる。

## 今後の改善に向けて

生理学実習は、生理学で学んだ知識を実験・実習で確認することを目的としている。本アンケートの結果、ほぼ目的を達成していると考えられる

平成27年度  
生理学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 運動学総論

- 担当教員 宮津 真寿美
- アンケート実施日 7月30日
- 出席者数 78

## 集計データ結果について

すべての項目において、4～5の間にあり、学生の評価は良好であると判断します。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

「小テストが良かった」と書いた学生が多数います。「復習ができた」、「少しずつ語句を覚えることができた」、「勉強の習慣になった」等、小テストをきっかけに勉強できたとしています。ただ、この学年は小テストの平均点が悪かった。小テストをしても、何人かは学習習慣に結びついていません。

その他に、「スライドの図がわかりやすい」、「配布資料がわかりやすい」と書く学生がいました。教科書の図よりわかりやすい図を見つけてきて講義しています。

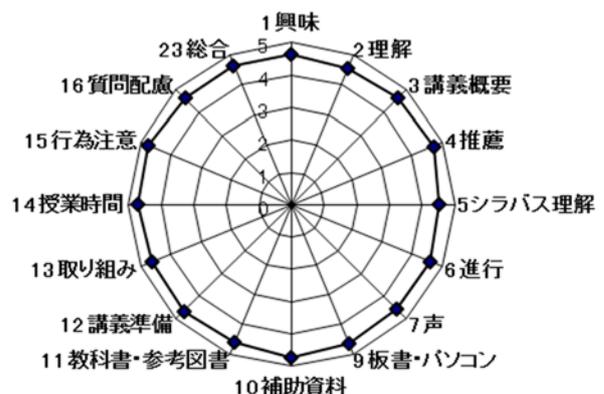
「質問に丁寧に答えてくれた」、「質問の機会があった」という記載もありました。近年、授業中に質問する学生はいません。この年は、授業終了後、質問を受けることが例年より多い印象でした。「わからなくなったら何回でも質問してよい」と話した影響かもしれません。一人が質問する人と、つられて気軽に質問に来る感じがしています。

「わくわくした」、「わかりやすかった」との記載もあり、大変うれしいです。

## 今後の改善に向けて

学生の評価は高いですが、本試験では22人（1年生）が60点以上取れませんでした。毎回の小テストで理解しようとする意識付けが今年度は弱い印象でした。クラス全体で、確実な学習をするという雰囲気になりたいです。来年度も、小テスト、スライドでの授業を継続します。小テストによる学習の効果をあげる方法を考えたいです。

平成27年度  
運動学総論  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 運動学 I (頭頸部・上肢)

□ 担当教員 山下 英美

□ アンケート実施日 11月20日

□ 出席者数 74

## ✧ 集計データ結果について

すべての項目で、4.5点程度の評価をうけており、授業の内容や方法は、概ね問題無いと考えられる。

## ✧ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「プリントが分かりやすかった・学習の役に立った」との記載が複数あり、「模型や手を見ながらだったので、わかりやすかった」「小テストがあって良かった」「楽しい授業だった」との記載もあり、授業の工夫点は、一定の効果があつたと考えられる。

しかし、「生徒の私語がとても気になった」「もっと強くしゃべっている人に注意して欲しい」といった記載も複数あり、私語に対する毅然とした態度の必要性を強く感じた。

## ✧ 今後の改善に向けて

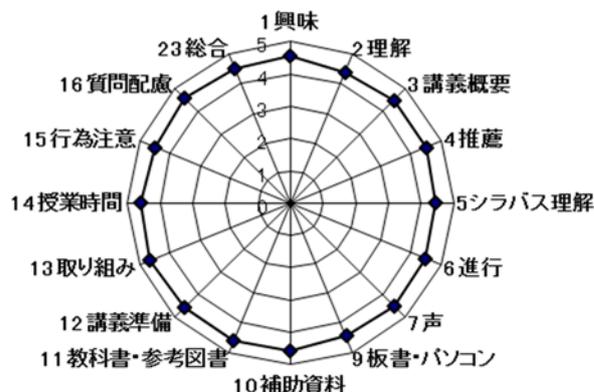
「わかりやすかった」との評価はもらえたものの、全体からすれば少数であり、試験結果から判断しても、すべての学生が等しく理解を深めているとは言い難いのが現状である。

大人数であるため大教室で行わざるをえないなか、後部席の学生へのさらなる配慮が必要であり、27年度は後部席用のモニターが追加設置され、環境面での改善がみられたが、私語に対する注意も、さらに毅然とした態度で行う必要があると実感している。

また、“指の部分”のプリントをさらに改善し、立体的なイメージを作るための模型の工夫に取り組みたいと考えている。

そして、例年どおり「小テスト」とその結果を利用した補足説明、さらに「自分の身体を使った実践」「お互いに説明」といった主体的な学びを促す取組みを引き続き行っていこうと考えている。

平成27年度  
運動学 I (頭頸部・上肢)  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



## 科目名 運動学Ⅱ（体幹・下肢）

- 担当教員 荒谷 幸次
- アンケート実施日 11月25日
- 出席者数 80

### 集計データ結果について

授業内容、教員、総合とも4～5段階であり本講義に関しては、学生の満足度は高かったと思われる。本講義は、1年次の「運動学Ⅱ」という基礎的な内容であり、2年次につながる重要科目であるが、学生は比較的興味深く学習頂くことができと思われた。

しかしながら、教員の声、板書、パソコンの項目が他の項目より低かった為、改善が必要である。

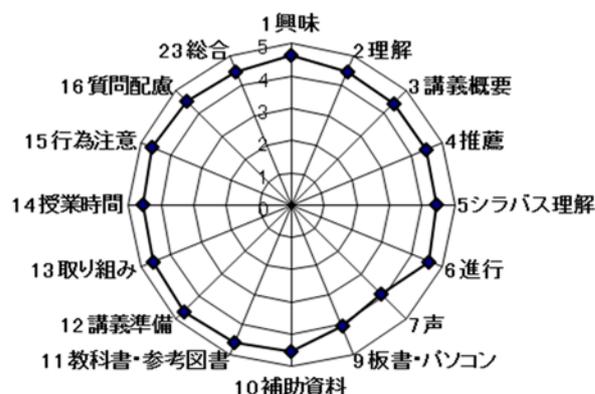
### 学生の自由記載の内容を検討した結果

「わかりやすい講義であった」という内容がある一方で、「声が小さい、聞き取りにくい」、「板書の字が見にくい」、「板書が薄い」など特に後方の席の学生からの意見が多くあった。

### 今後の改善に向けて

講義場所は講堂でグループ分けをして席を指定し、骨模型を用いてグループ作業を行いながらという講義形式であったので、特に後方の席の学生は、板書及び声が聞き取れなかったと思われる。今後は、私のメリハリのある話し方を心掛けることやマイクの音量を考慮する。また、ホワイトボード板書に関しては大きく濃いペンを用い、後方の席にも配慮するよう改善をしていきたい。

平成27年度  
運動学Ⅱ（体幹・下肢）  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
（軸単位：5段階評点）



# 科目名 運動学実習 (PT)

□ 担当教員 宮津 真寿美、河野 健一、清島 大資

□ アンケート実施日 2月4日

□ 出席者数 43

## ✖ 集計データ結果について

すべての項目で、4点後半の点数で、バランスがとれている。学生の評価は、良好だった。

## ✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

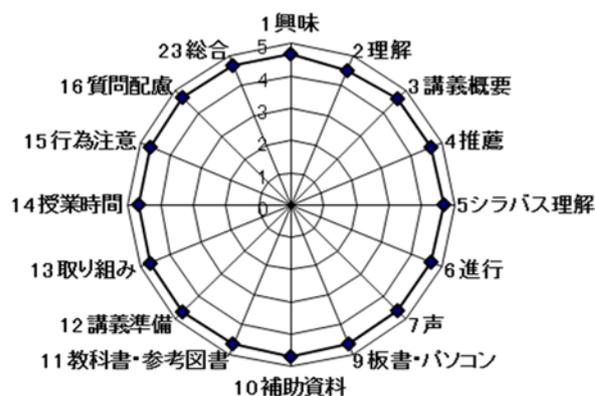
記載されていることが少なかった。記載されていたのは、実習を通して理解が深まったことと、日程の変更が良かったという2点だった。理解が深まったというコメントから、自分たちでデータを取り、解析し、考察する過程を踏むことで、理解を深めるという授業のねらいは、ある程度、達成できたように思う。日程の変更は、他の科目の試験日と、この科目の実習課題の発表日が重なっており、学生の負担を減らすため、学生との相談の上、日程を一週間遅くした。来年度から、試験期間が決まるので、このようなことはなくなるのであろう。

## ✖ 今後の改善に向けて

この授業は、到達目標が多く、学生にとって負担が大きいことを危惧していたが、学生の評価は良好である。教員が思うほど、学生は負担に感じていないようだ。1年後期の時期、この科目のねらいは、妥当であると考えられる。

来年度は、他の教員が担当する。

平成27年度  
運動学実習(PT)  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 運動学実習 (OT)

- 担当教員 草川 裕也、五十嵐 剛
- アンケート実施日 12月3日
- 出席者数 31

## 集計データ結果について

すべての項目について5段階中4以上となり、良好な結果であった。しかし、「理解」の項目においては、他の項目と比べるとやや低い評価となった。

本授業は、動作分析とレポート作成が主であるが、開講期間中にすべてのレポート課題を完成させることができない学生がほとんどであった。毎週課題が課されるため、未完了課題のやり直し・復習が不十分となってしまうことが多かったようである。また、実習が主であるため、運動学の知識面については確認が不十分なまま授業が進行された。そのため、レポート作成時に、考察を深めることができず、難渋した可能性が考えられる。

また、「声」に関する評価もやや低かった。実習中の説明などは、周りが騒がしく、聞きづらかったかもしれない。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

記載されていた内容は、「水着の着用者を事前に決めるべき」という意見と「人それぞれ違いがみられておもしろかった」という感想の2つのみであった。

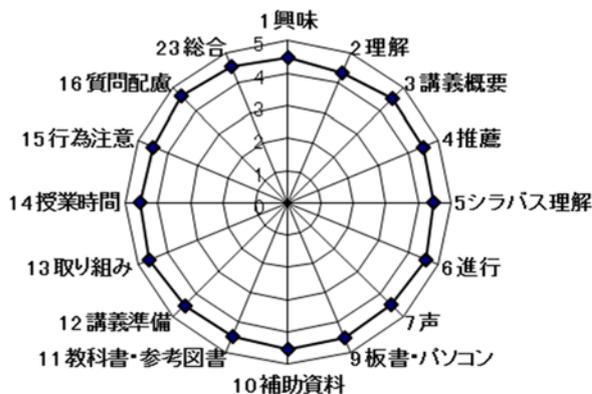
本授業では、被験者がグループで1~2名のみという実習がいくつかあり、評価者となった学生は、観察・記録のみを行うため、水着着用の必要がない。そのため、事前に決めてほしいという意見があったが、被験者選定のために、メンバー全員が一度は、動作を行ってもらい、動作を行った上で被験者を選定することになるため、事前に決めることは難しい。その点を十分に説明する必要がある。

## 今後の改善に向けて

上述の通り、理解がやや不十分であり、レポート課題完了のために大半の学生が、授業時間以外での指導が必要であった。他教科の試験と日程が重なり、十分に検討できないままレポートを作成しなければならない時期もあったため、レポート作成をスムーズにする工夫が必要である。また、レポート作成に関わる基礎知識の確認・定着を図る必要がある。

さらに、実習中の説明は、実習を止めるなど、聞き取りやすい状況で行っていく。

平成27年度  
運動学実習(OT)  
1~5授業内容、6~11授業方法、  
12~16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)

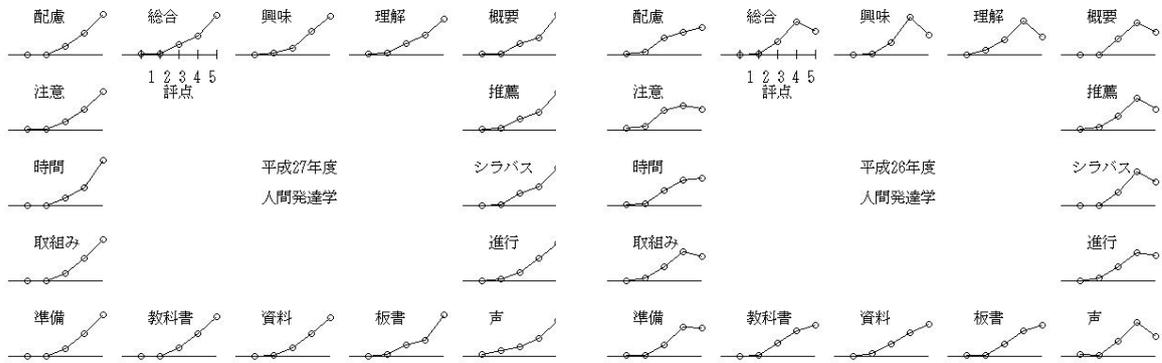


# 科目名 人間発達学

- 担当教員 伊藤 宗之
- アンケート実施日 1月26日
- 出席者数 68

## 集計データ結果について

：設問別に評点 1, 2, 3, 4, 5 の分布を折れ線グラフに描き、前年度の集計と比較しました。それぞれのグラフが右に偏った逆L字型を示せば理想です。



## 学生の自由記載の内容を検討した結果

/授業の話し方が、内容をつかみづらかった。プリントも解りづらかった/ボックスの答えをとばすのはやめてください(言わなかった)/出欠の取り方が/改善すべき点は話す言葉-良かった点はプリント/楽しかったです/ありがとう/

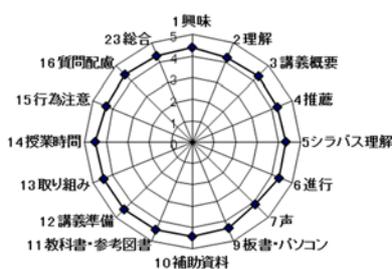
## 今後の改善に向けて

ボックスの答えをとばすとは、プリント内のドリル問題を十分に説明せずに済ました事が往々にしてあった。以後、気をつけます。

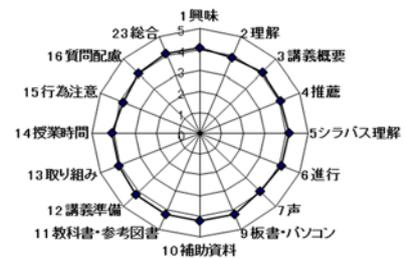
今回 2015 年

前回 2014 年

平成27年度  
人間発達学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



人間発達学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)

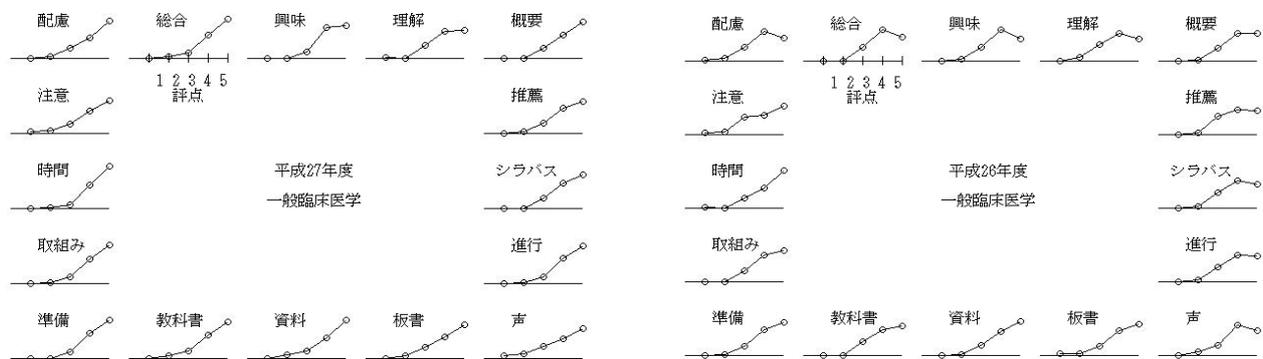


# 科目名 一般臨床医学

- 担当教員 伊藤 宗之
- アンケート実施日 1月27日
- 出席者数 74

## 集計データ結果について

：各分野内の評価のバラツキを表します。標準の同心円図と対応する位置に配置しました。横軸は評点、縦軸は人数です。



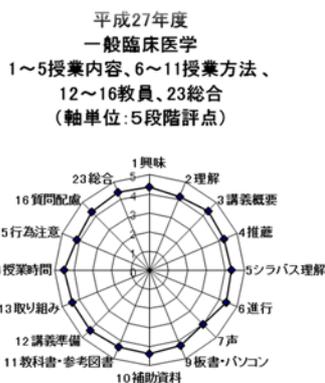
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

/プリントの言葉使いを書き言葉にしてほしい/マナーを守れない生徒に注意をしっかりとってください/声のはっきりしない/クイズのある授業をしてくれて/問題形式にして問いかけていたので/感染症、水ぼうそうなどリアルな写真、鳥肌が立ちました、役に立ちました/プリントがあることで分かりやすかった/

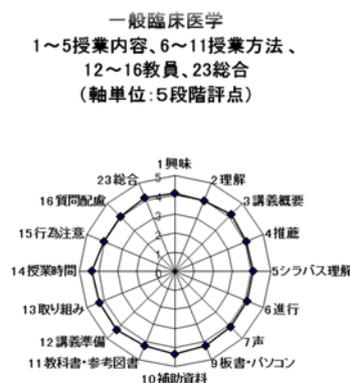
## 今後の改善に向けて

プリントは1枚を超えないと決めて、文字を詰め込むのが舌足らずの原因でしょう。反省。

今回 2015 年



前回 2014 年



# 科目名 公衆衛生学

- 担当教員 山田 正人
- アンケート実施日 2月8日
- 出席者数 75

## ✖ 集計データ結果について

整形外科学及び義肢装具学に比較し、2. 理解、4. 推薦の面で他の項目より、やや評価が低かった。  
11. 教科書・参考図書、12. 講義準備、13. 取り組み、14. 授業時間については良好であった。  
全体的には極端に低い項目は無く、ほぼバランスは取れている様に思われた。

## ✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

配布資料については好評であったが、講義内容に関し、極く一部の学生が批判的だった。  
その内容は、臨床経験・体験談等、教科書外についてを講義に加えた事に対する批判であった。  
多くの学生は、好感を持って、為になったとの評価ではあったが…。又、学生の授業態度面では、私語、居眠りが多く、その際の注意が足りないとの記載があった。  
本学においては、各学生の能力の差が大きく、全体的に知識欲において受け身で、積極性に欠ける学生が多い。特に今年度の1年PT・OTはそれが目立ち、2年生における整形外科学講義を何処に焦点を当て、例年の事ながら、どの様な形式で講義するか試行錯誤している。

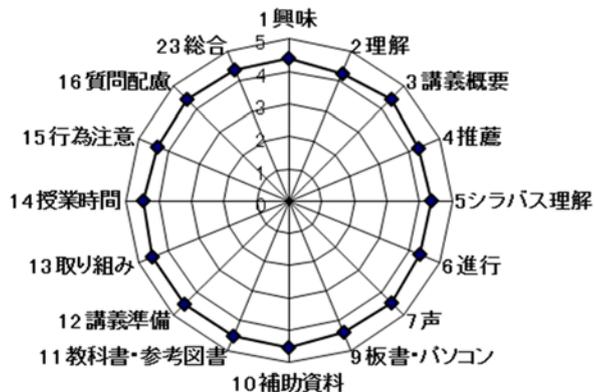
## ✖ 今後の改善に向けて

十人十色で講義形式に関する手法は学生により評価が異なるが、如何に学習意欲を増させ、正確な専門知識を習得させる講義をするかにある。

今後については、資料を改善し、受動的でなく、より能動的に学習できる様な形態に変えようと考慮している。

尚、短大の全学生に対し、例年と特に変わり無く、教科書的内容のみならず、人格形成の一端を担える講義内容をしたいと思う。

平成27年度  
公衆衛生学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 臨床心理学

- 担当教員 山田 ゆかり
- アンケート実施日 6月1日
- 出席者数 84

## 集計データ結果について

明確に話すことや平易な説明をすること、整理された板書をする、プリントを使いやすく編集することなど、授業方法についての基本的な配慮が効果を上げている。

数値データにもとづく円グラフは、ほぼバランスのとれた形となっており、授業全体が円滑に運営されているといえる。とくに評価が良い項目としては、授業の方法についての項目7・8（声・マイク）、項目9（板書等）、項目10（補助資料）、および授業担当者についての項目12（授業準備）、項目13（取組み）、項目14（授業時間）、項目15（行為注意）などが挙げられる。一方、項目2（理解）、項目4（推薦）については、評価5が50%をやや下回っている。学生自身の授業態度について、項目18（質問）、項目19（予習・復習）については、改善の余地があると思われる。次回の授業について予習などの準備をし、授業中の疑問については積極的に質問し、復習をすることを繰り返し指導していく。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記述は多くなく、もう少し記述を促すべきであった。学生に対し、普段の授業終わりに毎回コメントを求め対応しているため、授業評価の段階ではあらためて出てこなかったのかも知れない。

心理アセスメントについての体験的学習を評価する意見が多く見られ、対人援助職としての自己理解を促す結果になったようである。

また、専門的援助の受け手に対応する際の傾聴の必要性や実際の心理臨床的援助の方法が学べたという意見があった。また、授業の方法については、プリントや補助資料が有効であった、前週の質問を総括して説明してくれるのが良かったなどの意見が寄せられた。担当教員の臨床経験に基づく説明が理解を促進したという意見もみられた。

一方、改善すべきだと思う点については、記述がなかった。

## 今後の改善に向けて

基本的には、現在の授業内容、授業方法が学生に受け入れられている結果であり、今後もこれを踏襲していく。しかし、学生からの自由記述によるコメントも併せて、常に改善点を見つけて実施していくことが重要と考えている。

今後とも、より理解を助けるよう工



夫した教材を呈示し、具体例にもとづく分かりやすい解説をするよう心がけていく。学生の学修態度については、折にふれて予習・復習を促す指導が不足していると思われるので対応を心がけていく。また、質問に適切に対応して、動機づけを行い、理解度を上げるようにしていく。理解度を上げ、さらに新たな問題提起や質問を引き出すような働きかけが継続できればと考えている。

# 科目名 内科学

- 担当教員 舟橋 啓臣
- アンケート実施日 12月7日
- 出席者数 80

## 集計データ結果について

集計結果をみると、全部の項目が4.5くらいの数値であった。数値が低いものは一つもなかった。授業中の学生の態度に注意を払ったし、こちらの伝えたいことが彼らに届いているかを、いつも確認しながら講義を続けた。内科学という範囲が非常に広く、教科書の全てを網羅して理解させることは難しいことから、毎回、重要な箇所をピックアップして、さらに時には、理解しやすいように他の資料から抜粋したもの（特に図示）を用いた。内科学講義を数年続けているが、毎年見直しをして、少しでも理解しやすいように工夫し、パワーポイントのスライドを更新してきた。説明時の声やスピードにも注意を払った積りである。そうした熱意が伝わっているのか。とりあえず集計結果には満足できる。

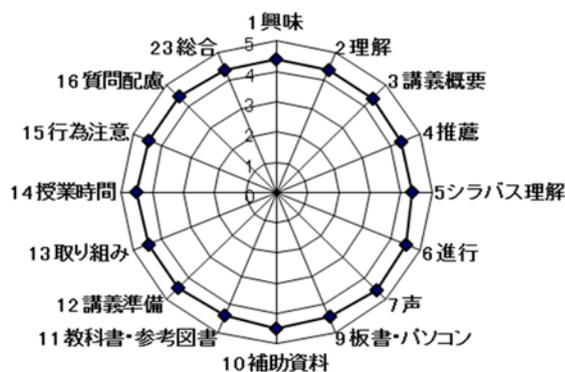
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載が記載されていないものも少なからずあったことは残念である。記載されていたものは、ほとんどが、毎回のプリント配布への高評価である。また、講義内容が分かりやすかった、とする記載も少なくなかった。自分としては熱心に準備をして取り組んだつもりであり、それは学生に十分に伝わるものだと強く感じた。

## 今後の改善に向けて

とりあえず、今の姿勢を継続しても問題なさそうである。いつも、これだけの準備をして講義に臨んでいるのだ、と言い切れるように熱意をもって取り組む姿勢を続けることが大切だと感じた。

平成27年度  
内科学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 整形外科学

- 担当教員 山田 正人
- アンケート実施日 7月28日
- 出席者数 84

## 集計データ結果について

各項目、ほぼバランスは取れていたが、15. 行為注意について、やや評価が低い様に思われる。  
毎年度、同様の傾向にあるので、もう少し受講の姿勢に対し、厳しくした方が良いと思う学生もあると解し、引き締めようかと思う。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

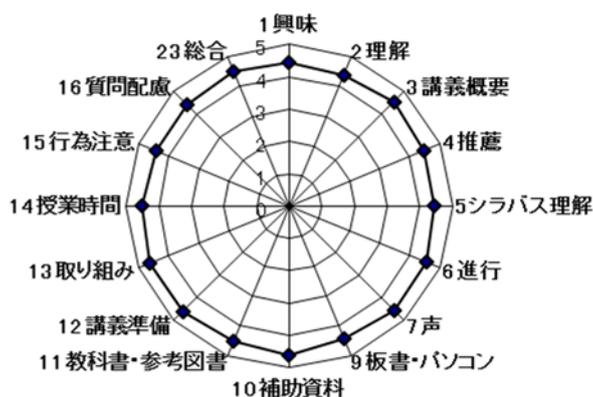
講義内容に関し、専門知識以外に臨床上での体験談の他、雑学的知識又、数々の名言を紹介していることに関し、好評である様に思われた。

今後についても、整形外科の専門知識のみならず、講義を通じて、受講学生の全人格的な成長に寄与出来る様、努力を続けたいと思う。

## 今後の改善に向けて

講義が一方的にならない様、各学生の知識欲、積極性を引き出せる様、更に工夫を加えたい。

平成27年度  
整形外科学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)

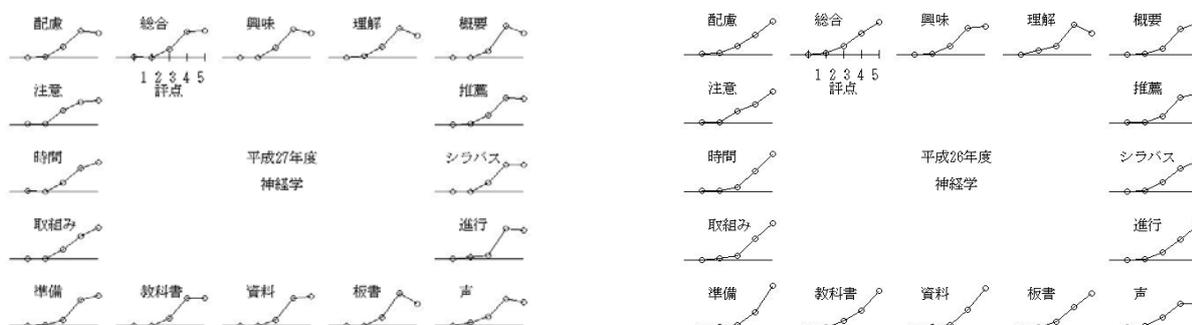


# 科目名 神経学

- 担当教員 伊藤 宗之
- アンケート実施日 7月21日
- 出席者数 82

## 集計データ結果について

：最下段に掲げた標準仕様の同心円図（最下段左）では昨年度（最下段右）と比べてあまり違いは無いように見えますが、少し見方を変えて、縦横座標の評点別集計を試みると、いくつかの評語で昨年度から評点5が減少した事が歴然でした。

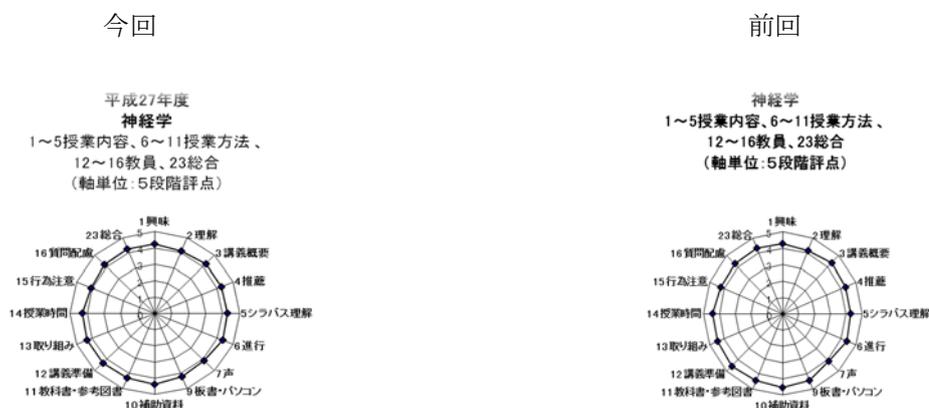


## 学生の自由記載の内容を検討した結果

席を替えることが良いと思ったが、かわっても良く似た場所になるのでどうにかして欲しかったです/ 聞きとりづらいです/ 難しかった/ 単刀直入にいつつまらない、少し/ 特にない/図があって分かりやすかった。

## 今後の改善に向けて

評点5の低下が著明であった講義概要、進行、板書パソコン、質問配慮の各評語分野に於いて特に留意しながら頑張って失地回復を図ります。



科目名

# 小児科学

- 担当教員 杉浦 潤一
- アンケート実施日 12月16日 (PT) 7月25日 (OT)
- 出席者数 38 (PT) 43 (OT)

## 集計データ結果について

OTとPTでは全項目にわたって少し差が見られるが理由は分からない。  
後期に行なったPTの方が熱心に講義に耳を傾けてくれた印象がある。

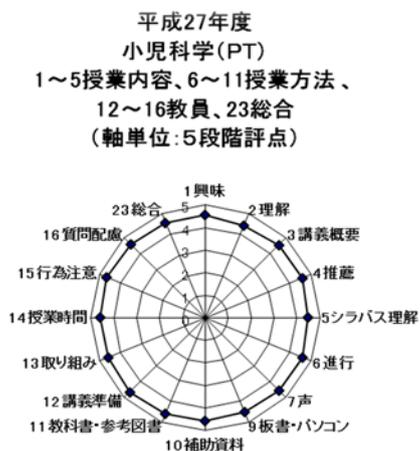
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

「分かりやすかった、興味が持てた」と「難しかった」は例年の如く7対3であった。小テストを当日に行なったが批判もあった。講義開始にあたって主旨をしっかりと話したが理解が得られなかったのは残念であった。

## 今後の改善に向けて

今年度で講義を終えるので記す任にありません。  
(平成28年3月31日退職)

【PT】



【OT】



# 科目名 安全管理・救急対処論

- 担当教員 舟橋 啓臣
- アンケート実施日 6月1日
- 出席者数 79

## ✎ 集計データ結果について

授業内容、授業方法については、学生にはおおむね良好な評価を受けて安心した。また、授業担当者（つまり自分）に対する評価もよくて驚いた。

「安全管理・救急対処論」という国家試験を考えれば重要性が低いと考えられるかもしれないが、学生が卒業して実際に臨床の場に身を置いた際には、チーム医療という観点からすると非常に重要な知識を養う授業である。とくに、安全管理学は、院内感染や医療訴訟問題、個人情報保護など、昨今の医療界における大きな問題を扱う授業である。すべての施設はとくに感染防止などには非常に神経質になっており、このことに関心や知識が深い人材は重用される傾向がある。また、救急対処論では、医療人ともあろうものが蘇生法すら知らないようでは恥ずかしいので、この基本的知識を植えつけるという観点から意義深い。全くの素人である学生に理解しやすくさせるために、多くは図表のプリントを毎回配布し、話もできるだけ実践的なことに特化するなど、色々な工夫を凝らして授業を行ったことが好評の要因であったようだ。授業中の学生同士の無駄話は厳しく戒めたし、寝てしまいがちな学生に、いかに興味を抱かせるかに腐心し授業準備を怠らなかつた。

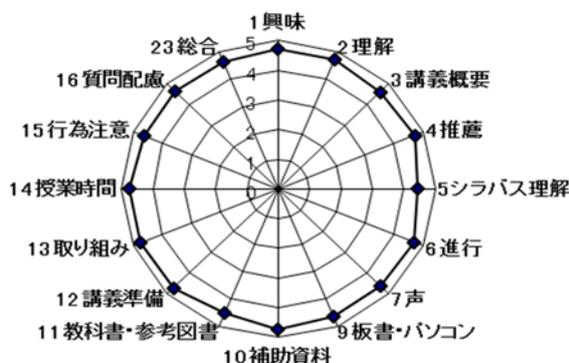
## ✎ 学生の自由記載の内容を検討した結果

毎回の講義の前には、時事問題・古典・道徳・励ましの言葉、などを約30分の時間をとった。教養科目が本学では少ないこともあり、活用できたと思っている。自ずと熱い口調で語り・話したこともあって、学生には大いに好評であった。今後も続けるべきと思われた。

## ✎ 今後の改善に向けて

今回のアンケート結果をみると、おおむね良い評価を受けており、特に授業前の話については、強い印象を学生たちに与えることができたようである。レダーチャートの形も良好なものであったことから、次年度も同じ形式をとりたいと考えている。

平成27年度  
安全管理・救急対処論  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 リハビリテーション概論

- 担当教員 鳥居 昭久 日置 久視
- アンケート実施日 5月28日
- 出席者数 78

## 集計データ結果について

概ね高い水準になっているようであるが、時間に関しての点数が低い。これは、講義時間の変更が何回か有った為だろうと予想される。講義のみならず多くの業務の煩雑化が学生講義に少なからず影響を与えている可能性があり、本教科のみならず全体の講義予定に考慮すべき事項である。その他については、入学して初めて学ぶリハビリテーションの本質についての講義としての本科目の内容と、試験結果とリンクしていると考えられ、ある程度の学習効果を得られたと考えられる。

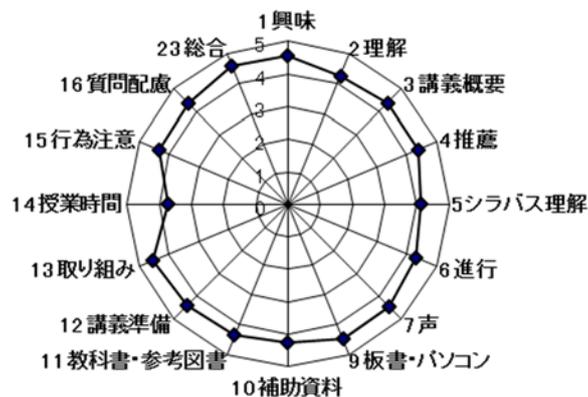
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載は、ほとんどが講義の感想としてリハビリテーションの理解と、これからの学習に対するモチベーションを裏付ける内容であったと思われる。また、本教科は比較的興味を持って取り組むことが出来た様子で安堵している。

## 今後の改善に向けて

ICFの理解について、十分とは言えない印象を持っている。事例検討、実際の体験などを通して障害の理解を深め、その結果としてICFに基づいて広角的に考えを持てる科目内容の検討をしていこうと考えている。

平成27年度  
リハビリテーション概論  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 リハビリテーション倫理

□ 担当教員 鳥居 昭久

□ アンケート実施日 12月12日

□ 出席者数 64

## 集計データ結果について

この科目は、国家試験とは直接関係しない科目とはいえ、かなり難解なテーマに取り組まなくてはならない科目である。その点で、学生には負担が大きい科目と言える。しかし、どの項目も高得点であり、特に高低差はなくバランスが良いので安堵した。

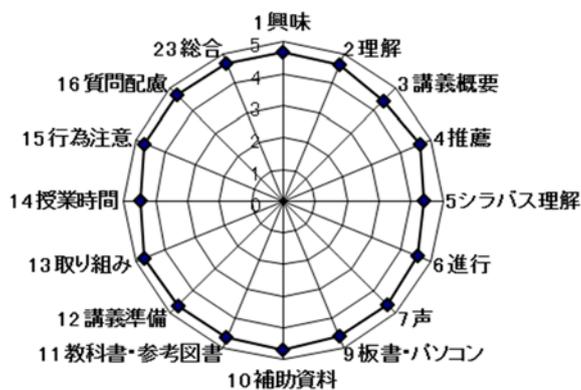
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

1年生の時には、「生命倫理」を中心に、3年生では、「臨床倫理」を中心に様々な問題を定義して討論、調査に取り組んだ。その点で、学生たちは臨床家を目指す者としての心構えや考え方を確立してくれたと思える。実際に臨床実習で苦勞した部分や、疑問に思った部分を振り返り、そこから医療人として何を成すべきかを今後も考え続けて取り組んで欲しいと願う。

## 今後の改善に向けて

1年生は「間接的家族参加型授業」を展開し、積極的に家族とのディスカッションを取り入れているが、3年生では自己調査、グループディスカッションが中心である。臨床に向かう前だからこそ第三者の視点を再認識しても良いのかもしれない。その点で、次年度以降、学外、家族など含めた方法を検討する。

平成27年度  
リハビリテーション倫理学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 社会福祉学

- 担当教員 加藤 良子
- アンケート実施日 7月28日
- 出席者数 77

## 集計データ結果について

授業内容はシラバスに沿って行っているがそれに対して、理解や興味が持てるものと学生が受け止められていた。

授業の方法、教員に対する評価も一定程度受け入れられていた。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

事例に基づきながら、難しいと感じている法律を理解できるように講義した結果、多くの学生は、理解ができたと思われる。

また、事例が理解を助けていること、資料の提示で一層理解できたことが評価されたと思う。

実際の医療の現場に必要な知識としての重要性が伝わっていると感じられた。

また、社会人としても必要な法律（社会福祉・社会保障の制度）の知識と認識されたようである。

## 今後の改善に向けて

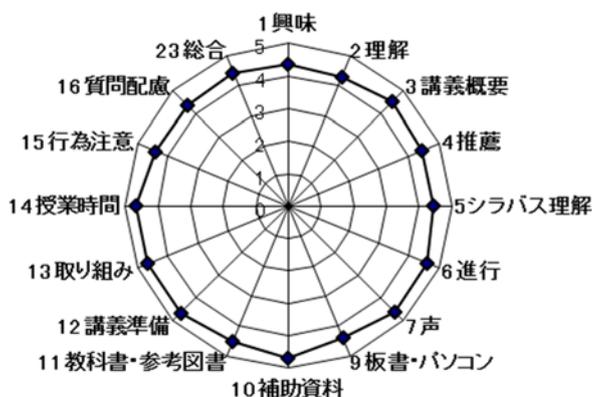
今後も、シラバスに沿って、社会福祉・社会保障の制度をわかりやすくかつ、丁寧に講義していきたい。

また、学生が集中できる講義環境を一層作っていきたい。

（レジュメと追加資料、具体的な事例など）

## 平成27年度 社会福祉学

1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 障害支援とアシスタンスドッグ

- 担当教員 有馬もと
- アンケート実施日 2月15日
- 出席者数 23

## ✖ 集計データ結果について

学生のみなさまから全体的に高い評価をいただきましたこと、光栄です。

補助犬のテーマについてはまだまだ周知度が低く「働き」「効用」「ユーザー」など想像がしにくい分野といえるでしょう。

学生のみなさまに興味を持っていただくために、できるだけ視覚的なツール、ユーザーからの体験談などを組み入れさせていただきました。貴校から卒業された方の参考となるよう、医療現場への補助犬同伴、AAA(アニマル・アシステッド・アクティビティ)など、今後、卒業生のみなさまが医療現場で導入される可能性のある犬を用いたセラピーなども授業に入れさせていただきました。また「講義→協会犬との訓練体験→講義→ユーザー体験談と質疑応答→講義→協会犬との訓練体験」といった形で、学生さんの集中力が切れなような授業の組み立てにいたしました。

## ✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

アンケートに記入された内容は少なかったのですが、授業内容、訓練体験など高い評価を頂戴しております。ご指摘では、①授業の設定時期 ②2日間での長時間の授業の構成について1名様ずつのご指摘がありました。

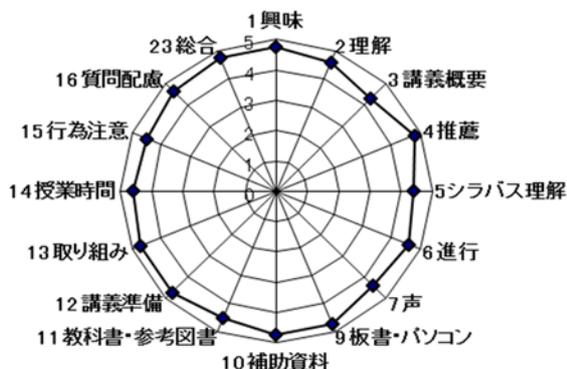
また③授業中の私語を有馬が止めていないといったご指摘もありました。私語が、授業内容に関したように感じられたので止めませんでした。次回からは気をつけたいと考えております。

## ✖ 今後の改善に向けて

さらに、学生のみなさまが補助犬やAAAなどにご関心をもたれるよう、新たな工夫

をさせていただこうと考えております。日本聴導犬協会内などでの訓練についてのYoutubeなどをご高覧いただきかけたのですが、wifiの持参をしたいと思います。

平成27年度  
障害支援とアシスタンスドッグ  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



科目名

# 障害者スポーツ演習

- 担当教員 鳥居 昭久、加藤 真弓、荒谷 幸次
- アンケート実施日 11月7日
- 出席者数 15

## 集計データ結果について

概ね高得点になっていることから、講義内容については問題は無いと思われる。この科目は、選択科目でありながらも、理学療法士や作業療法士としての専門性をスポーツの分野で直接活かせることもあり、受講する学生のモチベーションは比較的高く、実習を含めて積極的な姿勢が見られたこともあり、集計結果にそのまま反映されていると考えられる。講義時間については、他科目の影響もあり、変更などが多かったことが若干の点数不足に反映されているのではないかと推察される。

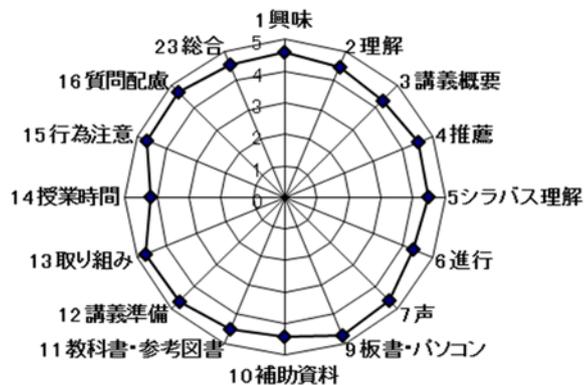
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

一般学生にとって初めての分野であり、内容に関する関心は高いと思われる。講義時間の変更などについて、学生に負担をかけてしまったことが改善すべきことであろうと思われた。

## 今後の改善に向けて

実習系の内容が若干少ない印象があり、少しでも実技を多くできることと、学生主体のアクティブラーニングの運用を多くしていく予定である。

平成27年度  
障害者スポーツ演習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 理学療法概論

- 担当教員 鳥居 昭久、宮津 真寿美
- アンケート実施日 7月30日
- 出席者数 45

## 集計データ結果について

概ね高得点であり、バランスが取れていると考えられるので、円グラフ上は満足できる結果であると思われる。時間に関する点数がやや低めに出ているのは、他業務との兼ね合いで、時間変更が合ったためと思われる。

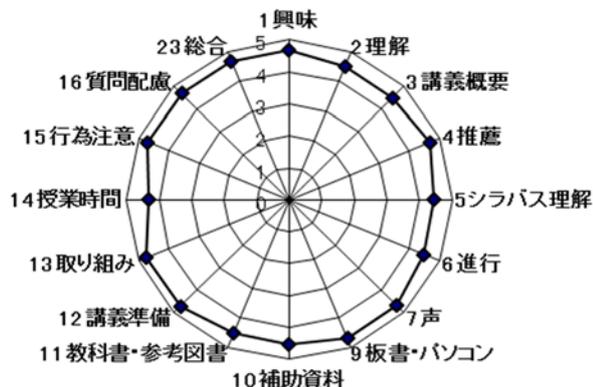
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

本講義は、理学療法を学ぶ上での基礎知識のみならず、理学療法士になるにあたっての様々な将来ビジョン、現状と課題について提示した。学生にとっては、前途洋々と入学してきたものの現実の厳しさを感じ、自らがどの様に取り組むべきかを実感として感じてもらえたようで、その点では満足できる解答が多かった。ただ漠然と学校の日常を過ごすのではなく、資格を取った上で、どの様な理学療法士を目指すべきなのか、そのためにどの様な努力をすべきかを模索するきっかけになれば、この講義としては目標を達成したと考えることができるかもしれない。この講義を終えて、いよいよ専門科目が始まる中で、学生たちの成長を期待したい。

## 今後の改善に向けて

本講義の内容には有る程度の満足感はあるが、次年度に向けて対話型の講義展開を導入検討している。本年度は、時間的な調整が大変な部分があったが、単にこの科目だけの問題ではないので、総合的に調整する必要がある。

平成27年度  
理学療法概論  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 臨床運動学 (PT)

- 担当教員 河野 健一、松村 仁実
- アンケート実施日 7月13日
- 出席者数 40

## 集計データ結果について

下記の図の通り、「理解」のみ4.台の前半だが、それ以外の項目は全て4.台の後半で良い結果であった。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

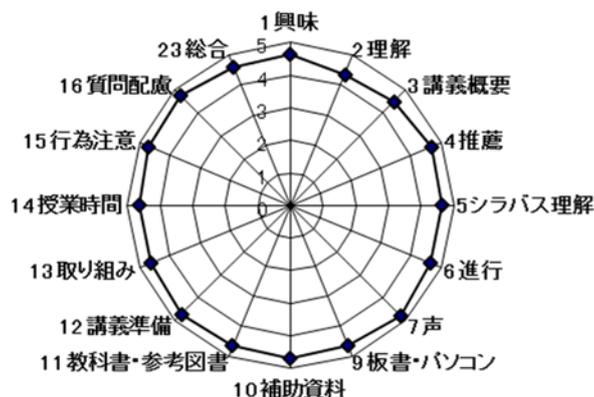
上記の「理解」に関する自由記載が目立った。

消極的意見として「実際の動作分析をもっと実施したかった」、「動作分析をしてみたものの時間がなく、また解説も決して十分とは言えずよくわからないまま終わってしまった」というものであった。この意見については、講義の初回に示した到達目標の周知が十分でなかったためたものと考えられる。

## 今後の改善に向けて

昨年度とくらべ、開講時期が後期から前期に変わった。そのため、科目の到達目標を動作分析中心から、健常者の動作の理解に主眼を置き、そこから異常動作の分析方法の獲得を目標とした。しかし、筆記試験の結果も踏まえると決して知識の定着には至らず、そこには自己による準備学習が十分ではないためと考えられる。準備学習を促すことができるようなコンテンツの提供を考える必要がある。

平成27年度  
臨床運動学(PT)  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 運動療法総論

- 担当教員 松村 仁実
- アンケート実施日 11月18日
- 出席者数 42

## 集計データ結果について

どの項目も大きな差がなくバランスが取れている結果である。  
授業内容では、理解、シラバス理解の項目で若干評価が低い。  
授業方法では、板書・パソコン、教科書・参考図書の項目で若干評価が低い。

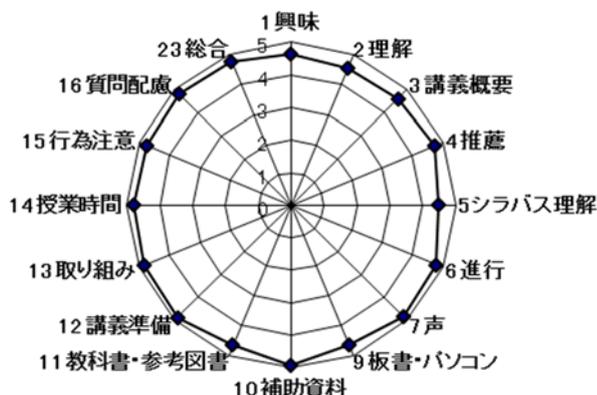
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

スライドを使用することと資料プリントの配布は肯定的な評価であった。ただし、スライドで示した図の大きさや文字の大きさへの配慮を求める意見もあった。  
授業の進行スピードが速い時があるとの意見があった。  
実演をすることで、イメージがつかみやすかったとの意見も見られた。

## 今後の改善に向けて

見やすいスライド作成によりスムーズな理解につながる可能性がある。  
学生の理解状況を確認したり、学生とのやり取りから理解度を確認することにより、説明不足を補うよう配慮していきたい。  
実演し、実際に学生にも体を動かしてもらするなど体感する時間を挟むなどし、理解が深まるような工夫をしていきたい。

平成27年度  
運動療法総論  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 検査測定法

- 担当教員 木村 菜穂子、加藤 真弓、松村 仁実、清島 大資
- アンケート実施日 3月7日
- 出席者数 41

## 集計データ結果について

おおむね、4以上の評価を得られており、全体としては特に問題はなかったかと思われます。実技系の科目でもあり、毎回ではないものの小テスト等も実施しましたので、学生のみなさんも受け身にならず、取り組みができたとの自己評価もある程度見られ、よかったかと思えます。

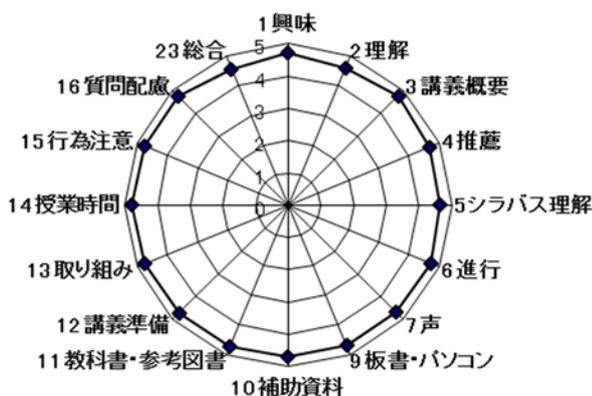
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載では、「もう少し詳細な資料等が欲しかった」というご意見がありました。内容によっては、追加の資料も準備しましたが、不足を感じた方もいたようです。ただ、不足の感じ方には個人差もあり、自分には足りないと感じれば、自ら資料を探す、といった能動的な行動も必要かと思っています。もちろん、相談があればアドバイスはできるかと思えますので、自ら学ぶ姿勢も打ち出していきたいと考えます。

## 今後の改善に向けて

本講義は、学生の皆さんが「自ら学ぶ」ことが意識できるよう、予習による疑問点の抽出→授業にて確認し、実際に行う→復習にて再度確認、というサイクルで行っています。実技を中心とした科目ですので、実行しやすいと思っていますが、そのために必要な手助けは、教員一同今後も積極的に行っていきたいと考えています。

平成27年度  
検査測定法  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 検査測定法実習

- 担当教員 木村 菜穂子、加藤 真弓、松村 仁実、清島 大資
- アンケート実施日 3月7日
- 出席者数 37

## 集計データ結果について

検査測定法と同様の結果であり、学生のみなさん自身も実習に積極的に取り組んでいただけたようですので、この結果からは特に大きな問題はなかったかと思われまます。

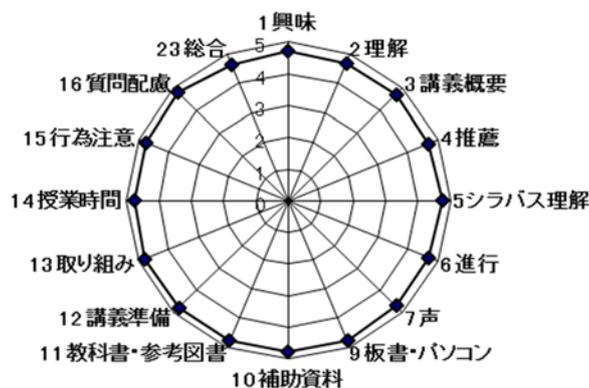
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載もほとんどありませんでしたが、一部の学生から「他の実技系科目の様に、実技の小テストも実施して欲しかった」とのご意見をいただきました。おそらく、実技試験に向けての対策にもなるかと思いますが、実習（練習や確認）時間をできるだけ授業時間内に確保したいとの思いもあり、実施しておりません。

## 今後の改善に向けて

自由記載にありました「実技小テスト」の実施については、講義内容の多さと講義時間数の問題もあり、すぐに対応するのは難しいかと思ひます。しかし、小テストがないと練習（予習・復習等）ができなるとすると、それは大変残念なことです。授業時間内に、予習や復習で上がった疑問点をできるだけ解決することと、自分の技術を磨いていくためには、どれだけの取り組みが必要なのかをもう一度考えていただければと思ひます。

平成27年度  
検査測定法実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 理学療法評価法

- 担当教員 河野 健一
- アンケート実施日 12月22日
- 出席者数 43

## 集計データ結果について

各設問に対する回答の内訳は、段階5が80%程度、段階4が15%程度であった。下図の5段階の円グラフについては、すべての項目が5点近くに分布しており、良好な授業評価を得ることができたと考えられる。ただし、設問2「十分に理解が得られたか」という設問については、他の設問と比較し段階4の割合がおおかった。

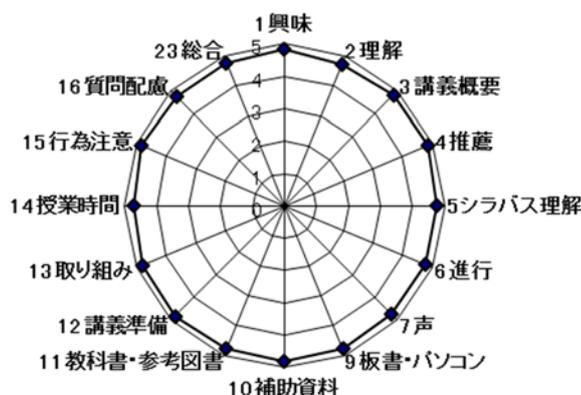
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

残念ながら自由記載はほとんどなかった。その中で、板書の字が英語のことがあり分かりにくい、また、略語を使うことが多く分かりにくいとのコメントがあった。これは集計データの理解が十分でなかったことにつながっている可能性があり、板書を丁寧にするよう心がける必要がある。

## 今後の改善に向けて

アクティブラーニングにより能動的に理学療法評価の概念部分を学修することができたと考えている。アクティブラーニングで学んだことに対し、さらに丁寧な説明、解説にてリフレクションの役割を果たすことが今後の課題と考えられる。

平成27年度  
理学療法評価法  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 理学療法評価法実習

- 担当教員 鳥居 昭久、山田 正人、加藤 真弓、宮津 真寿美  
荒谷 幸次、木村 菜穂子、松村 仁実、河野 健一  
清島 大資
- アンケート実施日 12月22日
- 出席者数 51

## 集計データ結果について

各設問に対する回答の内訳は、段階5が80%程度、段階4が15%程度であった。下図の5段階の円グラフについては、すべての項目が5点近くに分布しており、良好な授業評価を得ることができたと考えられる。ただし、設問2「十分に理解が得られたか」という設問については、他の設問と比較し段階4の割合がおおかった。

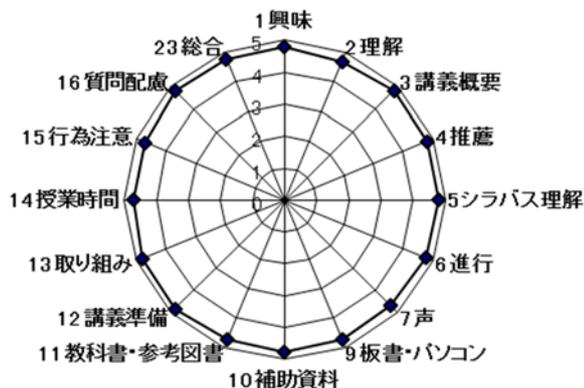
## 学生の自由記載の内容を検査した結果

残念ながら自由記載はほとんどなかった。自由記載に、肯定的意見、否定的意見どちらであっても、そして些細な内容でも構わないので記載してもらえそうな環境づくりが必要だと考えられる。

## 今後の改善に向けて

アクティブラーニングにより能動的に理学療法評価の中核部分であるクリニカルリーズニング、評価項目の選択、評価の実技練習、動作分析、統合と解釈について、模擬症例を用いて学修することができた。アクティブラーニングで学んだことに対し、より丁寧な説明、解説にてリフレクションの役割を果たすことが今後の課題と考えられる。

平成27年度  
理学療法評価法実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 中枢神経系障害理学療法治療学

- 担当教員 加藤 真弓、松村 仁実
- アンケート実施日 6月8日
- 出席者数 49

## 集計データ結果について

「進行」の点がやや低いものの、4点台で概ね良好な結果と考える。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

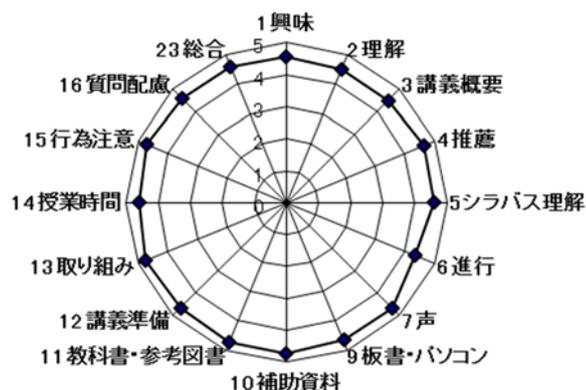
肯定的な意見として、「予習・復習を行うことで理解できているかなどを確認することができた」「例などがあったため分かりやすかった」「基礎が大事であることがわかった」「ディスカッションの時間があつたので理解しやすかった」「補足資料が分かりやすかった」があつた。一方で「早くてついていけない時があつた」「難しいと感じた」との意見もあつた。例年、この授業は「難しい」という感想が多い。今回も同様の意見はあつたが、昨年よりも少なかった。

その理由としては、予習課題の実施と授業時間終了前に2人ペアでの授業内容確認や、昨年よりも内容を絞ったことが考えられた。予習をすることで授業についていきやすくなり、その日の授業内容を簡潔にまとめ相手に伝え、それを聴いた人が内容を吟味することで、理解しやすくなったのではないかと推測する。しかし、試験結果は成果が出ている学生とそうでない学生の二極化がみられるため、学生の自己学習時間の確保や、理解しているようでしていない学生が自己点検できる機会を設ける等もう一工夫必要であると思われる。

## 今後の改善に向けて

1年次の基礎知識が十分に備わっていない学生や、学習方法が暗記中心の学生は、事前事後学習が必須である。授業時間のみでは理解しきれないため、授業時間外の学習時間確保と予習復習として適切な課題設定に工夫が必要と考える。

平成27年度  
中枢神経系障害理学療法治療学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 中枢神経系障害理学療法治療学実習

□ 担当教員 松村 仁実、加藤 真弓

□ アンケート実施日 11月18日

□ 出席者数 47

## ✧ 集計データ結果について

概ね4点台半ばあたりであった。理解度が若干低めである。

## ✧ 学生の自由記載の内容を検討した結果

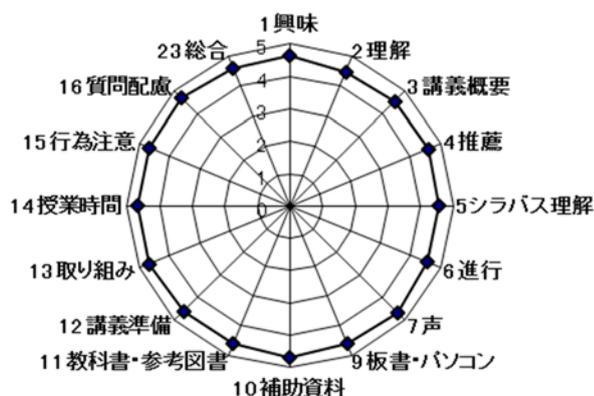
図がわかりやすかったという意見があり、スライドや配布した資料の工夫が評価されている。また、毎週の課題があったことにより理解が深まったとの意見もあった。

自己学習が上手く行えた結果と考えられる。

## ✧ 今後の改善に向けて

専門基礎科目の理解の上に講義内容を構成している。従って専門基礎科目との結びつきを求めため、理解の点で評価が低いことは想定できた。ただし、専門基礎科目の理解は、講義時間で実施するのは難しく、自己学習で補う範囲である。課題に対する自己学習により理解を深めることができたとの意見があったことから、課題は学習の有効な方法であることが分かる。そこで、提示する課題内容、課題量を検討し、十分な自己学習に結びつくような理解度に応じた課題の設定を工夫する必要がある。

平成27年度  
中枢神経系障害理学療法治療学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 整形外科系障害理学療法治療学

- 担当教員 荒谷 幸次、鳥居 昭久
- アンケート実施日 12月11日
- 出席者数 42

## ✖ 集計データ結果について

授業内容、授業方法、教員、総合とも4～5段階であり本講義に関しては、学生の満足度は高かったと思われる。本講義は、整形外科疾患の理学療法である為、3年次臨床実習で必須な講義内容であった為、学生にとっては比較的興味深い内容であったものと思われた。

## ✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

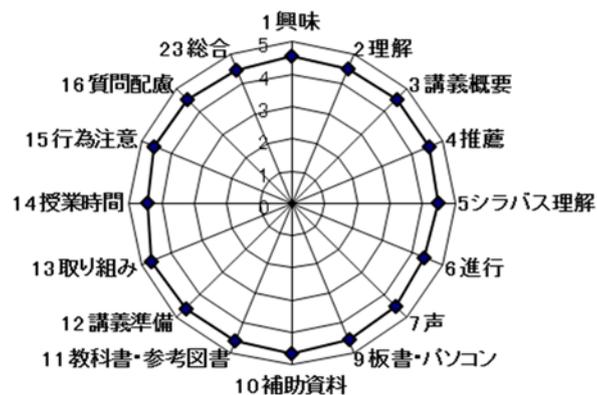
自由記載なし。

## ✖ 今後の改善に向けて

今回は比較的良好な結果であったが、講義進行がシラバス通りに進めることができないところがあったので、今後は改善が必要である。

引き続き、学生の興味や学習に対する動機を引き出せるような講義を展開できるよう取り組んでいきたい。

平成27年度  
整形外科系障害理学療法治療学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 整形外科系障害理学療法治療学実習

□ 担当教員 荒谷 幸次、鳥居 昭久

□ アンケート実施日 12月11日

□ 出席者数 42

## 集計データ結果について

授業内容、授業方法、教員、総合とも4~5段階であり本講義に関しては、学生の満足度は高かったと思われる。本講義は、整形外科疾患に対する理学療法を学習するということから、比較的身近な疾患も話題も多く、臨床実習前の2年次に興味深い内容であったものと思われた。

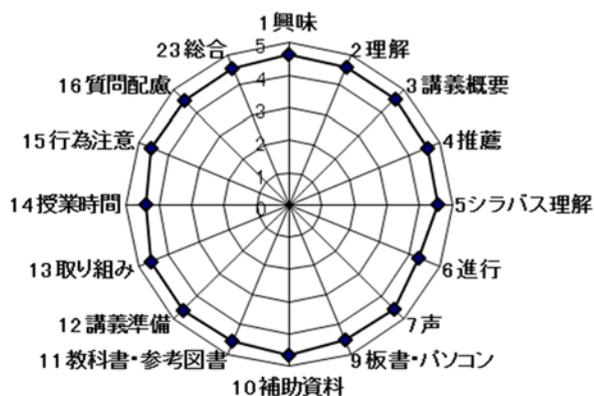
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の内容としては、「分からないこともすぐ対応してもらえてよかった」「もっと時間があるとよかった」という記載があった。整形外科系障害理学療法治療学（座学）で行った内容を次のコマで実技確認するという形態を進めた。最初にデモを行い、その後学生の実技実習を行った為、質問がしやすい環境ではあった。しかしながら、実技に重きを置いていた為、学生の習熟度合いによっては、予定通りに進めることができなかつたところもあり、時間が足りなかつたという印象を与えたと考えられた。

## 今後の改善に向けて

実技の時間をさらに十分に取れるよう、デモを丁寧に行う、予習を提示するなどの工夫をしていきたい。また、質問がしやすい環境づくりを心掛けたい。

平成27年度  
整形外科系障害理学療法治療学実習  
1~5授業内容、6~11授業方法、  
12~16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 内部疾患系障害理学療法治療学

- 担当教員 河野 健一、宮津 真寿美
- アンケート実施日 12月16日
- 出席者数 44

## 集計データ結果について

全ての項目において、90%以上が4、5の段階づけをしていた。3の段階づけが5%を超えた項目は、「授業の進み具合は適切だったか」、「理解できない点を質問したか」の2つであった。授業の進み具合については、進行を早いと感じた学生が多かったと考える。今年度は、全講義において、グループワークによるアクティブラーニングを取り入れた。その意味では、昨年度よりは進行はゆっくりであったが、グループワークに時間を割きすぎ、その後の説明が駆け足になった回があったことが反省である。

また、「理解できない点について質問したか」については、今年度、ポートフォリオを導入し、その補助資料として、振り返りシートの作成を義務づけた。振り返りシートの中に、理解が不十分な点はなにかを問うており、そこまでは学生自身に認識させたものの、そこからの取り組み方についての指導がさらに必要と考えられる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

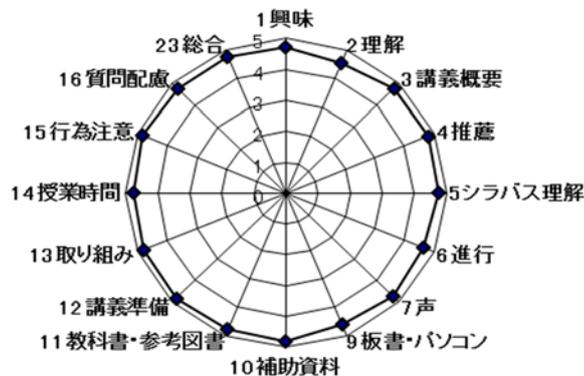
肯定的意見として、今年度導入したポートフォリオと小テストが好評であった。学修プロセスの評価として今後も取り入れるべきものと考えられる。

否定的意見として、早口、板書の字が小さいとの意見があった。真摯に受け止め、改善すべき点と考えられる。

## 今後の改善に向けて

上記記載の通り、講義の進行と時間配分による説明時間の十分な確保をした上で、ゆっくりとした喋り方、大きな字での板書といったように丁寧な講義の進行を心がけたい。

平成27年度  
内部疾患系障害理学療法治療学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 内部疾患系障害理学療法治療学実習

- 担当教員 河野 健一、宮津 真寿美
- アンケート実施日 12月16日
- 出席者数 44

## 集計データ結果について

「18. 学生が理解できない点を質問したか」の項目を除いて、95%以上が段階4以上の評価であり、概ね授業評価は良好な結果であった。また、本科目は、内部疾患系障害理学療法治療学と連動させ明確な境界を設けていなかったため、当該科目とほぼ同様の授業評価結果が得られた。

18については、10%の学生が十分に質問にくるという取り組みができていなかった。

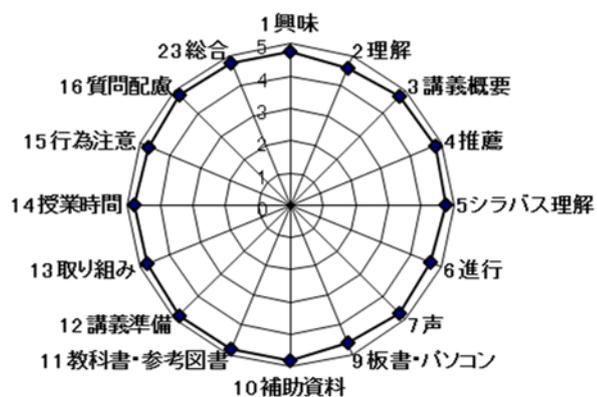
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目はグループワークにてアクティブラーニング形式で進めた。自由記載において、グループワークのメンバーを固定してほしいとの意見があった。メンバーの固定は一長一短があり、その点を学生にしっかりと説明して実施する必要がある。

## 今後の改善に向けて

今年度、ポートフォリオと小テストを評価基準に加えた。アクティブラーニングと合わせて、授業形態、成績評価の評価方法としては良い結果であったが、学生がさらに能動的にわからない点などを質問できるような環境を整えていくことが今後の課題と考えられる。

平成27年度  
内部疾患系障害理学療法治療学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 小児疾患系障害理学療法治療学

- 担当教員 野原 早苗
- アンケート実施日 5月15日
- 出席者数 39

## ✖ 集計データ結果について

毎年の課題であるが、生後2年くらいまでの子どもの正常発達のイメージが難しい為、なるべく動画や静止画や人形を使用している。動画は、かわいいと感じてよく見てくれるので、授業の導入部分として開始できたので、下記の集計結果につながったと考える。また、教科書に加え、分かりにくい部分や、必ず覚えてほしい部分は資料作成し配布し、また、板書をノートではなく教科書に書き込む作業を多く取り入れたことも良かったと考える。加えて、グループに分かれて、質問に対するグループミニ発表を数回取り入れたことによって、話し合いながら考える事ができたのではないかと思う。

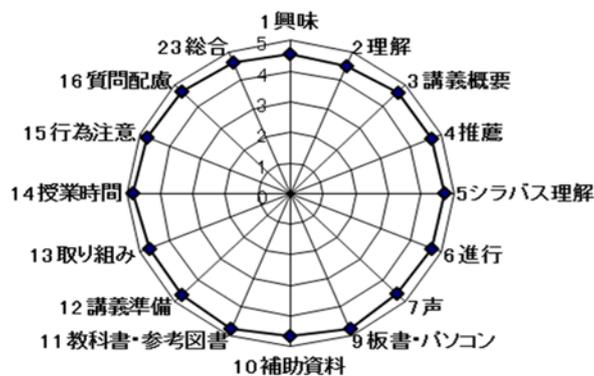
## ✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載には、「動画を見ることによって理解が深まりイメージが膨らんだ」という意見があるので、やはり、動画は必要不可欠と考える。しかし、「やっぱり小児は苦手分野です」との記載もあるので、興味が持てる授業内容の検討がまだまだ必要である。

## ✖ 今後の改善に向けて

動画の種類を増やし、授業の導入部分だけでなく合間に使用できるように工夫し、苦手意識の払拭を目指していきたいと思う。

平成27年度  
小児疾患系障害理学療法治療学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 小児疾患系障害理学療法治療学実習

- 担当教員 野原 早苗
- アンケート実施日 7月10日
- 出席者数 39

## 集計データ結果について

小児疾患系障害理学療法治療学の授業で2歳までの正常発達のイメージを深め、正常と障害特徴の比較、セラピストの身体の使い方を赤ちゃんの人形を使用して実施した。また、身体の使い方や道具（おもちゃ）の使用方法、各障害の特徴についてグループディスカッションを含めて実演とミニ発表、そして教科書を読むだけでなく自身で考える時間を設けたことが下記の集計結果につながったと考えた。

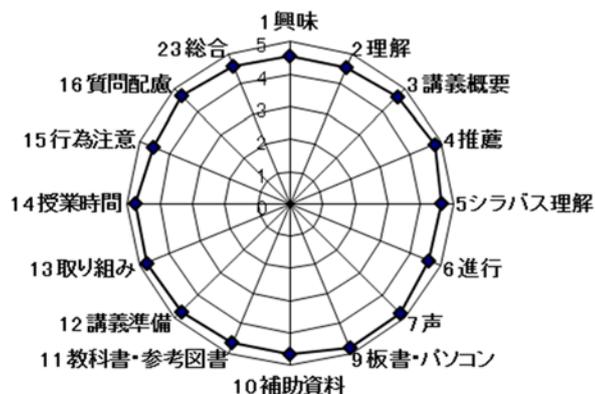
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

「実際に小児の特徴の真似して覚えやすかった」や「ディスカッションして考える時間が何度もあって良かった」などがあり、昨年の授業より自身で経験し考える時間を増やした事が理解につながったのではないかと考える。反面、「教科書を読むだけが多くて眠かった」という記載もあり、教科書を進めていくことに対しても何らかの工夫が必要であることも分かった。

## 今後の改善に向けて

今後もディスカッションやミニ発表を実施し、小児分野の授業に対する興味と理解を深めていきたい。また、教科書内容を進めていく時できるだけ、興味を持てる方法を早急に検討する必要性を感じた。

平成27年度  
小児疾患系障害理学療法治療学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 老年期障害理学療法学

- 担当教員 木村 菜穂子
- アンケート実施日 6月16日
- 出席者数 42

## ㊦ 集計データ結果について

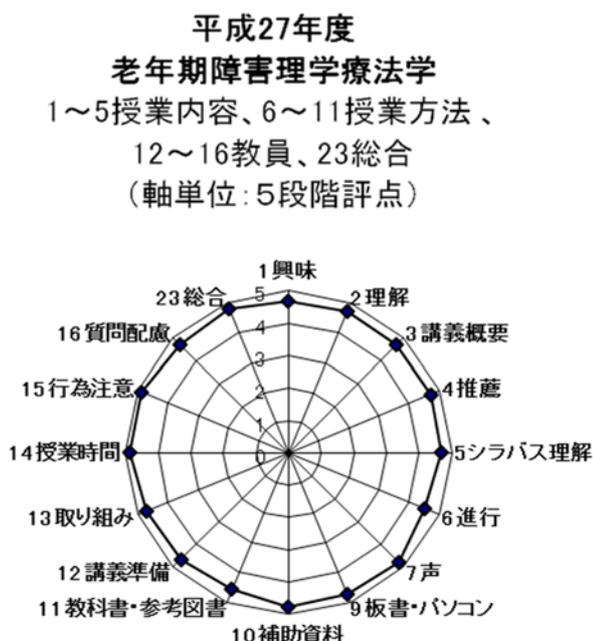
学生の皆さんからのアンケート結果は、おおむね4以上という評価をいただきました。また、昨年は講義の進行においてやや低い点数でしたが、若干講義内容を見直したことから、昨年よりもその点評価していただけたかと思っております。

## ㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載内容では、「具体例を挙げ(多くは、私自身の経験や家族の話です)、それを授業につなげていく所が理解しやすかった」「プリントで講義内容がまとめてあり、理解しやすかった」と、これも昨年と同様の評価をいただきました。できるだけ、講義内容を身近に感じていただきたいと考え、工夫をしているつもりですので、よかったですと思います。しかし一方で、昨年よりは改善したものの、「授業内容に対して時間が短いと思う」とのご意見いただきました。これは、反省すべき点だと考えています。

## ㊦ 今後の改善に向けて

平成26年度の反省(講義時間と講義内容・分量のミスマッチ)をふまえ、できるだけ学生の皆さんに大きな負担をかけることのないよう、講義内容を見直したつもりではありましたが、まだ十分でないことがわかりましたので、さらに講義内容・分量の吟味を重ね、来年度の講義につなげていきたいと考えています。加えて、皆さんから評価していただいた点については、今後も継続していければと思っています。



# 科目名 日常生活活動学

□ 担当教員 加藤 真弓

□ アンケート実施日 5月12日

□ 出席者数 41

## ✎ 集計データ結果について

「理解」、「興味」が他項目と比べやや低いものの、4点台で概ね良好な結果であると考えます。

## ✎ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「グループディスカッションがよかった」「ディスカッションによって理解が深まった」「課題があったので予習復習に取組みやすかった」「授業の終わりにペアでその日の内容の確認をするので理解が深まった」などの肯定的意見が多かった。今回の授業では、事前に教科書の予習や課題を課し、授業で内容を深めるようにした。また、グループディスカッションを行い、多くの意見を出させることと、他のグループの意見を聴くことを実施した。その他、各授業時間の最後5分ほどで、2人ペアになりその日に学んだことを相手に伝えることを行った。自己学習時間を作ったことと、学生同士の学び合いの時間が肯定的意見に繋がったと考える。

一方で、「授業数が少なく進みが早いのでついていけなかった」との声が少数ながらあった。グループワーク時間は、短めに設定した。理由は、時間が長いと学生がだらけてしまうこと、日頃の学生の様子から、のんびり行動している場面をよく目にする。臨床現場では、限られた時間内に作業遂行しなければならないことがあるため、短い時間で成果を出すこと目標に行った。授業時間数短いこととグループワークを取り入れることから、テンポよく進めなければ、時間内に授業が終了できないのも現状としてある。

## ✎ 今後の改善に向けて

今回の取組みを継続しつつ、より理解ができるよう、インプットだけでなくアウトプットできる取組みを検討したいと考える。



# 科目名 日常生活活動学実習

- 担当教員 加藤 真弓
- アンケート実施日 12月11日
- 出席者数 42

## 集計データ結果について

平均4点台で概ね良好な結果と考える。

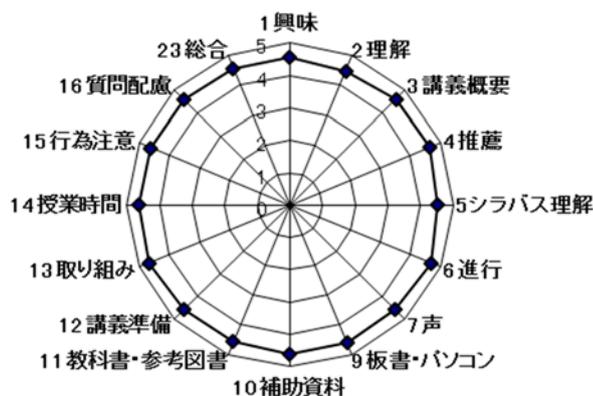
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載はわずかで、「わかりやすかった」2件、「グループ学習がよかった」1件、「知識をグループメンバーで共有する意味がわからない」1件、「実技の時間がもう少し欲しかった」1件であった。授業形式は、昨年度同様に反転授業とアクティブラーニングを行ったが、アンケートからはその是非を伺うことができなかった。昨年の学生と比較して感じたことは、積極的にディスカッションしていたグループが1/3程度で取組みに差があることが気になった。

## 今後の改善に向けて

授業方法の目的を十分に理解させること。自ら学ぶのではなく受身的な学習姿勢の学生を、いかに目的を持って他者と協働しながら学習できるようにするための環境づくり及び動機付けができるよう検討する。

平成27年度  
日常生活活動学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 義肢装具学

- 担当教員 鳥居 昭久
- アンケート実施日 6月27日
- 出席者数 45

## 集計データ結果について

概ね平均的に高得点ではあるが、科目担当教員が急遽変わったこともあり、教員も準備が不十分であり、一方の学生もとまどいなどがあつたと予測される。その点で、データをそのまま鵜呑みには出来ない。次年度に向けてデータに表れていない問題点を考慮して準備する必要があると思われる。

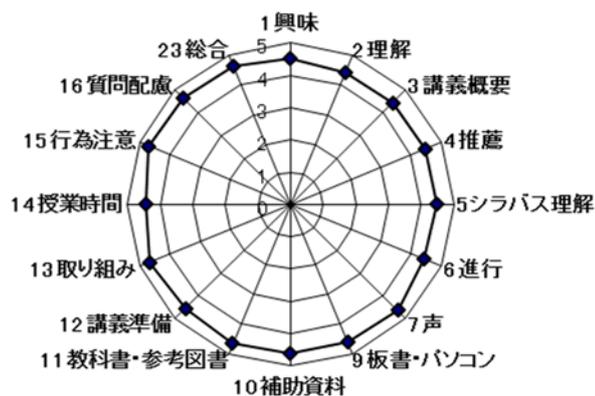
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

特になし

## 今後の改善に向けて

次年度に向けて、担当教員など含め本教科の内容など再検討すべきと考えている。また、教材となっている義肢や装具が古いタイプが多く、現状に合わない点があるので、新規購入などを検討すべきである。

平成27年度  
義肢装具学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 義肢装具学実習

- 担当教員 山田 正人
- アンケート実施日 12月14日
- 出席者数 37

## 集計データ結果について

各項目ともほぼ偏り無く、授業評価は良かった様に思われる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

アンケート回答 35 名中、記載は 2 名のみで、感謝の意と、配布資料に対する良い評価ではあったが、他は白紙だった。

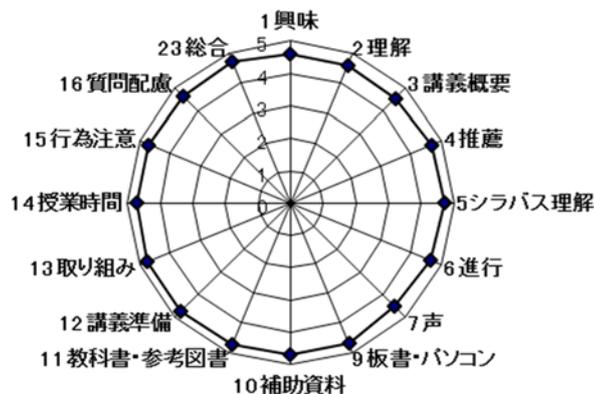
アンケートを取る時間帯が試験開始前で、短時間な為ではないかと推察される。

各自、試験を終え、退室する際に記載した方が良い様に思われる。

## 今後の改善に向けて

当短大所有の見本の各装具は古く、あまり適切な学習用の装具とは思われない。今後、講義の充実を図るには、新たな見本用装具を整える必要がある。

平成27年度  
義肢装具学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 物理療法学

- 担当教員 清島 大資
- アンケート実施日 6月10日
- 出席者数 40

## 集計データ結果について

物理療法学は昨年までと担当教員が変更になったが、全項目が概ね良好な結果であった。学生に授業のポイントを理解してもらうため、毎回プリントを配布し、臨床での体験談などの話を入れるなど、授業を工夫して行った。また、物理療法に対するイメージを具体的にさせるため、一部の物理療法機器の体験学習も行った。しかし、理解させるという点ではもう少しわかりやすく授業を行う事ができたのではないかと反省している。学生が受け身の授業ではなく、学生主体の参加型授業にできるよう組み立てていく必要があると考えられた。

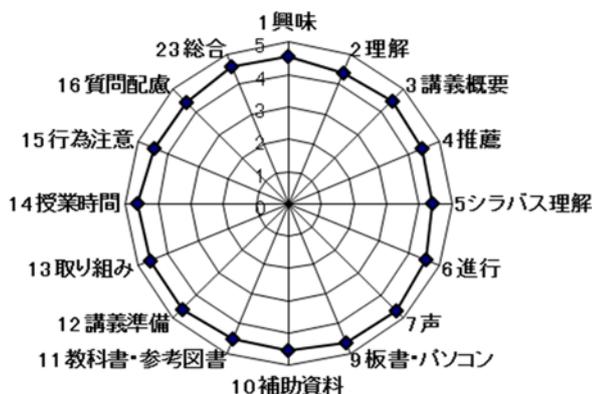
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

教科書を読んでいる授業と受け止められていた。これは、教科書に記載されている重要な内容は復唱を毎回行い、かつ復習しやすいよう教科書に沿って授業を行ったためだと考えられる。出来る限り沢山の物理療法機器を紹介したが、様々な物理療法機器を知ることができたと好評であった。良いところは今後も継続して行っていく。

## 今後の改善に向けて

学生が授業をどうすれば理解できるのかを工夫していく必要がある。理解できない学生は、物理療法のイメージが難しい学生が多い。よって、授業前にキーワードを提示し、事前学習を促したり、体験学習の時間を増やすことで、行動学習を行わせ、知識のイメージ化を図っていく。それにより理解度の向上に繋がりたいと考える。

平成27年度  
物理療法学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 物理療法学実習

- 担当教員 清島 大資、河野 健一
- アンケート実施日 9月15日
- 出席者数 37

## 集計データ結果について

物理療法学実習は昨年までと担当教員が1名変更となったが、全項目が概ね良好な結果であった。学生主体の実習を行うため、実習前に内容を確認し、ポイントを確認する工夫を行った。また、物理療法機器を使用した効果を検証するため、実習後に毎回レポート課題を課した。学生自身が能動的な学習となるため、概ね好評であった。

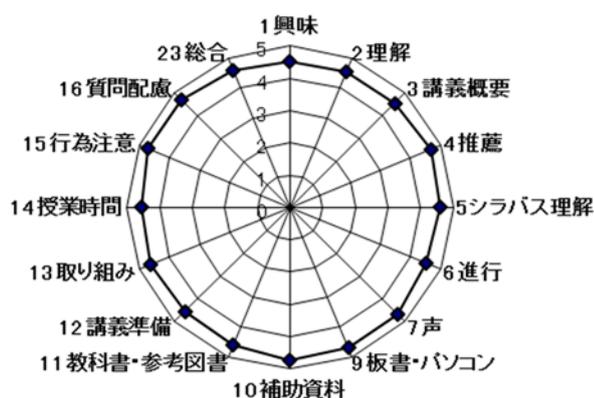
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

レポートの書き方やそれぞれの物理療法機器を学生自身が扱い、考えながら進めることができ、知識の定着になったと好評であった。その一方で、グループワークが大変であったようだ。グループワークは、能動的な学習となるため、意欲や集中力を高めることで学習効率を高める。また、色々な人と課題をディスカッションすることで、実践的な学習になる。慣れないと大変であるが、利点が大きいため、今後も継続して続けていきたい。

## 今後の改善に向けて

学生の理解度をあげていく必要がある。特に、レポートの考察が深くできるように指導する必要がある。レポートの考察内容が浅く、物理療法機器の効果検証のエビデンスを今一つ捉えきれなかったのではないかと反省している。それぞれの項目ごとに、考察に必要なキーワードをあげたりし、考察を深くできるよう指導する必要があると考えられた。それにより理解度の向上に繋がりたいと考える。

平成27年度  
物理療法学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 理学療法特論Ⅰ（神経生理学的アプローチ）

- 担当教員 鳥居 昭久、加藤 真弓
- アンケート実施日 12月11日
- 出席者数 26

## 集計データ結果について

全ての項目において4点台であり、バランスのとれた形となっており、概ね良好な結果と考える。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目は2人の教員によるオムニバス形式で実施した。神経生理学的理論を基盤とした「PNF(固有受容性神経筋促通法)」と、「脳科学と理学療法」の講義とした。

PNFでは実技を中心に行い、神経生理学に基づいた方法を用いることにより身体運動のしやすさを実感してもらえ内容とした。自由記載内容としては、「人の動き方の特徴が分かり楽しかった」、「誘導・促通が上手くいくとこんなに簡単に動作が促せるのかと思い面白かった」など肯定的な意見が多かった。

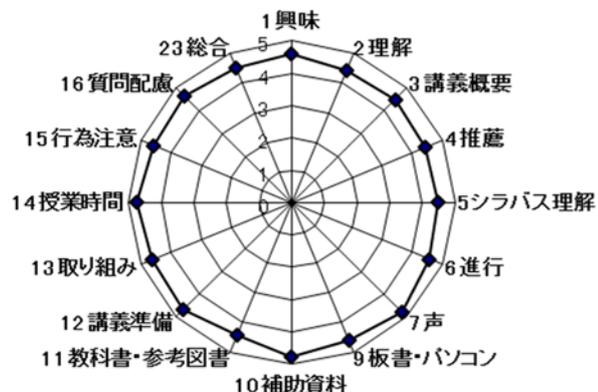
脳科学と理学療法は、臨床実習における脳血管障害患者の理学療法体験を振り返り、どのような考えに基づいて理学療法が行われていたのかを病期に応じてグループディスカッションさせた。自由記載内容は、「臨床実習の経験をディスカッションできて楽しかった」「病期に応じた理学療法の違いが学べてよかった」などの肯定的な意見が多かった。一方で「難しかった」という意見もあった。

回答者は14名/27名と約半数であったが、肯定的な意見が多かったのは、臨床実習後であったことや、半年後には臨床で理学療法を行うことがイメージしやすかったことが理由の一つとして考えられた。今回の授業内容・方法は概ね良好であると考えられる。

## 今後の改善に向けて

自由記載の意見の1つに「解決方法がわからなかった」とあった。障害に対するアプローチ方法は定型なものではなく正解は一つではない。それが十分に理解できていなかったと思われる。この点について、授業前に十分なオリエンテーションを行うようにしたいと考える。

平成27年度  
理学療法特論Ⅰ（神経生理学的アプローチ）  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
（軸単位：5段階評点）



## 科目名 理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ）

- 担当教員 荒谷 幸次
- アンケート実施日 12月21日
- 出席者数 7

### ㊦ 集計データ結果について

授業内容、授業方法、教員、総合とも4～5段階であり本講義に関しては、学生の満足度は高かったと思われる。本講義は、「関節運動学的アプローチ」という理学療法の治療テクニックの内容であった為、臨床実習を終えた3年生に対しては馴染みやすく、興味深い内容であったものと思われた。

### ㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

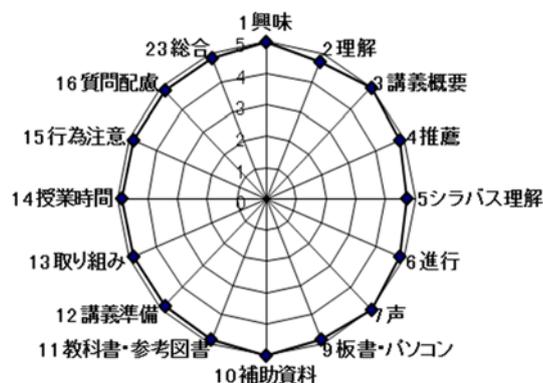
記載内容については、「映像があってわかりやすかった」、「実際に治療効果が表れてとても面白かった」、「関節内運動を動画で見てイメージしやすかった」、「講義と実技を合わせてやっていくのでわかりやすかった」などの意見があり、関節運動の動画をみせながら、実技中心の講義は効果的であったと思われる。

一方で、「実習前に受けたかった」という開講時期についての意見もあった。

### ㊦ 今後の改善に向けて

今回初めての開講であったが、比較的満足度は高かったと考えられる為、来年度も同様に、実技中心で動画を用いての講義としていきたい。開講時期については、3年次開講科目である為、臨床実習後の開講が難しいと思われる。

平成27年度  
理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ）  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
（軸単位：5段階評点）



# 科目名 理学療法特論Ⅲ（筋生理学的アプローチ）

- 担当教員 宮津 真寿美、清島 大資
- アンケート実施日 3月11日
- 出席者数 19

## 集計データ結果について

すべての項目で4点代であり、学生の評価は良好であった。この科目は選択科目で受講したい学生のみが受講している。それが、高い評価の理由の一つかもしれない。9 板書・パソコンの項目がやや低い、この理由に関する記載がなく、問題点が不明である。

担当教員が変更になったが、大きな問題はなかったと考える。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

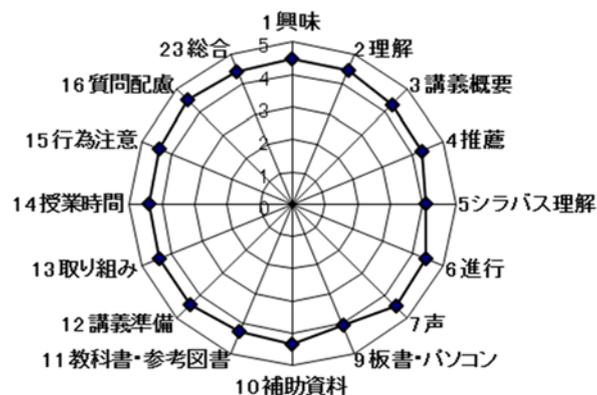
ほとんど自由記載がありません。

受講生 19 名中、「わかりやすかった」「興味のもてる内容で面白かった」との記載が 3 名、「実技がよかった」「実技が分りやすかった」との記載が 2 名であった。ネガティブな意見はなかった。

## 今後の改善に向けて

学生の評価から、特に改善点は見当たらない。今後とも、興味深く、わかりやすい授業に努めたい。

平成27年度  
理学療法特論Ⅲ（筋生理学的アプローチ）  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
（軸単位：5段階評点）



## 科目名 理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法学）

- 担当教員 鳥居 昭久
- アンケート実施日 12月18日
- 出席者数 12

### ㊦ 集計データ結果について

特に大きな高低差はないのでバランス良い結果だったと思われる。

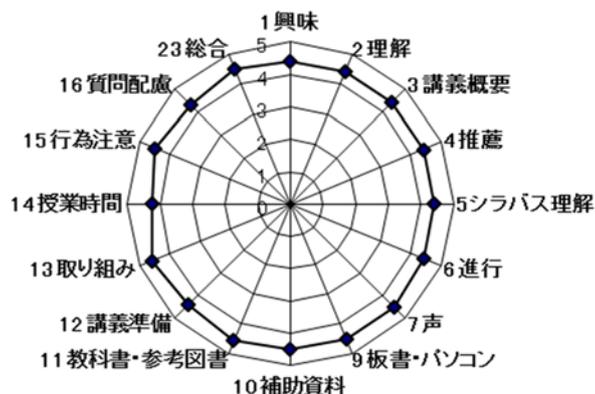
### ㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

基本的に臨床ですぐに役立つ技術を中心に講義を進めた。テーピングなどは、講義時間内に、ある程度の技術水準に到達させるのは困難であったが、まずは基本的な考え方やテープの取り扱いについて学べたのが興味を持たせる意味で有効であったと思われる。スポーツ障害は、基本的に対症療法に止まらず、いかに予防、再発予防するかがポイントになり、動作分析などが大きな柱となる。その点で、学生の視点も治療的な理学療法だけではなく、予防としての視点を持たせたと考えられる。

### ㊦ 今後の改善に向けて

テーピング技術は自己トレーニングを多く必要とする。卒業研究、国家試験対策などで大変な時期に開講しているという部分で負担も多いが、最低限度の技術を習得させる為のプログラムを検討したい。

平成27年度  
理学療法特論Ⅳ(スポーツ障害理学療法)  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 理学療法特論Ⅴ（吸引・喀痰法）

□ 担当教員 河野 健一、長井 多美子

□ アンケート実施日 12月15日

□ 出席者数 19

## 集計データ結果について

授業の内容、授業の方法、授業担当者について、1項目「授業の内容がシラバスに沿ったものだったか」以外の全ては、おおよそ85%以上が5の段階評価をつけていた。

学生の授業態度については、「理解できない点の質問」、「予習復習」の項目において、数名（1～2名）が3の段階をつけていた。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見として、臨床を意識した講義でためになった、実技中心でよい経験ができたとのコメントが複数あった。

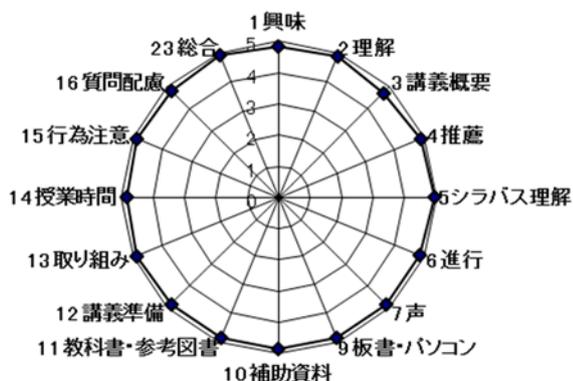
否定的な意見はなかった。

## 今後の改善に向けて

この講義では、喀痰吸引の経験を最終目標とし、そこに至るプロセスとして、まずはなにを学ぶべきなのか学生に考えさせ、学生自身にシラバスを考えてもらった。そうすることで学修目標が明確となり、取り組みの動機付けにつながったと考えられる。予習復習等の準備学修について、明確に実施内容を指示しなかった点を反省している。

また、本講義では、看護師の外部講師を招請し喀痰吸引の実際の実技を実施してもらった。その評価も高く、来年度以降も継続すべきだと考えている。

平成27年度  
理学療法特論Ⅴ(吸引・喀痰法)  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 生活環境論

- 担当教員 木村 菜穂子
- アンケート実施日 12月22日
- 出席者数 39

## 集計データ結果について

評価は概ね4以上と、大きな問題はないかと思いますが、昨年に比べ、若干低い点が気にかかります。

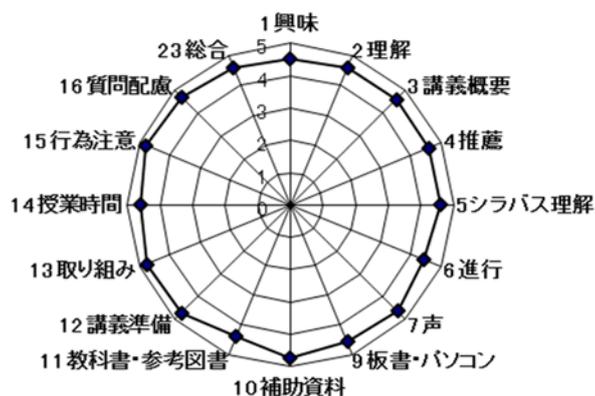
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

データでは昨年に比べ若干低くなっているのですが、理由を知りたかったのですが、自由記載はほとんどありませんでした。一部、「スライドが見にくかった」との意見をいただきましたが、具体的にどんな点が悪かったのかが分からず（書いてくださった学生さんもいますが）、困惑しています。

## 今後の改善に向けて

自由記載にあったスライドへのご意見については、来年度に向けてもう一度見直し、分かる部分に関しては修正を加えたいと思います。

平成27年度  
生活環境論  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 地域理学療法学

- 担当教員 木村 菜穂子
- アンケート実施日 11月17日
- 出席者数 41

## 集計データ結果について

今年は、平均すると各項目4以上の評価ではありますが、昨年に引き続き、「興味」「理解」について、低めの評価となっているように感じます。

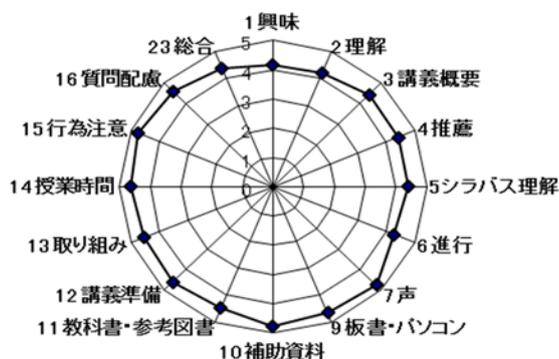
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

データ上では評価が低い内容もありましたが、自由記載はほとんど書かれていませんでした。「内容がまとまっていた」という意見もありましたが、「内容が多くて付いて行くのが大変」、「スライドを見て写すだけで疲れた」といった意見もありました。

## 今後の改善に向けて

講義内容は、シラバスでもわかるように、制度論（特に介護保険）が主ですので、覚えることや理解する必要がある点も多く、また理学療法士の仕事に直接的に結びつくイメージがわきにくい点は否めません。しかし、これから皆さんが理学療法士として高齢者と接していくためには、大変重要な内容だと考えています。何のためにこれらの情報を知っておく必要があるのか、ということについては講義中にも説明したと思います。「スライドを写すだけで疲れる講義だ」と感じている学生さんが多いとしたら、もちろん私自身の講義スタイルにも問題があるのかもしれませんが、その受け身な取り組み方は本当に残念に思います。

平成27年度  
地域理学療法学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 作業療法概論

- 担当教員 港 美雪、友宗 美菜子
- アンケート実施日 7月30日
- 出席者数 34

## 集計データ結果について

本講義の評価結果は、円グラフで見るとおおよそ「4～5」程度で円形となっている。やや、「取り組み」「進行」「興味」の点数が「5」に近く、「理解」の点数がやや低かったが、80パーセント以上の学生が「4」以上で、「5」は、53パーセントであった。理解をする必要のある範囲や段階を具体的に示しながら、能動的に楽しく参加できるグループでの取り組みなど、内容を工夫した。学生同士で意見交換をする時間をつくり、深く考え、理解できるようになるプロセスを踏むことができるように配慮した。またこれまでと同様に、能動的に理解できるよう、そして理解したことを表現することができる機会を設け、学生は個々に理解できた範囲で説明する機会を持った。またいつでもわからないことは教員に聞くことができるような雰囲気づくりに配慮した。

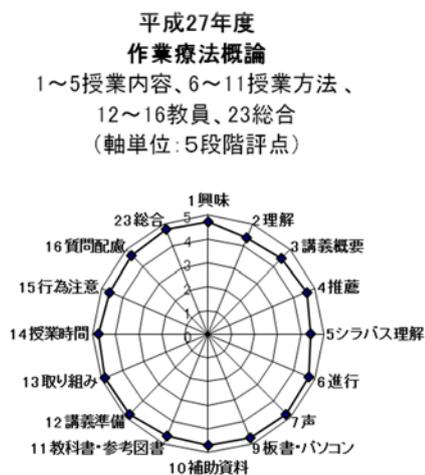
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対して、良かったこととして挙がっていた意見の多くが、本講義の狙いの一つであった能動的取り組みを引き出すグループワークに関してであった。たとえば、「グループワークが高校と違い楽しく、考え深いものでとても良かったです」、「作業療法についてよくわかりもっとたくさん学びたいと思った」、「とても楽しく授業ができた」、「グループで考えることがいろいろな意見や考えを学ぶことができた」などの意見が挙がった。

## 今後の改善に向けて

改善を求める声はなかったが、「難しい内容を何度か説明してもらえてよくわかった」という声があった。理解が難しい状況を確認しながら、理解につながり、能動的に、楽しく学ぶことができるようにしていきたい。

理解だけでなく、参加に関して困難がある場面に対しては、その課題を学生と共有しながら、学生自らが解決できる方法について、共に考え対応する機会をつくっていきたく考える。



# 科目名 作業療法研究法

- 担当教員 美和 千尋、港 美雪、加藤 真夕美、山下 英美、横山 剛、堀部 恭代、五十嵐 剛、草川 裕也
- アンケート実施日 11月30日
- 出席者数 42

## 集計データ結果について

評価は全て、平均④「どちらかといえば、そう思う」であった。前年度の統計の授業を教員に割り振って行ったことがこの満足度につながったと思われる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

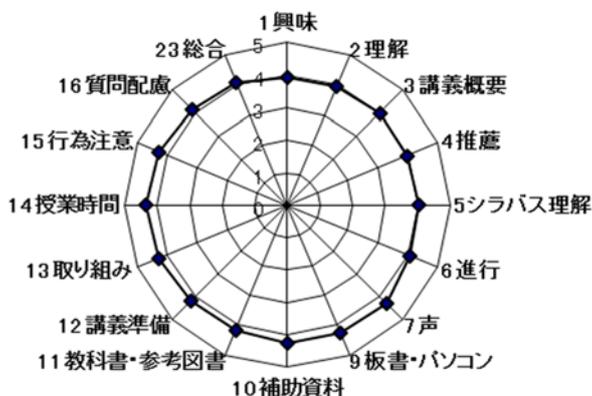
自由記載については、「先生の研究が聞けてよかった」という意見と「もう少し早く卒業研究に取り掛かりたい」「統計学のはなしをもう少し聞きたい」という意見があった。

## 今後の改善に向けて

教員の研究テーマを授業で報告すること、倫理書類の書き方を重要視して行った。以下今後の重要とする要点を述べる。

1. 研究で理解が困難な統計学を指導する先生に行って頂き、学生の理解をしやすいとする。
2. 卒業研究の計画は早期に行い、個別の働きかけをする。
3. 教員の研究テーマを授業で報告し、学生の興味が持てる研究テーマを自分で選択できるようにする。

平成27年度  
作業療法研究法  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 臨床運動学 (OT)

- 担当教員 加藤 真夕美
- アンケート実施日 11月19日
- 出席者数 42

## 集計データ結果について

5点が5割前後、4点が4割前後、3点が1割前後と、大きな偏りがなくバランスの良い評価であった。「2.理解」と「5.シラバス理解」のみ4点と5点の人数比が逆転しており、更に授業の進め方について改善の余地があると考えられる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

全体として「教科書の講義だけではなく動作を交えたため普段よりも真剣に取り組むことができた」「各疾患を疑似体験し、つらさや不安定さを感じることができたことが印象的だった」「実際にやってみることが多く、実習に活かそう」「体験を踏まえての授業だったので知識が入りやすかった」「質問がしやすかった」「説明やレジュメが丁寧でわかりやすかった」という肯定的な意見が多く、体験することの意義が学生によく伝わったようである。

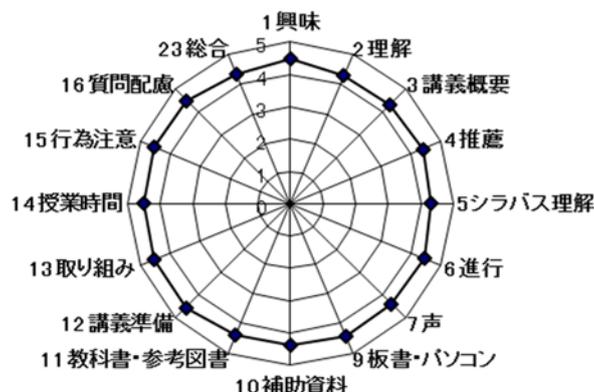
また改善すべき事項としては「もっと個人に詳しく指導してほしい」「時間が短く、グループの全員が体験できないことがあった。時間をもっととるか、人数の調整ができると良い」「もう少し実技をしたかった」というものがあった。実技時間とその個別指導を増やしてほしいとの意見である。これらを記載してくれた学生は決して授業に対して否定的ではなく、上記の肯定的な側面についても非常に熱心に記載してくれた。授業に対して熱心に取り組んだがゆえに、更に理解を深めたいという思いを表出してくれたようである。

一方で42名中6名が白紙の状態で提出された。3点あるいは2点の得点をつけた学生と連動しているかは不明であるが、これらの“ノーリアクション”の学生の方が気になる。

## 今後の改善に向けて

本授業は講義という形式の授業であるが、疑似体験しながらそれに関する知識をその都度入れていくことにより、共感的に対象者を理解することを推進している。そのことは、近い将来臨床実習に出た時に、まずは“自分なら…”という視点で対象者を理解し、目の前の対象者との相違をつぶさに感じとりながら評価し、介入手段を検討していくことの礎になる。実際に実習

平成27年度  
臨床運動学(OT)  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



に出た学生に意見を聞くと、教科書上の“頭だけの理解”だけに陥り目の前の対象者が見えないということにならぬよう、体験型の授業は継続していく意義がありそうである。

しかし、講義と体験を15時間という限られた枠に入れていくには、限度がある。体験中に感じた疑問に適宜答えられるよう巡回をしているが、その際に質問を出しやすいよう、各グループにこちらから疑問はないかなど問いかけるなどの工夫を心掛けたいと思う。

# 科目名 基礎作業学

- 担当教員 美和 千尋
- アンケート実施日 8月3日
- 出席者数 34

## 集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。また、昨年より点数は上がったように思われる。その理由は、昨年の評価レポートで 1. 次年度は出来るだけ多くの学生を指名する。2. テスト範囲を考慮する。3. 興味がわくような臨床的な話や理解が進むような日々の生活の中での話題を提供したからと考える。また、今年度は30分ぐらい復習をするようにして、前の授業とのつながりを大事にした。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

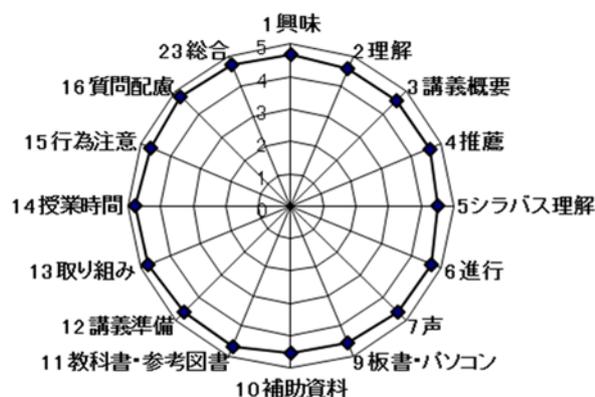
自由欄の記述では、1) 良い点として、「ペースがゆっくりだったので理解できました」「休憩する時間を作って下さったので集中して取り組みました」「ゆっくり進んでいたのをおいていかれず理解できました」だった。反面、2) 悪い面では、「図や表の説明があったがもう少し説明してもらいたかった」であった。加えて、「自分で聞きに行くようにする」といった前向きな意見も聞かれた。ほとんどが自由記載欄に記入することは無かった。

## 今後の改善に向けて

以上の集計データと自由記載欄の事項を踏まえて、以下のような改善を行っていききたい。

1. 次年度は多くの学生を指名し、積極的に関わられるようにする。
  2. ペースは今年度のようにゆっくり進めていく。
  3. 図表の説明など詳しくしていく。
- 以上である。

平成27年度  
基礎作業学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 基礎作業学実習

- 担当教員 横山 剛、森下 章生、鈴木 秀彦、加藤 真夕美
- アンケート実施日 2月4日
- 出席者数 33

## ✦ 集計データ結果について

すべての項目で5点に近い4点台の結果であった。  
 一部講義形式の座学であるが、実習スタイルの作業活動を行なうため、学生にとっては充実した時間となったのだと考えられる。

## ✦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

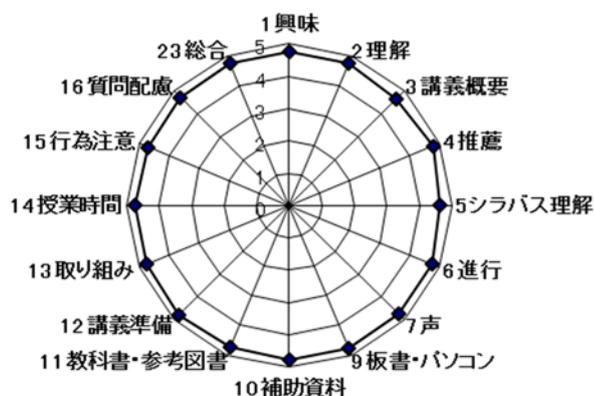
自由記載はほとんどないが、感想で「楽しかった」が10名程度いた。この感想のように学生にとっては「楽しい」体験であったのだと考えられる。

「木工の時間を増やしてほしい」との要望が1件あった。全体としてはゆったりした感じで授業日程を組んでおり、また十分に成果を出せない場合は、学生の希望により授業時間を延長したり、補習のような形で時間を設けているので、そういった時間を利用するようにしてほしい。

## ✦ 今後の改善に向けて

引き続き学生の学習意欲をそがないように継続していく。  
 「楽しい」の感想は大変好ましいのであるが、作業療法の場で利用できるようになるための授業の工夫が必要であるので、授業担当者間での調整をしながらテーマに沿った授業にしていく。

平成27年度  
 基礎作業学実習  
 1～5授業内容、6～11授業方法、  
 12～16教員、23総合  
 (軸単位:5段階評点)



# 科目名 作業療法評価法

- 担当教員 美和 千尋
- アンケート実施日 11月25日
- 出席者数 33

## 集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。また、全てが4.5以上だったので満足度が高い授業であるように思う。

その原因は、この授業は評価の概論の位置づけで内容が様々な分野の評価を扱っているためと考える。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

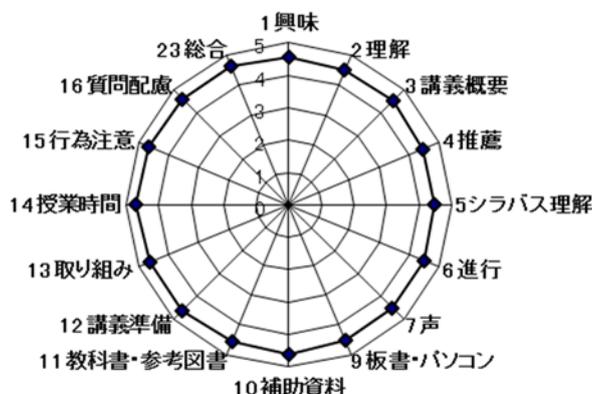
自由欄の記述では、1)感想では「作業療法士として評価が必要であると思いました」「間違え探しがおもしろかった」という良い点を述べる意見があった。また、逆に「デリカシーがない」という意見もあった。評価の時学生に評価を自分で行ったため、そのような意見もあったことと思われる。

## 今後の改善に向けて

以上の集計データと自由記載欄の事項を踏まえて、以下のような改善を行っていききたい。

1. 次年度は今年度と同様に行う。
2. 評価全体を網羅し、理解が十分できるように自分で評価を行う。
3. 評価は個人情報が入るのでそれを考慮して用いる。
4. テストの範囲も絞った内容にして、理解ができるようにする。

平成27年度  
作業療法評価法  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 作業療法評価法実習

- 担当教員 横山 剛・山下 英美
- アンケート実施日 6月5日
- 出席者数 44

## 集計データ結果について

「理解」の項目の点が低く、面接評価で他者を理解することに困難さを覚えた授業であったかと思う。全体のバランスはほぼ例年通りであり問題は無いと思うが、実践向けの授業であることを学生はよく理解することに努めるべきであり、そのことに教員も意識を最大限向けるべきであると考えている。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由記載は、様々であって一概にこうだとは言えないが、ポジティブな意見としては、こういった実践の体験ができて良かった、というような内容がみられた。普段何気なく他者と会話していても、意識して「評価する」といったことは無いであろうから、確かに新鮮な感じを受けたことであろう。また話されたことのさらに深い意味を探っていくことの重要性に気付いた学生もいることから、こういう実践の授業が必要であろうと考える。

ネガティブな意見としては、面接の実践を多くの人が観察していることに「こわかった」というものがあった。もちろんどなたの意見なのかは分からないが、これから臨床に出ていくのだから、そのことについて取り上げて対処することが必要であろうと考える。次年度は個別に相談できるようなシステムを慎重に作り、さらに面接評価の演習をしてよかった、と思えるような方法を考え出して実践したい。

## 今後の改善に向けて

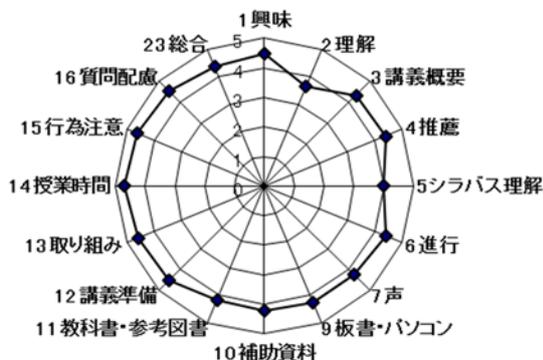
頭で考えることと実際の場面の大きな違いには気づいたことであると思う。作業療法は実践の学問であるからまたマニュアルを通して作業療法の実践はできないであろうから、実践の中からも気づきや知識が生まれてくるということについてももっともっと関心を示してほしいと思う。

学生がこれまで生きてきた中での「他者についての理解」の方法のみでなく、作業療法実践家としての技術や知識をもった中での「他者についての理解」ができるようになっていくための「実践の授業」として展開していきたいと思う。

そのために、もっと身近な対象者の理解をする機会としての面接の機会を設定し、より深いレベルの理解に至る経験をしていただく授業枠組みを設定することを考えている。

### 平成27年度 作業療法評価法実習

1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 身体障害作業評価学

- 担当教員 加藤 真夕美
- アンケート実施日 4月28日
- 出席者数 44

## ✖ 集計データ結果について

全体に5点が5～7割、4点が2～3割、数名が3点という評価で、概ね好意的な評価であった。本講義では、身体障害領域の作業療法について、時間的制約から特に心身機能の評価に限定して講義を進めている。

ここで配慮しているのは主に3点である。1つ目は、知覚や随意運動などについて、その基礎である解剖・運動・生理学の復習を丁寧に行うことである。1年次の基礎科目がなぜ必要だったのか、身にしみる学生は多い。2つ目は、各回の要点をまとめた小テストを各回の終わりに配布し、家庭での課題とすることである。基礎知識を確固たるものとして身につけるよう、復習の習慣化をはかるのがねらいである。3つ目は、心身機能評価がOTにとってなぜ必要なのかを、様々な側面から学生に伝え続けることである。例えば知覚機能が障害された場合、生活にどのような支障をきたすのか模擬的に体験してみることを課外学習として求めた。先の小テストと同時に課題を提示したところ多くの学生が実践し、感想を記述してくれた。

なお、1つ目の点に関して、昨年度は「解剖・生理学の内容がたくさんありすぎて理解するのが大変だった」「資料が多すぎた」との意見があったので、配布資料を整理し、教授方法も基礎知識に関しては極力分かりやすいよう内容を取捨選択し、簡潔な講義を心がけた。

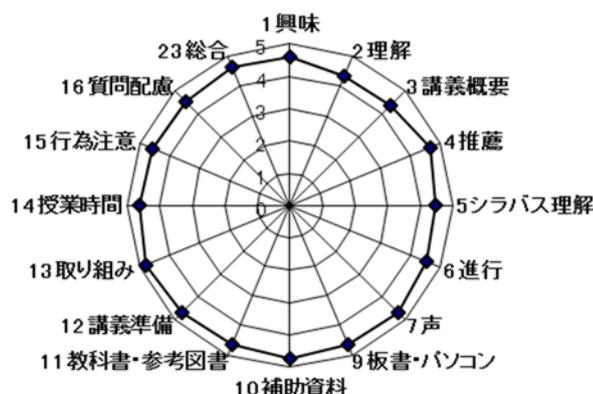
## ✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

「わかりやすいプリントがあったため授業に追いつけた」「予習・復習がしやすかった」「確認テストがあつて分からないところが明らかになった」「具体例を交えての講義だったため解剖学で分からなかった部分分かるようになった」

「実際に体験したことで理解が深まったし、眠気覚ましにもなった」「教え方が丁寧だった」「実習で見学した症例と繋がり興味が深まった」との肯定的な意見が多数挙げられた。①で挙げた3点の配慮がうまく機能したようである。

一方「途中で休憩をはさむのがよくわからなかった」「板書の字」「板書をすぐに消さないでほしい」との否定的な意見も挙げられた。休憩は基本的に指定時間通りだが、眠そうな学生が多かったり単元の切れ目などでは指定時間以外に休憩をはさんだりすることも稀にあった。その配慮を好ま

平成27年度  
身体障害作業評価学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



しいと思う学生が過去に多かったため継続したが、否定的に捉える学生もいるのかと気付かされた。

#### ❧ 今後の改善に向けて

概ね意図した通りの反応であり、試験得点も十分な学生が多かったため、授業構成に大きな問題はなかったと思われる。ただ、小テストを基にした試験でも十分に得点できない学生も少なからずおり、そのような学生の支援に向けて小テストや課題のフィードバックの在り方を見直していきたい。

休憩時間の意図に関しては、学生に十分に伝わっていなかったらしいとの反省から、今後はしっかりと伝えることとする。板書については初めて指摘があったことであり、学生の意見や要望を丁寧に聴取し、応えていきたいと思う。

# 科目名 精神障害作業評価学

- 担当教員 横山 剛
- アンケート実施日 7月28日
- 出席者数 45

## 集計データ結果について

例年のことであるが、「理解」の項目は他の項目に比べて低い難しさに触れる、という点において「理解」が低くなることはやむを得ないことであろうと考える。

目には見えないものを「理解」していくことの難しさについて「理解」していただきたいと考える。また学生の授業中の居眠りが多く観察され、そういう授業態度であるのに、「理解」が低い、というのは授業担当者として「理解」に苦しむところである。

今年度も引き続き、学習整理表・質問表を使用したが、質問ができない学生が増えてきており、学生の「理解」に関してはさらに工夫が必要であろうと考えられる。

講義の初回にシラバスのコピーを全員に配布し、読み合わせて全員に解説したのだが、「シラバス理解」が4点ほどであったことはやはり授業担当者として「理解」に苦しむところである。

全体的に例年のデータよりも平均値が下がってきている印象を受ける。このことを含めた講義計画が必要で老と考える。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

「難しかった」の記載が3分の1程度の学生にみられた。臨床に向けた授業であるため、「優しい」授業であるはずはないと思っており、学生のこれから臨床に出ていくための準備としての位置付けが学生は不十分であると思われる。その準備も含めて教員は講義計画を立案しないとならないのであろうと考えられる。

## 今後の改善に向けて

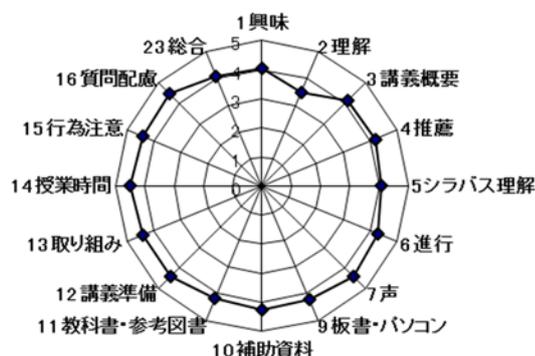
今年度、居眠りの対策としては、授業中に少人数のバズセッションの機会などを設けた。

このときは学生に積極性もみられたため今後も継続しようとする。

その他、臨床の話題を取り上げ、学生のなお一層の興味・関心を引く授業を計画する。

また、何かしらの学習への動機づけのプログラムが必要であると考えられる。

平成27年度  
精神障害作業評価学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 発達障害作業評価学

- 担当教員 五十嵐 剛
- アンケート実施日 6月15日
- 出席者数 44

## 集計データ結果について

ほぼ全ての項目で、平均点が4.5点前後という結果になった。特に推薦、補助教材の項目についての評価が高く、レジュメ資料やビデオ教材は有効であったことや、学生にとって概ね満足のできる授業内容であったことがうかがえる。一方で、板書・パソコンや教科書・参考書の評価は他の項目と比較して低い結果となった。

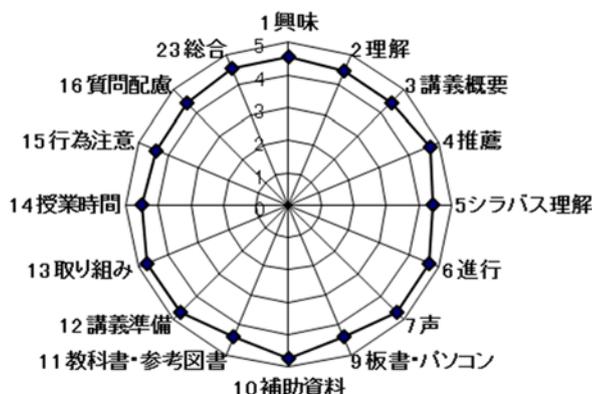
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

「ビデオで実際の反射や発達の流れがよく分かった」「レジュメが見やすく見返しやすい」「資料の色分けが分かりやすかった」など、補助教材の使用について好意的な意見が多く聞かれた。また、「感覚統合の話が興味深かった」「事例を通して考える事ができて良かった」「検査方法には色々ある事を知った」等授業内容についても学習を深める事ができていたものと考えられる。一方で、「N33 教室ではスライド資料の下のほうが見えにくい」という改善を求める意見も挙げられていた。

## 今後の改善に向けて

授業内容については概ね好評を得ていたものと考えられるが、スライド提示方法の工夫や教室環境の改善等に課題を残した。スライドの文字数を減らし、文字を大きくする等、見やすいスライド作りが必要である。また、検査法・評価法については紹介に留まっている事が多いため、具体的に経験する時間を増やし学生の学習をより深めることが今後の課題である。

平成27年度  
発達障害作業評価学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 作業治療学理論

- 担当教員 港 美雪
- アンケート実施日 5月28日
- 出席者数 42

## 集計データ結果について

本講義の評価結果は、おおよそ「4」以上であったが、「理解」の項目の点数のみ、やや低い結果となった。低い点数より「2」が5名、「3」が14名、「4」が14名、「5」が8名であった。一方、「興味」の項目の点数は、「1」、「2」につけた学生はいなかった。難しく理解が困難な点はあるながらも、関心は高く維持されていたことが考えられた。

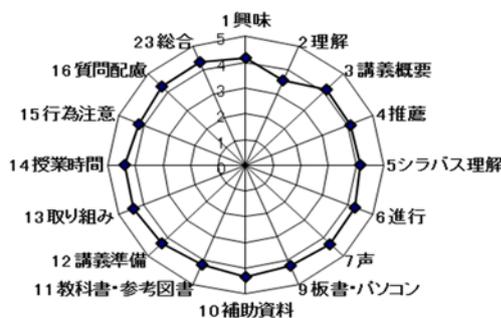
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対して、良かったこととして挙がっていた意見は、「難しい授業であったが興味がある授業でした」、「OTとは何かを自分で考えることができた」、「作業療法そのものと理論について詳しく学べてよかったです」、「もっと学びたいと思った」と、理解が困難な点がありながらも、学ぶことへの意欲が引き出されていたことが推測された。一方、改善すべき提案と考えられた意見に、「少し早かった」があり、検討が必要となった。

## 今後の改善に向けて

難しさがある中で、進行が早い状況があった反省点を踏まえ、今後の改善として、わかりやすく説明が書かれている資料を適宜紹介しながら、予習や復習につなぐことができる方法を検討していきたいと考える。また、学生にとって理解が難しかったことについて、しっかりと把握し、対応をしていきたい。

平成27年度  
作業治療学理論  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 作業療法治療学実習

□ 担当教員 山下 英美、横山 剛、堀部 恭代

□ アンケート実施日 12月11日

□ 出席者数 43

## ✎ 集計データ結果について

すべての項目の平均が4~5点との評価を得たため、授業の内容・方法等について、概ね問題無かったと考える。

## ✎ 学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの学生から「実習の心構えになって良かった」「実習のイメージができて良かった」「実習前にしなければならぬことを確認できたため、少し安心して実習に行けると考えた」などの記載があり、“実習への意識付け”を促す授業となったと考えられる。

一方、「もう少し早くこの講義を行って欲しい」との意見も複数あり、開講時期に関して、再考の余地があるかもしれない。

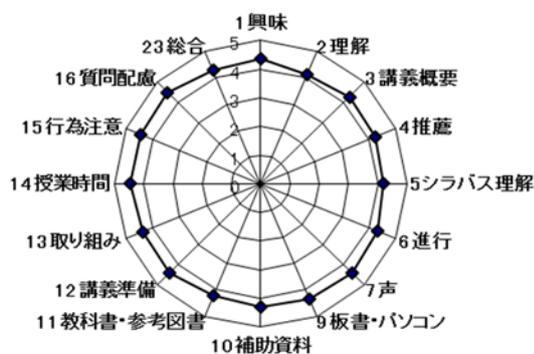
## ✎ 今後の改善に向けて

この科目の位置づけは、学生が評価実習・総合実習へ向けて知識を統合し、各自が必要とされる課題を明確にして取り組むための科目であり、その手段は各担当教員に任されている。昨年度は、学生の自由記載から、混乱がみられたことが推測され、教員間の統一性の無さが反省点として挙げられた。

今年度は、そういった記載は見られず、3名の教員の授業展開を統合して、学生が実習準備として位置付けられたとすれば、一定の改善がみられたともいえる。

しかし、この科目の最終的な目標は、評価実習・総合実習での学生の成長であると考え、実際の実習場面で、この授業の効果はどうであったのかを引き続き評価していくような視点を検討していく必要があり、さらに、より大きな効果上げる授業展開をブラッシュアップしていく必要があると考えられる。

平成27年度  
作業療法治療学実習  
1~5授業内容、6~11授業方法、  
12~16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



科目名

# 身体障害作業治療学 I

- 担当教員 堀部 恭代
- アンケート実施日 5月22日
- 出席者数 44

## 集計データ結果について

整形疾患における作業療法評価・治療について講義した。概ね4点以上の評価ではあるが、「理解」「授業時間」の項目の得点が低かった。理由としては、グループワークを取り入れたため、理解できている者できていない者の個人差が生じたことが挙げられる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

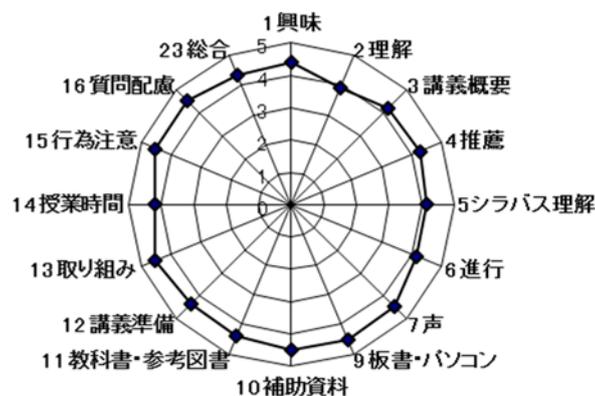
「評価・治療の作業療法プロセスを検討する経験し楽しかった」「自分で考えて難しかったが勉強になった」等の肯定的な意見がある反面、「グループワーク・発表のための時間が足りなかった」との意見も聞かれた。

## 今後の改善に向けて

学生が主体的に学ぶためには、一方的な講義ではなく、学生が自ら考え、形にするプロセスが必要であると考えている。しかし、その為には時間がかかり、今回の自由記載にもあったように時間が足りなくなってしまう。

学生に考えてほしいところの要点を絞る等の工夫が必要と思われた。

平成27年度  
身体障害作業治療学 I  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 身体障害作業治療学Ⅱ

□ 担当教員 加藤 真夕美

□ アンケート実施日 12月15日

□ 出席者数 45

## 集計データ結果について

全体に5点が5割前後、4点が3~4割台、3点が1割前後であった。ただ「2. 理解しやすいものだったか」のみ、4点と5点の割合が逆転した。また2点以下は、「20. 休まず出席できたか」の1名以外は皆無であった。バランスの良い評価と言える。

学生の多方面からの理解を促し、後で自主学習する際に困らないようにとレジュメに参考文献のページ数を記載したり、関連する新聞の切り抜き記事を配布したり、各疾患のテレビ映像を供覧したり、実技を交えた演習を行ったり、疑似体験を課題として課したりと工夫を凝らしたことが功を奏したと思われる。

一方「2. 理解」に関しては、本授業が年間予定の都合上、前期と後期の後半に分かれ、前期の記憶が薄れる中、後期に試験を受けなければいけなかったという状況が関係しているかもしれない。また、本授業は身体障害領域のなかでも中枢神経系障害、神経難病、内部疾患と多岐にわたり、30時間の中でそれらを消化するのは、多くの学生にとって大変な労力を必要とするものであったと考えられる。

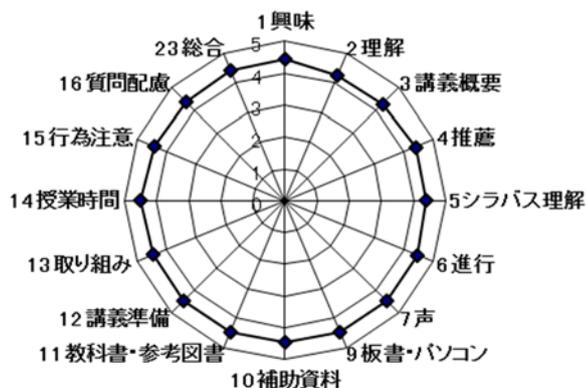
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

「進め方がちょうど良くついていきやすい」「模擬事例や教員が臨床で出会った患者のことが随所に取り込まれていてわかりやすかった」「レジュメがとてもわかりやすく復習するときに助かった」「レジュメ以外にも必要な情報をまとめてプリントにされていてとても臨床的な学びができた、他の授業でも役に立った」

「パーキンソン等のDVDを見たことが良かった」など肯定的な意見が多く挙げられた。上記①に記した工夫が、多くの学生に好意的に受け取られたようである。

一方、改善点としては「プリントが多すぎてファイルが一杯になってしまった」「前期と後期に分けずまとめて授業してほしい」との意見が挙げられた。資料は学生の理解を深めるために必要なものや臨床実習で役立つであろうと思われるものを用意している。学生によって受け取り方は様々であり、多くの学生は好意的に受け止めているが、資料の整理の仕方などから教授した方がよい学生も少数ながらいることも確かである。

平成27年度  
身体障害作業治療学Ⅱ  
1~5授業内容、6~11授業方法、  
12~16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



#### ☞ 今後の改善に向けて

本授業は一昨年までに比べ、カリキュラム編成により相当数の授業時間数が削減されている。昨年度も記したが、限られた時間数の中でいかに効率的に膨大な知識を伝えるか、更に工夫が必要である。ただ、昨年度の反省を基に、今年度は授業の進行としては比較的スムーズに進めることができた。次年度は、演習や課題を更に効果的に活用し、学生が主体的に知識を獲得できる仕組みを検討したい。

# 科目名 身体障害作業治療学実習

- 担当教員 加藤 真夕美、草川 裕也
- アンケート実施日 10月29日
- 出席者数 46

## 集計データ結果について

概ね8割の学生が4点あるいは5点であった。全体的には、適切な授業構成であったと言える。ただ、「2. 理解」「6. 進行」のみ2点の学生が数名ずつおり、それらの学生にとっては理解が不十分なまま講義が終了したことになる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見としては「基本となる評価を行うのに大切なものなので評価実習などで大きく役立つと思った」「説明が丁寧でとてもわかりやすかった」「先生が3名いて質問しやすかった」「模擬症例評価での先輩の説明がとてもよかった」「臨床のことを含めた話が聞けて良かった」「自習にも先生が協力してくれ嬉しかった。」「参考資料が記載されていた」「教員の実技を交えた説明の後学生が実技を行ったので、わかりやすかった」などが挙げられた。1時間ごとの授業の構成、教員の役割、資料、自習への協力などについて、学生にとっても概ね適切な学習意欲を引き出すことのできた授業であったと言える。

一方、「授業時間数を増やしてほしい」「ROM、MMTを授業の中でじっくり学びたかった」

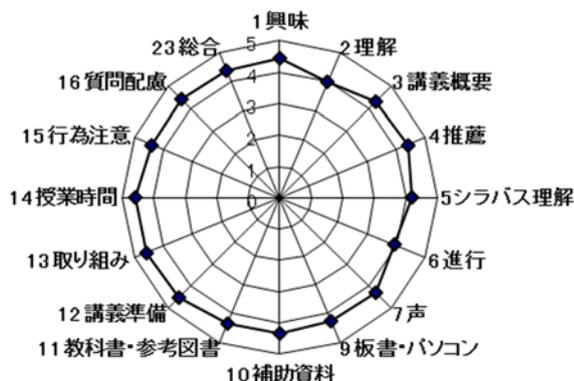
「授業時間が短い中試験に挑まなければならないので困った」「模擬症例評価の時間がもっとほしい」「テストでは男女が混ざるので実技試験順序を再考しても良いのでは」「声が聞きづらい時があった」などの要望および否定的意見も挙げられた。多くは授業時間数の不足に関するものであり、本授業が直面している課題でもある。

## 今後の改善に向けて

本授業では、他の授業で学んだ評価技術（主に身体機能評価）の技術習得を目指すことを主目的としており、試験では、自習学習を含めた練習の成果を測ることになる。授業中は、2名の教員と1名の助手の合計3名が室内を巡回し、随時学生の質問に答えたり、うまくいっていない学生のフォローをしたりという役割をそれぞれが果たしている。授業の終盤では、総合実習を終えた3年生に模擬症例を演じてもらい、本授業で学習した評価技術を実践する場を設けた。

昨年度よりカリキュラムが変更され、総時間数が一昨年度以前に比べ2/3となっている。限られた時間数の

平成27年度  
身体障害作業治療学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



中で多くの評価技術を習得するため、授業時間外での学生の自主的な取り組みが要求される。昨年度の授業評価を受けて、今年度は夏季休暇中に補習を2度開いたが、参加率は約5割であった。この他にも教員を巻き込んで自主的に練習会を開いていた学生らも複数おり、参加率の高い学生ほど実技試験での合格率は高い傾向にあった。いかに学生の自主的な取り組みを引き出し、参加率を高めるかが、今後の課題である。

一方学生の要望として挙げた声の伝わり具合については、話す時の立ち位置に配慮したいと思う。また、試験順序については、その是非も含めて検討すべきことであると思う。

# 科目名 精神障害作業治療学

- 担当教員 美和 千尋, 慶野 裕美
- アンケート実施日 12月22日
- 出席者数 27

## ✎ 集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。また、ただ、④評価ギリギリであったため、全体に検討を要するとも思われる。

## ✎ 学生の自由記載の内容を検討した結果

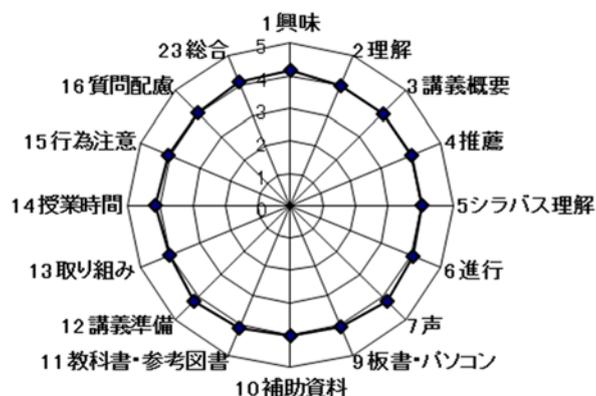
自由記載では「精神疾患について学べてよかった」「貴重な乗馬療法の話が聞けて、1つの知識を深めることができた」という良い点を評価した意見と「教科書を読むのではなく経験を話して欲しかった」という要望があった。

## ✎ 今後の改善に向けて

以下の3点について今後働きかけたいと思っている。

1. 出来るだけ臨床現場のことを話す時間をもうける。
2. 報告形式は、残して学生が主体的に取り組める時間を維持する。
3. 評価と治療が結びつくような授業を心がける。

平成27年度  
精神障害作業治療学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 精神障害作業治療学実習

- 担当教員 港 美雪
- アンケート実施日 11月17日
- 出席者数 42

## 集計データ結果について

本講義の評価結果は、おおよそ4を示したが「理解」がやや低かった。学生は42人のうち、「興味」の項目の点数は、「2」につけた学生が1名、「3」が8名、「4」が25名、「5」が8名であった。

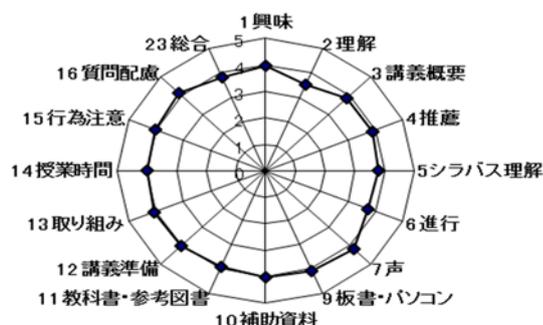
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対して、良かったこととして挙がっていた意見は、「新しいことを知ることができて楽しかった」、「グループで様々な意見交換ができて良かった」などが挙がり、グループで積極的に楽しく意見交換できた場合は、主体的に学ぶことへの楽しさを実感したことが推測された。一方、改善すべき提案として挙がった意見に、「精神障害の方のイメージがつきにくく難しさを感じた」「グループワークがたいへんだった」が挙がった。精神障害のある人との関わりをほとんど経験していない中で、治療計画を検討することに限界があったことが推測された。また、意見があまり出されないグループでは、グループワークにたいへんさを感じたことが推測された。

## 今後の改善に向けて

学生が精神障害を有する人の作業的なイメージが可能となるよう、動画を見ることや直接当事者との関わりを経験できるような計画を検討したい。また、グループづくりに十分配慮し、グループでの意見交換が積極的になされるようなグループ構成や、具体的な課題に取り組めるよう配慮すること、また教員の関わりをグループの様子を観察しながら適宜行う配慮を行っていきたいと思う。

平成27年度  
精神障害作業治療学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 発達障害作業治療学

- 担当教員 五十嵐 剛
- アンケート実施日 8月5日
- 出席者数 43

## 集計データ結果について

全ての項目について4点以上となっており、概ね好評な結果であったと考える。「6.進行」「7.声」「12.講義準備」「13.取り組み」「14.授業時間」については他と比較しても高い値となっていた。一方で「5.シラバス理解」「15.行為注意」については、他と比較してやや低い値となった。

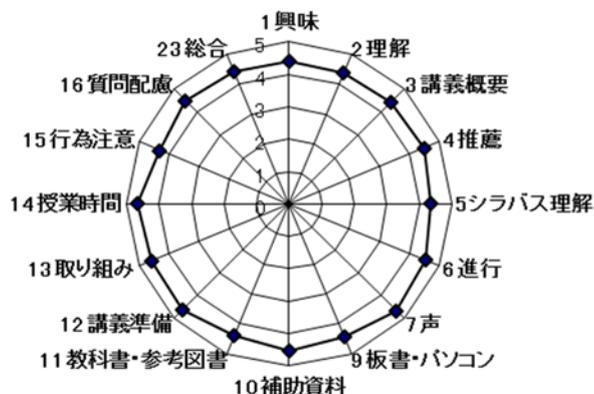
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

補助教材（配布資料やビデオ）について好評な意見が多く聞かれた。発達障害領域は実習地も少なく、多くの学生にとって実際の障害像をイメージすることが難しいと考えられることから、特にビデオ教材は有効であったと考えられる。また、今年度は講義の一部をPBLで行ったが、これに関しても「事例を通じて考える力がついた」という意見が聴かれた。一方、否定的な意見として「N21のスクリーンが暗くて見難い」「電気を消すため手元の資料が見難い」といった声が挙がっており、教室環境の整備が望まれる。

## 今後の改善に向けて

来年度GPA導入に向けても、シラバスを今まで以上に分かりやすく作成することが必要である。またスライドを利用した講義を行う場合には、上記の通り教室環境に対する不満も挙がるためハード面の整備も必要である。講義としては、可能な限り障害像のイメージを持たせるため、視覚的な補助教材（ビデオや写真など）を有効に利用していくことは継続していかなければいけないと考えられる。

平成27年度  
発達障害作業治療学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



科目名

# 発達障害作業治療学実習

- 担当教員 五十嵐 剛、草川 裕也、田原 靖子
- アンケート実施日 2月22日
- 出席者数 40

## 集計データ結果について

集計結果はバランスのとれた円形のグラフとなった。全ての項目について平均4.5程度の評価を得ており、概ね好評な内容であったと考える。

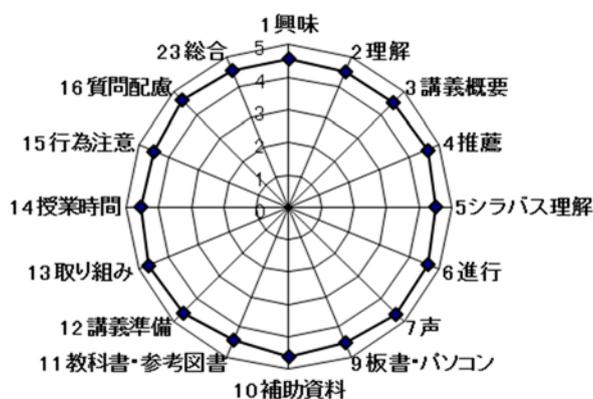
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

「実際に園児と関わり、園児の成長を感じることができた」「園児との関わり方を考え、経験することができた」「発達段階を考えながら関わることもできた」等、実際の園児と関わるという実習内容に対して好意的な意見が多かった。また、「準備が大変だったが園児の笑顔を見ることができて良かった」という意見もあった。一方で、「学生の人数が多いため園児との関わりに制限があった」という意見も挙がった。

## 今後の改善に向けて

実際の園児と関わるという貴重な経験のできる講義であるため、「楽しかった」「面白かった」といった感想レベルに留まるのではなく、園児との関わり方を考えながら実習できた等の意見が挙がったことは喜ばしい。次年度も園児と関わる目的を明確にした実習となることが望ましい。

平成27年度  
発達障害作業治療学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 老年期作業療法学

- 担当教員 山下 英美
- アンケート実施日 12月1日
- 出席者数 42

## 集計データ結果について

すべての項目で4点程度となっており、内容・方法等に大きな問題は無いと考えられる。しかし、4.5を超えたものはなく、改善の余地があると考えられる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

例年同様「MMS, HDS-R などの評価が実際にできて良かった。」「老年期の OT とはどんなものか、認知症についてよく分かりました。」といった記載があり、臨床をイメージしやすい内容にしたことは効果的であったと考える。

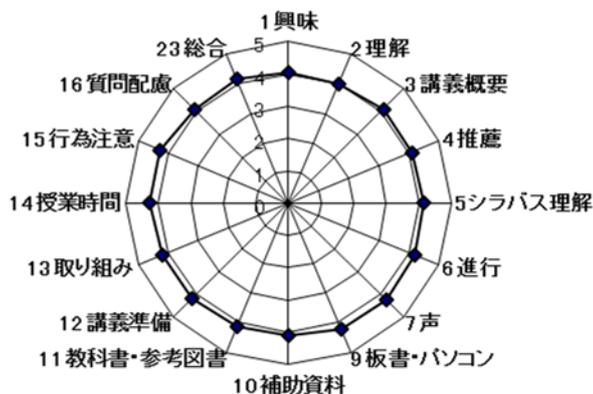
また「プリントに要点をまとめていただいたので、自習をする際にも分かりやすくとても助かりました。」との記載があり、プリントも理解を助ける役割を果たせたかと思う。

## 今後の改善に向けて

やはり、興味をいかに引き出すかについては、引き続き演習を取り入れることと、臨床の話題をさらに増やすこと、さらに事例を通して学生に考えさせたり体験させるといった、能動的な学習の場面を増やすように工夫していこうと考える。

そして、高齢社会の現状と共に、認知症支援や介護予防といった、地域での作業療法士の役割についても、社会からの要請が高いということとを伝え、学生の学習意欲の向上に繋げていきたいと考えている。

平成27年度  
老年期作業療法学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



科目名

# 日常生活作業学 I

- 担当教員 美和 千尋
- アンケート実施日 7月28日
- 出席者数 34

## 集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。また、昨年度より評価は良かった。ただ、評価の中で「9. 板書・パソコン」は④ぎりぎりだった。

これらの理由は、昨年度この授業は作業療法における作業活動の一つである日常生活活動の概論の位置づけで、1年生の学生にとっては教科書の内容を理解することは難しかったことがあり、授業の始めに復習をすることにより理解が深まったと思われる。また、教科書全てを教えるのではなく、大事なところに絞ったことも良かったと思う。ただ、教科書主体のため、板書やパソコン機器は使用しなかったことが9.の評価を下げたと思われる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

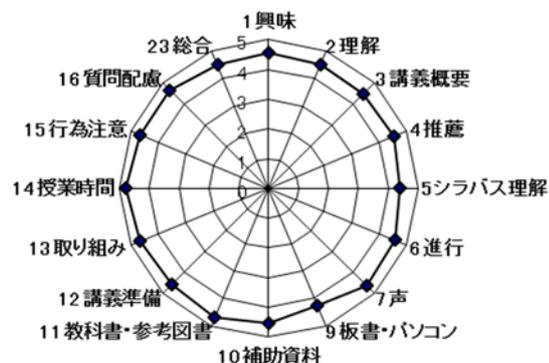
自由欄の記述では、1) 良い点では「自由な感じが良かった」「毎回くわしくわかりやすい説明で良かったです」「話が分かりやすい」「開放的な感じである」「興味を持って取り組めたので良かった」「図や表などの説明はわかりやすかった」「症例があり理解するのに助かった」「ペースがゆっくりで理解しやすかった」「休憩時間がありよかった」「教科書を使って、流れのある授業だった」「生徒に質問して退屈にならなかった」「毎回復習時間があったので、覚えやすかった」などが書かれていた。反面、2) 悪い点では「授業が止まる時が多かった」「黒板に書いて説明するとわかりやすいと思います」などの点を記述されていた。概ね、良い点の意見が多かった。

## 今後の改善に向けて

以上の集計データと自由記載欄の事項を踏まえて、以下のような改善を行ってきたい。

1. 今後も指名して参加形式の授業を行う。
  2. 板書も利用して行う。
  3. 興味がわくように臨床的な話の話題を提供したい。
- 以上です。

平成27年度  
日常生活作業学 I  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 日常生活作業学Ⅱ

- 担当教員 堀部 恭代
- アンケート実施日 7月30日
- 出席者数 46

## ㊦ 集計データ結果について

得点は概ね4点以上であった。その中で「理解」の得点がやや低かった。この原因について検討する。本講義では、講義の前半に30分ほどの講義を行い、その後60分は学生がポートフォリオを作成するという講義形式とした。質問は随時受け付け、学生全体が知っておくと良さそうな質問については全体に向けて解説を行った。また、講義後に質問票を配布し、次の講義時に解説をした。

主体的に学べるようにと考えた講義であったが、主体的に学ぶ習慣が乏しい学生がいたことが考えられ、今後、対応が必要と思われる。

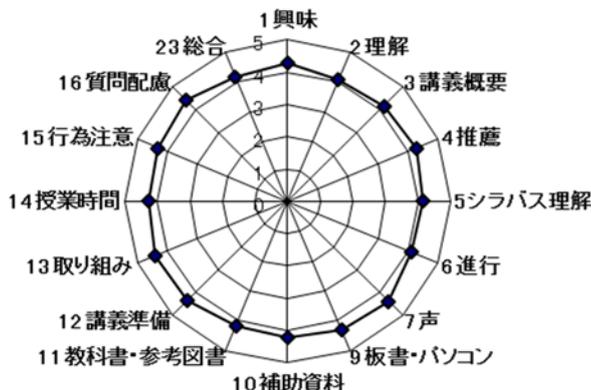
## ㊦ 学生の自由記載の内容を検討した結果

肯定的な意見としては「自分でやったので達成感があった」「自分の苦手な部分が理解出来た」「大変勉強になった」があり、否定的な意見としては「すごく難しかった」「課題作成が大変だった」があった。講義内容に関する内容よりは、課題に取り組んだことへの意見が多く聞かれ、課題(ポートフォリオの作成)そのものが大変であったことが推察された。

## ㊦ 今後の改善に向けて

②でも述べたように学生にとってポートフォリオの作成が難しかったと思われる。これに対して、課題の提示の仕方や、課題の内容や一度に取り掛かる範囲を吟味することが必要と思われる。

平成27年度  
日常生活作業学Ⅱ  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 日常生活作業学実習

- 担当教員 堀部 恭代
- アンケート実施日 11月25日
- 出席者数 45

## 集計データ結果について

集計データの数値は平均して4点であり概ね良好な結果であった。しかし、「理解」「シラバス理解」では数値がやや低く工夫が必要であると思われる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

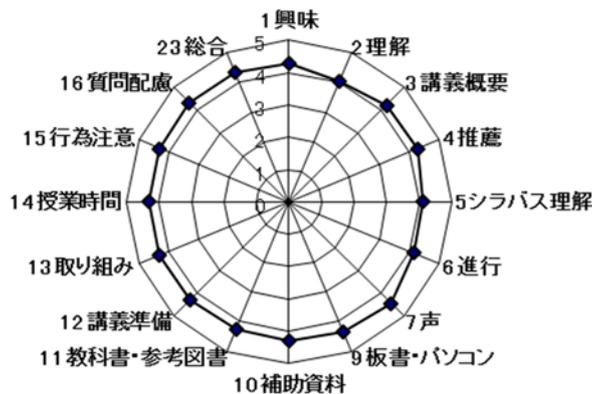
本授業は、3年生が臨床実習で実際に担当した事例を、3年生自らが模擬事例として演じ、その模擬事例の日常生活作業について2年生が評価し、目標・治療プログラムの立案をするものである。グループワークを中心に進めていく授業である。この授業に対して肯定的な意見としては「実際に評価を経験できてよかった」「面接の難しさが分かってよかった」「実際に体験してはじめて分かることが多くあった」「先輩方に意見が聞けて良かった」があった。反対に、否定的な意見としては「グループの中に全くやらない人がいるのに点数がもらえるのは良くない」「レポートの提出期限が短い」というものがあった。

## 今後の改善に向けて

本授業はグループワークが中心であり、その為、課題に積極的に取り組む者とそうでない者の差が出てしまう。「理解」が低い要因としては、課題をグループのメンバーで分担して取り組み、全課題を経験していないということが考えられる。

今年度は、グループレポートと個人レポートを2つの課題を出していたが、来年度は個人レポートの内容や配点を検討し、学生の理解を促していく。

平成27年度  
日常生活作業学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 高次脳障害作業治療学

- 担当教員 岡田 智子
- アンケート実施日 8月3日
- 出席者数 45

## 集計データ結果について

おおむね「4」以上であったが、「声の聞き取りやすさ」は低めであった。  
 「声」については、例年「聞き取りにくい」、「早口」と自由記載されていたが、今年度はそのような指摘は無かった。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載への記述は、45名中13名だけであり、例年に比べてかなり記載が少なかった。記載された内容は、「教材であるプリントについて」、「内容について」の2種だった。また、1名から、講義日程変更について苦情があり、私自身の都合で変更させてもらったことから、大変申し訳なかった。

「教材であるプリントについて」は2名が好評な記載があったが、1名は「形式をそろえてほしい」とのことだった。障害内容別にプリントを作成するため、全てのプリントの形式を揃えることは難しい。

「内容について」は、「難しかった」「授業についていけなかった」と、それぞれ1名いたが、その他は、好評だった。具体的には、「実際の症例を例に出しながらの説明で、分かりやすかった」「実習に向けて、患者との関わり方も教えてもらえてよかった」というようなものであった。講義内容としては用語の説明だけでは理解しにくいいため、私の臨床での症例を挙げることは常に意識していた。また、学生には臨床実習や実際に作業療法士になって臨床で働くことをイメージしつつ講義を受けてほしいと思い、今年度は実際に起こりうる失敗例や、私自身の失敗体験、また、それらに対する対処や反省を多めに加えつつ講義を進めた。これに対する学生からの反応が少しでもあって良かった。

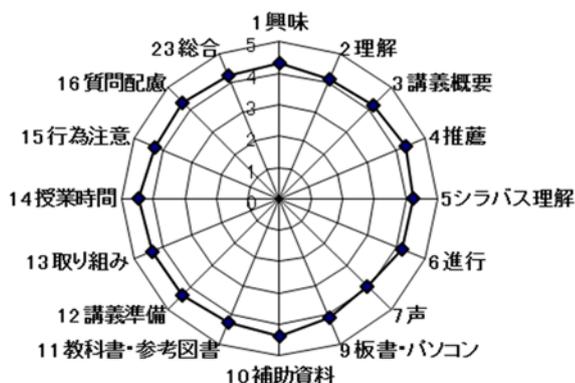
## 今後の改善に向けて

今年度で最後の講義となった。この科目は、9年間担当してきたが、例年、臨床での話は好評であったようである。もっとVTRなど視覚教材があればさらに良かったが、用意することはできなかった。

また、年が経過する毎に、講義内容を減らしていき学生のレベルに合わせていった。もっと絞って、演習に時間を割いた方が良かったかもしれない。

今年度は初めて前期に講義があったため、実習結果などから日程についてもご検討いただければ幸いです。

平成27年度  
 高次脳障害作業治療学  
 1～5授業内容、6～11授業方法、  
 12～16教員、23総合  
 (軸単位:5段階評点)



# 科目名 義肢装具作業療法学

- 担当教員 小澤 義直・草川 裕也
- アンケート実施日 5月30日
- 出席者数 43

## 集計データ結果について

総合的に良好な結果となったが、下記記載の通り生徒個々の意見を反映させより良い講義となるよう工夫していきたい。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

教科書の該当ページが分かりづらいと指摘があったが、講義用スライドの記載が見えにくかった生徒もいたと思われる。今後は、見やすいようにスライド右上に記載する。

プレゼンテーションが見づらかったという指摘があったが、今後は、スライドのデザインを見直していきたい。

また、テストの範囲を、明確にしてほしいという指摘があったが、全8回で、400ページの教科書すべての範囲を学習することになるため、内容を吟味し、教科書のページをしっかりと示しながら、ポイントを絞って進める必要があったと思われる。小テストを入れる等改善をしていきたい。

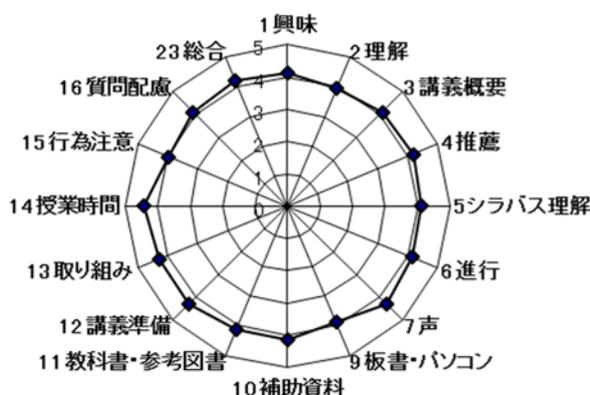
しかしながら、「実物の装具を体験することができてよかった」、「実演を見られたのはよかった」という声もあり、義肢装具の実物や製作場面を見る事ができたことはよかった。自分で「製作したい」という反応もあり、実習前の講義として、適切であったと思われる。義肢装具製作会社からの義肢装具士が、教えるメリットを最大限に生かすことができた。体感できる講義を続けていきたい。

## 今後の改善に向けて

講義時間数に対して範囲が広いため、講義速度が速くなりがちになり難しい印象を受けた生徒もいたかと思われる。上記にも記載したがポイントを絞り、臨床で役に立つよう印象に残るような講義にしていきたい。

装具に比べると、義肢に関する情報は、作業療法士になかなか入りづらい。しかしながら、技術の発展によって、日々新しい構造、機能が生まれている。また、必要な部品の選択や調整などは、作業療法士が関わることが少ないため、専門家である義肢装具士にしか伝えることができない内容も含まれている。そのため、非常勤講師を迎える必要はあると考える。

平成27年度  
義肢装具作業療法学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 義肢装具作業療法学実習

- 担当教員 草川 裕也、五十嵐 剛、八幡 濟彦
- アンケート実施日 7月31日
- 出席者数 45

## 集計データ結果について

平均が概ね4以上となり、総合的には良好な結果となった。

「15. 行為注意」の評点がやや低く、今後は厳しく対応していきたい。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

「もう少し実習の機会がほしかった」という意見があったが、材料費がかかるため、装具製作の時間を増やすことはなかなか難しいと思われる。しかし、端材を利用して、小さい装具を製作する機会や、アルミホイルを利用した擬似製作体験の時間を増やすなどして、実習の機会を増やしたい。

また、「義肢や装具を実際に、色々なものを見てみたかった」という意見があった。写真を見る時間は多くあったが、実物に触れる機会がほとんどなかった。校内に展示されているものや自分で製作したものを持ち込み、実際に触れる・使用する時間を作るようにしたい。

さらに、「装具をつくること以外で、何を伝えたいのか分からない」という意見があった。装具製作が本実習の内容であるが、作業療法における治療の一手段であることを理解してもらうために、手の外科疾患のリハビリテーションについてもグループで検討してもらった。この部分で消化不良を生じたと思われる。

手の外科疾患を理解するためには、解剖学・運動学の基本的知識が不可欠であり、本実習を通して、その知識が不足している学生が多いことが分かった。疾患や病態の理解が不十分なため、リハビリテーションの内容を検討することが難しかったと

と思われる。解剖学・運動学を振り返る時間を設け、疾患の理解度を

確認しながら実習を進める必要がある。加えて「図書室に資料が

ほぼない」という意見があり、提示したケースワークが難しすぎたとも思われる。症例については、見直していきたい。

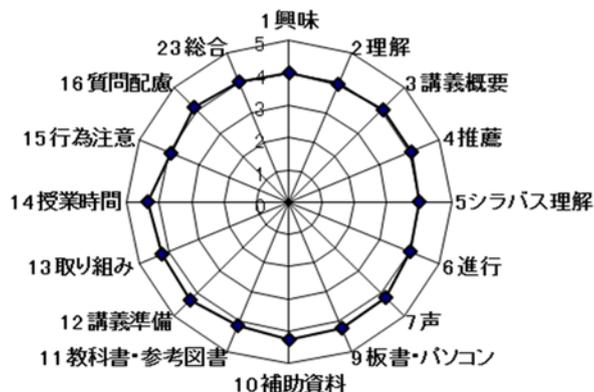
一方、「装具を実際に作ることができて良かった」や「楽しかった」という意見があり、一通り製作を体験できたことは良かった。

また、グループワーク後に補助資料があり、分かりやすかったという意見があり、資料を用いることは続けていきたい。

## 今後の改善に向けて

装具の製作時間は現状維持、も

平成27年度  
義肢装具作業療法学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



しくは増やす方向で考えていきたい。しかし、材料費を節約する必要があるため、製作するものを検討する必要はある。

また、義肢・装具の実物に触れる時間や実例を提示する時間を作り、実物に触れるところから、その装具の理解を深めていきたい。

さらに、他の講義と関わることであるが、疾患の理解のためには、解剖学・運動学の基本的知識が不可欠であり、それらをしっかりと復習しながら、疾患・病態を理解できるように、計画していく必要がある。復習の機会を作るようにはしていきたい。

# 科目名 作業科学

- 担当教員 港 美雪
- アンケート実施日 11月17日
- 出席者数 28

## 集計データ結果について

本講義の評価結果は、おおよそ「4」から「4.5」であった。「取組」と「質問配慮」がやや高かった。作業療法実践の課題からはじまり、英語の研究論文の検索、内容を実践の課題に活かすという流れの比較的難しい内容であったが、「理解」「興味」についても、ともに、4以上であった。

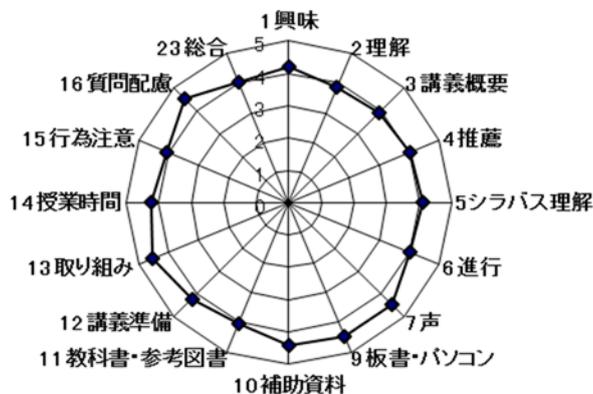
## 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対して、良かったこととして挙がっていた意見として、「就職後、どのように知識を深めていけばよいかという指針が身についたと思う」「難しかったけど英語の論文を読むのは楽しかった」「論文を読む習慣をつけることで知識が増え英語力もあがり考える視点が広がってよいと思いました。」「作業科学は少し難しく大変でしたがもっと学びたいと思いました」「ディスカッションがよかった」「課題内容がわかりやすかった」など、臨床実習を終えた学生にとって、学びが良かった内容であったと思われる。

## 今後の改善に向けて

本講義では、課題への取組とその結果発表を学生は行ったが、発表方法を学ぶことができるように、具体的に発表内容の枠組みを今後は提示していきたい。

平成27年度  
作業科学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 人間作業モデル論

- 担当教員 美和 千尋
- アンケート実施日 11月10日
- 出席者数 29

## ✖ 集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。ただ、その中でも、「理解」「講義概要」「推薦」「板書・パソコン」が低かった。

その原因は、今年度初めて行ったため、まだ授業として整っていなかったことが挙げられる。

## ✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

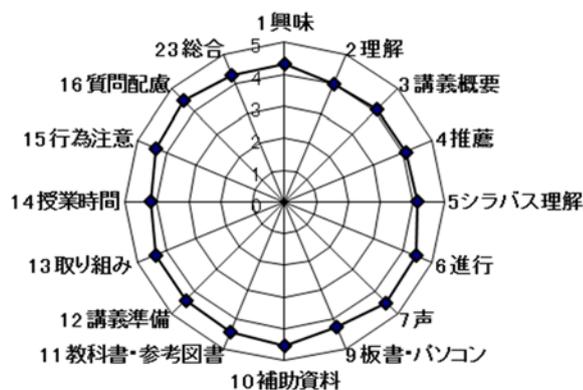
自由欄の記述では、「難しかったがすこしでも理解できた」「わかりやすい」「プリント事例がよかった」「人間作業モデルについて知ることができた」「興味が持てた」「文献等が理解を助けた」「興味があつたのでおもしろかった」「プリントがわかりやすかった」「国試のことも考えながら授業を進めたところがよかった」などという良い点を述べる意見が多かった。この時期は、3年の終わりだったので具体的に聞けたと思う。

## ✖ 今後の改善に向けて

以上の集計データと自由記載欄の事項を踏まえて、以下のような改善を行っていききたい。

1. 講義の概要について検討する。
2. 人間作業モデルを用いた事例を増やす。
3. スライドを利用する。
4. 国家試験に役立つ内容にする。

平成27年度  
人間作業モデル論  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 リハビリテーション関連機器

□ 担当教員 草川 裕也

□ アンケート実施日 7月6日

□ 出席者数 44

## ✖ 集計データ結果について

平均が4以上となり、総合的には良好な結果となった。

## ✖ 学生の自由記載の内容を検討した結果

プレゼンテーションが見つらなかったという指摘があったが、今後は、スライドのデザインを見直していきたい。文字が小さいとより見づらい傾向があるため、文字の大きさに特に配慮したい。

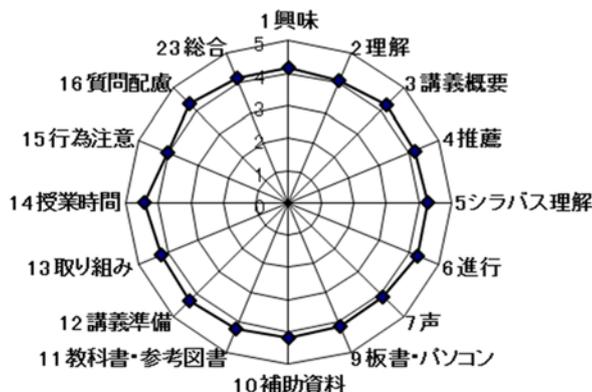
他の班の資料も欲しかったという意見があったが、1グループにおける資料の量が多くなり、それを全員分印刷するとなると、かなり膨大な資料になってしまうため、今回は全員に配布することをしなかった。コンパクトにまとめられるように内容を見直し、全員が他のグループの考えも共有できるようにしたい。

「事例の評価結果が複雑だった」、「症例の情報が少ない」、「事例の設定が曖昧だった」という指摘があった。事例をもとに、グループワークを行ったが、必要な情報のみを選択し、生かしていくということが難しかったのかもしれない。情報の量を減らしたり、考えていく道筋をもう少し示すなどして、限られた情報で、必要な手段を考えていけるように進めていきたい。また、もう少し自分で考える内容にしてほしいと指摘があった。上述のように、事例の選択、内容ともに再検討していきたい。

実際の臨床における写真などを使用したことがよかったようであった。できるだけ、写真や動画などを使用していきたい。

また、実物を展示会で見ながら、体験しながら学習できたことはよかった。個人によって差はあるが、展示会で業者の方と話をしながら、学ぶことができ、貴重な体験になったと思う。

平成27年度  
リハビリテーション関連機器  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



## ✖ 今後の改善に向けて

グループワークにおけるケーススタディの内容については、見直しが必要である。事例の情報をできるだけ絞り、もう少しグループで考えながら進められる内容にしていきたい。また、他のグループの意見を見ながら、意見交換やまとめなどをしっかりと行える時間を作りたい。

授業のプレゼンテーションについては、プロジェクターを使用しても見やすいように、デザイン

や文字の大きさに配慮していきたい。

福祉用具の授業であるため、器具を実際に見たり、触ったりすることで興味は深まり、楽しく取り組めるという反応が見られた。今後も、展示会の見学、写真や動画を使用した講義を行っていきたい。

# 科目名 地域作業療法学

□ 担当教員 堀部 恭代

□ アンケート実施日 9月25日

□ 出席者数 40

## 集計データ結果について

得点は概ね4点以上であった。その中で「理解」の得点がやや低かった。この原因について検討する。本講義は授業時間が8コマと少なく、学生の理解を深めるためにレポート課題を課している。課題は、学生自身の親類が障がいを負ったこと想定した事例検討であり、個別に取り組む課題が異なる。そのため、友人同士で相談し難かったことや、教員に個別に相談しにくく、不明な点を曖昧なままにしてしまった学生がいたと思われる。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

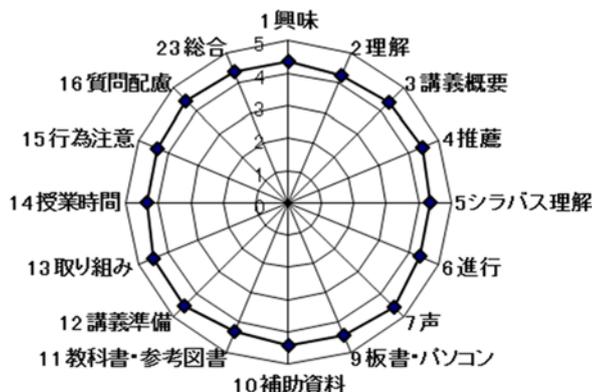
ポジティブなフィードバックとしては、「課題を通して理解が進んだ」「作業療法プロセスが理解できた」「地域作業療法の必要性が分かった」などが見られた。反対にネガティブなフィードバックとしては、「レポート課題が大変だった」「難しかった」があった。

これらから、レポート課題を通して多くの学びを得ていることが伺えるが、レポート作成時の支援に工夫が必要であると思われた。

## 今後の改善に向けて

少ない授業数で、学生の理解を深めるための手段として、レポート課題を課すことは効果的であると思われるが、教員に相談しやすいような工夫が必要であると思われた。具体的には学院用のパソコンメールアドレスを伝え、やり取りをしたり、教員に相談できる時間帯を学生に明示するなどである。これらの案を吟味し、取り入れながらよい方法を模索していきたい。

平成27年度  
地域作業療法学  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 地域作業療法学実習

- 担当教員 山下 英美、横山 剛
- アンケート実施日 12月21日
- 出席者数 34

## 集計データ結果について

すべての項目について4点程度の評価を得ており、内容・方法に関して大きな問題はなかったと考える。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

「自分で企画し実践することや、チーム連携の難しさを学びました」との記載がみられ、科目としてねらっていた結果が得られたと考えられる。

一方「施設についての情報をもっと詳しくお願いします」「どのような方がいるかわからない中で1回行っただけなので、もっと近い場所で何回かできるようにしてほしい」との記載もあり、実習の構造の限界もあるが、できるだけ情報を提供したり、構造そのものを再検討する必要もあると考える。

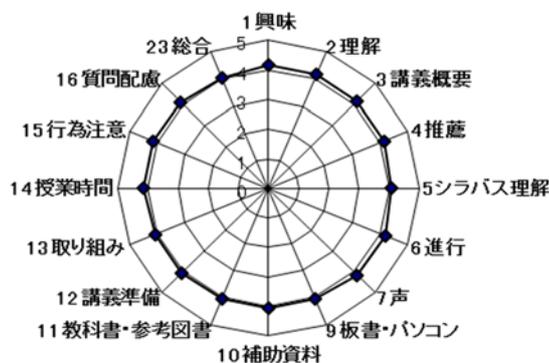
## 今後の改善に向けて

例年と同様、グループワークの進め方が未熟な学生の存在を予測したうえで、教員側からも学生の状況について注意を払うとともに、グループワークそのものに関する指導を行っていく。

また情報に関しては、できるだけ事前に提供したいと考えるが、学生自らが、レクリエーションを実施する際に、どのような情報が必要なのかを考え、行動するように促す指導も必要であると考え。

さらに、併設のデイケア施設での実習の可能性も視野に入れ、検討していきたい。

平成27年度  
地域作業療法学実習  
1～5授業内容、6～11授業方法、  
12～16教員、23総合  
(軸単位:5段階評点)



# 科目名 就労支援学

- 担当教員 港 美雪、齊藤 陽子
- アンケート実施日 12月16日
- 出席者数 29

## 集計データ結果について

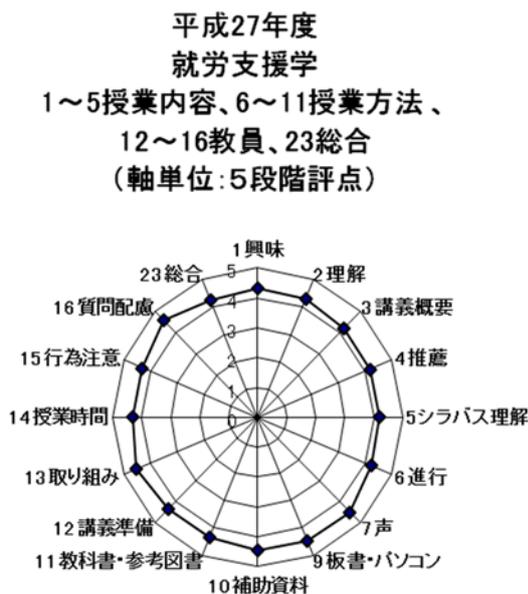
本講義は、全国でも著名な、病院での就労支援プログラムを開発した作業療法士の非常勤講師の授業を含め、将来的に作業療法士がどのような理論や手段によって就労支援を実施できるのかを教授した。また国家試験の出題傾向と出題範囲に基づいた問題を取り上げた。本講義の評価結果は、質問項目すべてがほぼ同じで、おおよそ4.5であった。

## 学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対して、良かったこととして挙がっていた意見として、「みんなで問題を作り、問題を解き、解説もつくった。どれも理解が深まった。」「OTとして先進的な取組をされている非常勤講師の講義があり、今後のOTとしての視点を広げることができた」「今の時期に授業はやめてほしいけれどためになった」「国試対策にもなってよかった」などが挙げられた。就労支援に取り組む齊藤先生の講義の内容はとても実践的で、貴重な内容であったことを学生も実感したようだった。

## 今後の改善に向けて

外部から、実際に先駆的な就労支援のプログラムを病院において開発した作業療法士の非常勤教員の講義は、今後も重視していきたいが、次年度は事務的な手違いで講師に来ていただけなくなった。そのため、論文を紹介するなど対応はしたい。今後は、事務的な手続きが理由で来ていただけられないことがないようにしたい。また国試対策の形態を活用した講義は、学生のモチベーションがあがるため、今後も検討し、継続することを考えていきたい。



編集委員

舟橋 啓臣 (FD&SD委員会委員長)  
鳥居 昭久 (FD&SD委員会)  
河野 健一 (FD&SD委員会)  
堀部 恭代 (FD&SD委員会)  
清島 大資 (FD&SD委員会)  
草川 裕也 (FD&SD委員会)  
田原 靖子 (FD&SD委員会)  
松浦 智美 (FD&SD委員会)

2015 年度 学生と教員が共に前進する授業評価レポート

発行日 平成 28 年 4 月 30 日  
発行者 学校法人 佑愛学園  
愛知医療学院短期大学  
〒452-0931 愛知県清須市一場 519  
TEL 052-409-3311  
<http://www.yuai.ac.jp>